

忌避するが如き消極的政策を極端に支持せざるべからざる理由を認め能はぬ。

若しも我が國民經濟の立場より見て、政治財政上の壓迫を感じべしとせば、それは國債よりも寧ろ龐大なる官營事業を最とせねばならぬ。此の故に、吾々は現に特別會計に屬する官營商工業の大部分——鐵道・電話・專賣事業・陸海軍工場・製鐵及製絨所等——を擧げて總て之を民營若くは半官半民事業に移しては何うか(後に述ぶ)。そして其の財源を以て産業の開発、指導、保護、獎勵に充當することが、姑息なる緊縮政策や、非募債主義乃至消費節約よりも遙に効果的なる方策では無いかと考へる。いはゆる産業合理化は先づ此の官業の民營化に就いて

審議せらるべきであらう。

要するに日本の國民所得より概觀したる我が國民生活の實態は、未だ十二分に國富を利用せず、利用すべく全能力及全能率を發揮せず、制度的にも、財政的にも、經濟的にも、贅冗不合理の事實が極めて多い。英・佛・伊に見るが如く、必ずしも國債の負擔が多大なのではない。それより行政及軍事費の負擔こそ國民所得に釣り合つてゐない感がある。而も之が改革意識に鈍さがため、主要列國中の最下位に低迷しつつあるの憾みを禁じ能はぬ。随つて今後の大方策としては、人口問題の場合に於けると同様、國策を産業爲本主義に大定し、總ての組織と努力とをして國民の所得を増加せしむべく政治經濟の建直しに集中すること以外に、難局打開の途はあり能はぬ。金解禁が根本の問題でもなければ、公債整理が唯一の政策でもない。それは局部的、技師的に見たる一箇の方策である。如何に國民を多幸にし、其の生活を安定せしむるかは、如何に此の人口を働かし、如何に其の收益を増進せしむるかに歸着する。



# 第四章 國際經濟に於ける日本

## (一) 貿易の現勢

現代の國民生活は、最も緊密なる關係に於て、常に世界的國際經濟の支配、若しくは其の幼き影響の下に立つ。日本橋橋下の水がタイムス河に通じてゐるだけではない。思想や、空想の交流に地理的關所が無いのみではない。より更に切實なる意味に於て、「經濟に國境なし」といふ事實を拒むことが出来ないものである。それは國民自身が之を自覺しつゝありや否やの問題ではない。又國民それ自らが之を好むや否やの問題でもない。奪ふべからざる現實が、之を國民生活の上に持ち來さずには措かないのである。そして總ての國民をして厭が應でも國際的經濟戰の立場に追ひ立て、其處に各自の運命を決せしめるのである。

それ故に我が國民生活の實態を見出す爲には世界に於ける我が國民の經濟的地位の如何に在るかを見通してはならない。既に人口國富及國民所得の現勢について、一應の觀察を試みたる吾々としては、即ち茲に第三の研究問題に到者したのである。

世界に於ける我が國民の經濟的地位は、無論各種の方面から考察されねばならないが、其の立場及其の動きを何よりも簡明且率直に表現するものは貿易關係である。國際的經濟戰の勝敗は極めて特殊の例を除き實際には貿易の盛衰如何に依つて決定される。同時に、それが國家の盛衰、國民生活の禍福を寫象する。反射鏡ともなるいはゆる。國際貸借の關係が何れの國に於ても非常に重要視せらるゝは、それが又國際的經濟爭覇戰の清算であり、國民それ自らの運命問題たるが故である。

さて然らば我が國の貿易狀態は如何に在るか。

日本貿易趨勢 (單位百萬圓)

年次	總額	輸出	輸入	出超	入超	人口一人當(單位圓)	
						輸出	輸入
明治元年	二六	一六	一一	五	一	—	—
同 十 年	五一	二三	二七	—	九	〇・六七	〇・七九
同 二 十 年	九六	五二	四四	八	—	一・三四	一・一三
明治三十年	四二七	一六五	二六二	—	九六	三・八二	六・〇五
同 四 十 年	九五八	四五四	五〇四	—	五〇	九・二四	一〇・二七

大正元年	一一九二	五四八	六四四	—	九六	一〇・五一	一四・三四
同 五 年	一九二四	一一五三	七七一	三八三	—	二〇・八八	一三・九五
同 十 年	二、九八六	一、三〇九	一、六七七	—	—	—	—



明治元年	二六	一六	一一	五	九	一	一四・三四
同 十 年	五一	二三	二七	八	九	〇・六七	〇・七九
同 二 十 年	九六	五二	四四	八	一	一・三四	一・一三
明治三十年	四二七	一六五	二六二	一	九六	三・八二	六・〇五
同 四 十 年	九五八	四五四	五〇四	一	五〇	九・二四	一〇・二七

大正元年	一、一九二	五四八	六四四	九六	一〇・五一	一四・三四
同 五 年	一、九二四	一、一五三	七七一	一	二〇・八八	一三・九五
同 十 年	二、九八六	一、三〇九	一、六七七	一	三六八	二九・九三
昭和元年	四、五二四	二、〇九八	二、四二六	一	三二七	三八・六八
同 二 年	四、二六二	二、〇四四	二、二一八	一	一七四	三三・三四
同 三 年	四、一六八	一、九七二	二、一九六	一	二二四	三一・七四
同 四 年	四、三一五	二、一二二	二、一九二	一	七〇	三五・三五

百萬圓以下の數は四捨五入す、輸出入超過額の差引計算に若干不揃ひの分あるは之が爲なり。

明治時代は毎十年、大正時代は毎五年の計數を示す、昭和三年分は特別品を含まず。

本表は朝鮮・臺灣等植民地の移輸入を含まず。

明治十年以後の過去半世紀間に於て、我が貿易總額は約八十倍したが、之を人口一人當りに換算すれば輸出に於て約四十七倍、輸入に於て約四十五倍餘の増加である。但し此の間に於て物價も亦、甚だしく昂騰し、例へば明治十年頃の米價が白米一石六圓内外なりしに對し近年は三十圓内外を上下し、殊に酒煙草類の如く税金關係よりして著大の騰貴を示せるものもあり。隨つて前表の金額に比例して實際の生産量がそれだけ増加したとは看做されない。同時に人口の増加と生活の向上とに依る消費の増進を計量するに於ては、其の生活狀態が實質上果して往時よりも安樂なりや否やは單に外觀を標準としてのみ斷言し能はぬ。

否、既に前表に依つて明かなる通り、我が國の貿易額は開國以來殆んど輸入超過の連続である。明治の初年及び明治十二年頃より同二十六年頃迄の間に於ける數年を除けば、輸出超過の事實を示したことがない。それでも我が國民は自覺せず、自覺せぬが故に、未だ産業國策の確立を見ず、そして今日の國難を持ち來したのである。唯だ此の間、大正三年より同七年に至る間、歐洲戰爭の影響に依り意外の好況を呈し、此の數年間に約十四億圓の出超を告げたのが日清戰爭以後に於ける記録破りであつた。しかし此の好況も戦後忽ち以前の狀態に逆戻りし、加ふるに關東大震災の打撃を受けたため、大正八年より昭和三年迄の入超額は合計約三十三億圓（植民地を通算せば四十億圓）にも及んでゐる。此の現象は我が國民の生産高が未だ需用量に伴はず、人口の増加と生活上の要求とを満たし能はざる反面の事實を立證するものと解し得る——輸入品中には他日の生産原料及生産機關として必要なる種目を含むが故に、必ずしも全部的に悲觀するは當らず、又此の事實を以て直ちに借金生活の現はれとのみ看做すべからざるは無論であるが——隨つて單に貿易額の躍進的數字を見て國民生活の多幸を祝福する能はざるは、既述、國民所得の増進率のみを見て生活安定、民力充實の左券と爲す能はざると同様である。



翻つて之を主要列國の貿易状態と對照すればどうか。

主要列國貿易一覽 (昭和二年)

支那	濠洲	白耳義	和蘭	伊太利	佛蘭西	獨逸	米合衆國	英吉利	日本	輸出入 (百萬元)		同上國民一人當 (單位圓)	
										出	入	出	入
一、二一一	一、三四五	一、四七六	一、五二九	一、六〇三	四、三四八	四、八七七	九、五四五	六、九一五	一、八九三	一〇、七〇一	一、九九九	三〇	三三
一、二五八	一、五四六	一、六二〇	二、〇五一	二、一〇五	四、一六一	六、七四三	八、三四三	一〇、七〇一	一、九九九	一五二	一五二	一五二	二四〇
三	二二〇	一八七	二〇三	三九	一〇六	七六	八一	一五二	三〇	七六	七五	七五	七五
三	二五二	二〇五	二七二	五二	一〇二	一〇五	七五	二四〇	三三	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五

日本は大藏省貿易月報、他は國際聯盟統計月報に據り換算す。

支那の如きは別問題として、日本の貿易高が主要列國と比較し、如何なる状態に在るかは國民一人當りの數字を一目すれば直ちに分明する即ち輸入に於ても、我が國は尙ほ上記列國中の最下位に在り英・米・和・白及濠洲等に比し多大の隔りが見受けられる。慘烈なる戰禍を被れる佛・獨に比しても著しく遜色を示し、唯僅に伊太利と稍々近似するに過ぎない。この明瞭なる事實は言ふ迄もなく我が國民が未だ國際的經濟爭覇戰に於て歐米主要國と比肩し得るだけの貿易能力を發揮せざるが故であり、生産及通商の二つながら未發展の過程に在るものたるを表示する——日本の如く原料に乏しき國に在つては生産事業の振はざる限り、輸入も通商も減退する。故に輸入の減少は喜ぶべきが如きも、其の反面に産業の幼稚不振、隨つて輸出の減退を伴はざるを得ない。別言せば我が國の經濟環境は大いに原料を輸入し、それに加工精製することに依り、輸出を増進し得る立場に置かれてゐるのであるから——

尙こゝに一言を加ふべきは貿易以外に於ける國際勘定の事である。其の主目は外債利子の受渡し、外國投資の配當、外國航路の運賃收入移民の送金内外人の旅行に由る消費、保險料及保險金の受渡、外國と外國との間に於ける商業取引に依つて收得する利益等は經常的のものとし、更に臨時的には政府及民間に於ける外資の輸入又は外國への投資、公債、社債の賣買、外國に於ける土地の購入又は賣却等がある。前

記列國中、英・米を始め、佛・伊・和蘭・白耳義の如きは何れも貿易上の輸入超過國なれども、是等國際上の受渡勘定に依り多額の收入あるを知らねばならぬ。



の反面に産業の幼稚不振、随つて輸出の減退を伴はざるを得ない。別言せば我が國の經濟環境は大いに原料を輸入し、それに加工精製することにより、輸出を増進し得る立場に置かれてゐるのであるから——

尙こゝに一言を加ふべきは貿易以外に於ける國際勘定の事である。其の主目は外債利子の受渡し、外國投資の配當、外國航路の運賃收入移民の送金内外人の旅行に由る消費、保険料及保険金の受渡、外國と外國との間に於ける商業取引に依つて收得する利益等は經常的のものとし、更に臨時的には政府及民間に於ける外資の輸入又は外國への投資、公債、社債の賣買、外國に於ける土地の購入又は賣却等がある。前

記列國中、英・米を始め、佛・伊・和蘭・白耳義の如きは何れも貿易上の輸入超過國なれども、是等國際上の受渡勘定に依り多額の收入あるを知らねばならぬ。

我が日本に於ては是等貿易外の受取高は、其の支拂高よりも多く、歐洲大戰當時にはそれが五億圓以上に達したこともある。最近數年來は上記經常及臨時的の兩者を合して

貿易外の國際收入 (單位百萬圓)

大正十二年	三八四	昭和元年	一七七
同十三年	四二〇	同二年	六二
同十四年	二一八	同三年	一一一

となつてゐる。即ち此の金額だけは、我が國毎年の貿易入超額を緩和してゐるのである——大正十二年の貿易入超額は我が内地のみにて五億、十三年は同じく六億臺を突破したが、此の一兩年來は二億乃至一億圓以下に漸減しつゝある。但し朝鮮臺灣の分を合算すれば、我が貿易入超額は其の上約一億圓を加ふ——故に概括的には我が貿易入超額が朝鮮及臺灣を加へて一億乃至一億五千萬圓程度に止まるに於ては前記貿易外の國際收入に依り略々國際貸借の均衡を保持し得るが如くなれども、そは唯消極的計數に過ぎない。試みに大正十二年以來の國際貸借關係の帳尻を合算するに、總計約十四億圓の不足額を示してゐるのであつて、此の不足額こそは、短期信用關係に於て一時的手段を講ずる以外、結局我が國正貨の減少に依り清算されるのである。仍て參照の爲に歐洲戰爭終結後に於ける我が正貨の各年現在高を表示する。

正貨現在高 (單位百萬圓)

大正九年	總額	政所		内地	海外
		府	有別		
同十年	二、〇八〇	日本銀行	一、〇六一	一、〇六二	
同十一年	一、八三〇		八八七	一一六	八五五
同十二年	一、六五三		七九一	一二五	六一五
同十三年	一、五〇一		六六七	一一五	四四五
同十四年	一、四一三		五二六	二〇八	三二六
昭和元年	一、三五七		四二四	一七五	二五八
同二年	一、二七三		三三三	一五九	二三〇
同三年			二八三	一二七	一八六
同四年			一九二	〇八一	



同 三 年 一、一九九

一、一五 一、〇八四

一、〇八五 一、一四

各年度の正貨減少高が、貿易入超額對貿易外收入の差額よりも寡少なるは、その間公私外債の發行及外國證券の賣拂等に依り正貨を補充せるに據る。  
尙昭和六年一月金解禁當時の正貨保有高は十一億圓餘であつたが、同年四月には八億圓臺になつた。

斯くして大正九年約二十二億圓を有せる我が正貨は、其の後多額の公私外債に依り補充せられたるにも拘はらず、表の如く年々に減少したのである。そして更に、昨年及本年金解禁後に於ける正貨流出高（本書校正の時既に二億三千萬圓内外の正貨流出となり、それに在外正貨支拂高を加ふれば約五億圓の減少を傳ふ）を計算せば果して如何。吾々が産業發展を基調とする國策の樹立を提唱するは、無論、この經濟的難局面を打開せんが爲に外ならない。それは消極的なる國民消費の節約に依り、國際收支の均衡を圖るが如き退嬰算を唯一の手段とするにあらずして、我が生産事業の振興に依り、積極的、進取的に世界經濟戰場に於ける優勝者の地位を戦ひ取らんが爲である

### (二) 明瞭なる實物教訓

上述の如く、我が國の貿易が尙ほ主要列國中の最低位に在ることは、産業不振及未開發の象徴であり、殊に輸入超過の逆調は生産と消費との不均衡、即ち其の生産力の増進が消費の必要量に伴はざる反映に他ならざるを以て、國民經濟上の根本方策としては、單なる國際貸借の均衡に焦心することよりは、ヨリ熱烈、ヨリ眞剣なる自覺意識の下に、生産増加を第一義として極力猛進せなければならぬのである。

無論、我が國の生産力が比年長足の進展を示しつつあることは事實である。それは前掲貿易表の數字に徴しても之を推知し得るが、併し我が國の生産事業は本來其の開國、其の世界進出の遅かりし關係に依り、最初の出發點に於て歐米列國に比し甚だしく立ちおくれであり、且つ人口の増殖率高く、又國際的環境の變化に促されて國民それ自らの需用量は急速なる激進を示しつつあるが故に、種々の點に於て未だなかなか先進國に追いつくことが出来ない。國際聯盟所屬調査報告に據れば最近約二十年間に於ける世界の總生産高の増加率は、假りに歐洲戰爭勃發の前年を基準一〇〇とせば、平均一八%であるが、日本のそれは農林・商工兩省の統計表より見て少くとも三〇%以上の實質的増加を認めしむるに充分である。だが、それにも關はず或種の品目、若しくは財界の變態的事情による個々の生産制限其他特殊の例は別として、全般的意味に於ける我が生産力が國民の需要を滿たし得る迄に立ち至つてゐないことは、下記貿易品の主なる種目を見れば即座に判明する。

昭和三年重要輸出品 (單位千圓)——輸出總額一、九七二萬圓

品名	單位	昭和三年	
		數量	價額
米	及	八四、三三七	一、二七七
豆	類	八一五、七四七	一〇、四〇〇

小 麥 粉 同  
茶 同

二、三七二、三二九  
一八〇、〇二九

二四、七一八  
一一、八四八



般的意味に於ける我が生産力が國民の需要を満たし得る迄に立ち至つてゐないことは、下記貿易品の主なる種目を見れば即座に判明する

昭和三年度重要輸出品 (單位千圓) — 輸出總額一、九七二萬圓

品名	單位	昭和三年	
		數量	價額
米	百斤	八四、三三七	一、二七七
豆類	同	八一五、七四七	一〇、四〇〇

小麦粉	同	二、三七二、三二九	二四、七一八
製茶	同	一八〇、〇二九	一一、八四八
精糖	同	三、七九七、四八五	三八、四一四
水产品	同	八九六、一二八	一七、三七五
寒天	同	二一、四九七	四、一四二
罐頭	同	—	一八、五七三
清酒	石	二一、〇五七	二、九一九
麥酒	同	四一、〇一七	四、四一二
毛皮	同	—	三、〇二四
植毛物	百斤	一六五、三三六	三、九三三
樟腦油	同	三五、二三三	一、〇〇三
薄荷油	同	四、〇四八	二、〇七五
魚油	同	六一九、二七一	八、一六二
木蠟	同	四四、八四三	二、〇八八
除蟲菊	百斤	一〇四、五四八	七、四八七
樟腦	同	三六、六〇七	五、四四七
薄荷	同	三、二三五	三、九一四
薄荷	打	一五五、七三四	一七八
燐寸	同	—	五、一一七
綿織	百斤	二二四、九六八	二五、八九四
綿縫	同	四、四七七	五八五
毛絲	同	八、五〇九	九一八
玉絲	同	一、九三九	五六六
屑絲	同	六五、三二三	九、九三二
生絲	同	一、二九二	七三九
生絲	同	四、七一二	一、八六七
生絲	同	五四七、九四六	七三二、六九七



屑綿及屑綿絲	同	二六三、一九六	四、七五七
綿織物	同	三五二、二一七	三、三四〇
毛織物	同	五二八	二、六一五
モスリン	同	一三四、〇五九	二、七八七
羅紗及セルヂス	同	二八、〇七七	一、五〇三、一一〇
絹織物	同	一、五七九、六六〇	三、三九五
綿ブランケット	百斤	一、五〇三、一一〇	二、三三二
絹手巾	打	一、五七九、六六〇	一、七七三
綿タオル	同	一、五七九、六六〇	一、七三三
敷布	同	一、五七九、六六〇	一、七三三
漁網	百斤	一二、三五二	三三、三〇一
メリヤス製品	千打	一一、三九九	一二、一九四
帽子	同	一一、三九九	一、〇八五
綿縮襪	打	三一一、八二五	七、六五三
紐釦	同	三一一、八二五	一、七〇〇
キモノ	同	三一一、八二五	二五、六七二
紙類	同	三一一、八二五	一、三八九
書籍及雜誌類	同	三一一、八二五	二四、五一三
石炭	英噸	二、一五〇、四三二	六、八八五
セメント	百斤	四、九二九、五五七	三四、六四二
陶磁器	同	四、九二九、五五七	一六、一八六
硝子及同製品	同	四、九二九、五五七	二、二八八
條、竿及板鐵	百斤	二四六、三四六	五六三
銅板	同	一〇、〇六七	一、五九九
銅線	同	三三、二六九	五、五七六
眞銀	百斤	一二四、六〇三	二、七八五
絶縁電線	同	四三、三七四	一三、六八三

鐵製品  
安知母尼製品

同

同

一三、六八三  
一、四二〇

八四五











綿織絲	同	一〇、九九二	一、五六二
大麻黃麻及マニラヘンブ	同	九四六、八七九	一七、四八〇
羊毛	同	八八〇、五一六	一一一、八五六
毛織絲	同	八、七四六、七〇二	三二、一〇七
蘭	同	一七、八七九	一、五三三
人生造絹絲	同	二、一六五	二、六二七
人造絹	同	一、九二五	四五六
綿織物	千方碼	一二、四四五	七、四三四
毛織物	打	一五、四四五	三一、二二三
フェルト帽子	百斤	一、二三八、三二一	一、〇六六
製紙バルブ	同	七、四〇六、〇四三	一一、四五四
紙類	同	一九、〇七四	一三、七二四
書籍及雜誌	同	七、八八八、五六八	二、二八七
石絨及同製品	千斤	二、七三四、九三一	三、六九八
燐石	百斤	三、三八九	一一、九七七
硝子板	英噸	六四六、八六五	三六、九七五
白鐵	瓦	九四八、九一三	五、八九四
銑鐵	百斤	二二、八四七、六〇三	二〇、八一二
鐵類	同	六、一二〇、一一九	三、〇八二
層及故鐵類	同	一五五、六一三	二二、二五四
アルミニウム	同	三四一、〇七二	一一九、三四五
銅	同	一〇、四三、〇五〇	一三、三八六
鉛	同	六八、二一六	九、三六〇
錫	同	六八五、八六五	一三、四〇四
亞鉛	同		一四、八三七
	同		九、六一三
	同		一二、五三七

硫酸加里(粗製)	同	五八、五〇五、六八四	四、四九三
硫酸アムモニウム(粗製)	同	四、七四一、三四一	三六、三〇三
合成染料	千斤	四、四九七	九、九二四
漆	百斤	二五、五八七	四、三〇五
線	同	九、七三九、六六二	五四九、六一二



鐵製	品	同	一、五五二、四二四	一七、七七〇
工匠農具及同部分品	計及同部分品	同	一	二、九五七
時計及同部分品	同	同	一	八、五三一
メーター類	同	同	一	二、九三一
自動車	同	同	七、八八三	一三、七七〇
自轉車	同	同	三、八二四	一、六八四
汽船	同	同	二五	一一、〇五九
汽機	同	同	五五、三一九	四九、六一六
製紙用フェルト	同	同	二九八	一、六六〇
籐	同	同	一一一、九八九	一、五四五
木	同	同	一	一一一、〇〇八
木炭	同	同	二五、五一七	一、一四六
活動寫眞用フィルム	同	同	三四六、七四五	二、七四二
其他寫眞用フィルム	同	同	二三四、六八一	九八六
飼料	同	同	一、四一一、二二七	六、七四一
穀	同	同	三、七六〇、三二五	一四、二三六
肥料	同	同	一	九五、九三九

即ち輸出に於ては其の總額に對して生絲の三割八分、綿織物及綿製類を合して二割餘、竝に絹織物及絹製品の七分餘が其の主目であつて、他には一億圓以上のものがない。

之に異りて輸入品に於ては先づ棉花の五億五千萬圓を筆頭とし、羊毛も、木材も、鐵類も皆一億を超えて居り、各種肥料を合すれば是れも無論一億五千萬圓に上る。又礦油、機械類の如きも殆んど一億に達せんとし、更に米、小麥及豆類等の食料も、年に依つて多少の増減あれど大抵二億を下ることはなく、これに他種の飲食品を加ふれば三億を突破することさへある。應に知るべし、我が國の輸入品は國民生活上、一日も缺くべからざる必需品を其の主目とし、それが輸入總部の大部分を占めてゐることを。

古來、人心の安危は胃の腑の問題であると言はれてゐるが、國民生活の根柢を爲すものは事實に於て衣食住である。然るに我が國に在つては、國民の主食物すら不足を告げ、大正十四年の如きは、單に米だけに一億二千萬圓を外國に支拂つてゐる。次に衣料に於ては前述の如く棉

花、羊毛及麻の全部が皆輸入品であり、唯生絲に依る絹織物だけが國內の需要を満たして而も七億乃至八億以上を海外に輸出し得るのである。更に住宅材料の如きも往時は木材國として見られた程であるが、其の後漸次缺乏を告げ、殊に關東大震災前後より輸入激増し、毎年一億圓以上に及んでゐる。又洋風建築の材料たる鐵材もその原料は概ね輸入品であり、唯だセメント工業だけが之を自給して、更に六七百萬圓の



無論一億五千萬圓に上る。又礦油、機械類の如きも殆んど一億に達せんとし、更に米、小麥及豆類等の食料も、年に依つて多少の増減あれど大抵二億を下ることはなく、これに他種の飲食品を加ふれば三億を突破することさへある。應に知るべし、我が國の輸入品は國民生活上、一日も缺くべからざる必需品を其の主目とし、それが輸入總部の大部分を占めてゐることを。

古來、人心の安危は胃の腑の問題であると言はれてゐるが、國民生活の根柢を爲すものは事實に於て衣食住である。然るに我が國に在つては、國民の主食物すら不足を告げ、大正十四年の如きは、單に米だけに一億二千萬圓を外國に支拂つてゐる。次に衣料に於ては前述の如く棉

花、羊毛及麻の全部が皆輸入品であり、唯生絲に依る絹織物だけが國內の需要を満たして而も七億乃至八億以上を海外に輸出し得るのである。更に住宅材料の如きも往時は木材國として見られた程であるが、其の後漸次缺乏を告げ、殊に關東大震災前後より輸入増し、毎年一億圓以上に及んでゐる。又洋風建築の材料たる鐵材もその原料は概ね輸入品であり、唯だセメント工業だけが之を自給して、更に六七百萬圓の輸出を行ひ得るに過ぎない。

斯くの如く我が國民の生活必需品が、悉く外國よりの供給に俟たざるべからざる状態にある限り、而してそれが輸入品の主目となつてゐる限り、いはある消費節約を以て主要政策と爲し、之に依つて國際貸借の改善を期待し能ふものゝ如く考ふるは寧ろ一場の錯覺である。少くとも此の種の政策を有意義とする社會層は極めて狭く、其の效果的限界は一部少數なる富裕階級の範圍を出でない。一般國民は其の需用量の満たされ難さがためにこそ懊惱し困苦してゐるのである。通俗には買ひたいものも買へず、求むるものも與へられざるが爲に悶えてゐるのである。濫費にあらずして缺乏である、過剰にあらずして供給難である。英國の如く對外放資か、佛國の如く外遊客による多額の所得に生活する國民にあらざる限り、輸入超過國に浪費の事實はあり得ないのが一般的状態に於ての真相である。例へば、銀座街頭に戯るゝ若干の輕薄青年者流を見て、日本國民の全部が悉く奢侈放恣に耽る不良民族化せりといはゞ、誰れか之を肯定するか。又例へば労働者が電車を用ひ、安月給取が洋服を贅澤として、時間と疲勞と業務の不便とに頓着なく和裝徒歩すべしといはゞ、誰れか其の迂を憫れまざる。封建的鎖國時代の經濟知識の如何に見當違ひなるかは此の類たるを免れない。

### (三) 生産未開展の歷程

貿易關係が示す所の實物教訓は既に明瞭である。其の要點は繰り返す迄もなく生産の不足に基因する國民生活苦難の當相をまご／＼と見せつけてゐることである。輸入超過も生産不足、輸出不振も生産不足、國際貸借不均衡も、正貨の流出も、公私外債の増加も皆悉く生産不足に淵源する。極言すれば經濟國難の別語は即ち生産不足である——一時的及特殊的には或る物品の生産過剰を告げ、限産協定などの行はれることもある。併しながら、それは決して國民全般の生産力の過剰を意味するものではない。財界の變象、外國の影響乃至は當業者の豫測違ひに依り、之を餘儀なくさるゝのであつて、全局的でも永久的でもない。産業經濟の原則としては消費を豫想せざる生産はなく、能ふ限り多量生産、原價切下げに依つて益々消費の増進を促し、以て薄利多賣主義に立脚する收穫の増加を期待する。此の原則に背馳する生産經營は嘘であり、不健全、不合理である——それ故に生産の増加發展を意念し、其の實現に激勵せざる一切の方策は無價値の戯れに過ぎないことを悟り得ると同時に、我が國民生活の安定と向上との爲に必要な國家の政策が、如何なる建て前に依りて考案せられざるべからざるかは何人にも既に明々白々と信する。



これと同時に現に我が國民が最も緊急とする對貿易策即ち如何にして輸入を防遏し、輸出を増進すべきかの問題に就いて、こゝに明確なる注意と認識とを求めて置かなければならない。それは上記の貿易表に揭示せらるゝ通り、我が國輸入品の主目が衣料・食料・鐵・肥料・機械油・木材等であることを見忘れざる限り、其の對策も亦第一に是等の主要品を眼目點として應急の方策を講ぜられなければならないことである。衣料の棉花・羊毛・麻類又ほ護謨の如き國內産出至難の天産物（約十億圓）は暫らく已むを得ないとしても、輸入總額の大半以上を占むる食料・鐵・肥料・油・機械其の他人工能力に依り國內に於て生産し得べきものにつき、適當なる施設經營の方法なきや。元來國民の努力と設備に依り生産可能なるものを輸入するは、外國に對して勞働賃銀を支拂ふに異ならずして、それだけ我が國民の働き場所を奪はれ、我が人口消化力を自ら痲痺せしめつゝある結果を呈する。故に天産的原料品以外は、人力と技能の許す限り自給を圖り、更に海外に販路を擴張するが當然の要務である。然るに我が國に於ては實際問題として、之を不可能と認めなければならぬのであらうか。食料・鐵・肥料・油・機械等皆我が國民の事業に適せざるや。或は原料、技術、採算上より見て成功の可能性なきが——吾々は後章に説明せる通り、立派に成功の可能性あるを確信する——

苟くも我れに資源あり、技能あり開發發展の餘地ありとせば、國民を失業苦の状態に置きて外國に勞銀を支拂ふが如きは愚の極みであり、須らく全力を傾けて是等輸入品の國內生産を促進しなければならぬ。そして幸にその目的が達成されたならば、我が輸入額は少くとも年々六、七億圓内外を減少し得べく、假りに其の半額を産出すとも尙ほ優に輸入國より輸出國に進轉し得るのである。勿論輸出方面の對策も當然に緊切なる要務であり、共に併行して進まざるべからずと雖も、差當つての問題、國民大衆の要求は生活の必需品として、産業的及文化的基礎要素として、一日も缺くべからざる。要輸入品の強壓から解脱し若しくば之を緩和されることにある。それが最も具體的且つ根本的なる國民經濟建直しの中樞的要件であらねばならない。國際貸借關係の改善といひ、國富國力の擴充といひ、經濟國難の打開といひ、何れも之を押しつむれば輸入防遏、輸出増進に依つて初めて眞實なる解決を與へられるのである。随つて經濟國策、産業振興の最先的打着は、須らく此の方面の應急的施設から出發しなければならぬのであつて、更に適切には食糧の自給及生絲の輸出増加に必要な農蠶業の改良と進展、鐵・油・肥料・機械等の基礎工業の保護獎勵、木材及林産に對する施設が急務中の急務である。そして同時に水産・鑛山・畜産・化學製造品等、總ての産業に對の齊しく努力を怠るべからざるは改めて語を勞する迄もない。

國際的經濟環境より見たる我が國民生活の實態は上述の如く是れ又未完成若くは未開展の歷程を歩みつゝある。其の生産力、其の貿易高は數十年來非常に増進せるにもせよ、之を主要列國と比較すれば尙ほ其の最下位より超躍し能はざるのみならず、内には餘りある人口を擁し勞働力を自らに持ちながら、其の生産額は需用量に伴はず、却つて年々巨額の輸入超過に悩まされてゐる。其の結果は歐洲戰爭當時の繁榮を峠として爾來下り坂に向ひ、其の頃二十二億と稱せられたる正貨も、連年公私債券に依り補充されつつあるに拘はらず、今は甚だ残り少なにな

つてゐる。而も其處には尙ほ確乎たる經濟國策がなく、政府は姑息なる一時的小計に醒醒し、頻りに跛行的競歩を試みつゝある。斯くては到底世界的經濟爭覇戰に打勝つ能はざるのみか、容易に國民それ自らの生活難を凌ぎ得ない状態に在る。其の根本的原因は矢張り政治の經濟化に發足せず、産業爲本の國是に立脚せざるが爲の禍ひに外ならない。斯くて國際生活の表現たる貿易關係を通して與へられたる現實は、爲政



油・肥料・機械等の基礎工業の保護奨励、木材及林産に對する施設が急務中の急務である。そして同時に水産・鑛山・畜産・化學製造品等、總ての産業に對の齊しく努力を怠るべからざるは改めて語を勞する迄もない。

國際的經濟環境より見たる我が國民生活の實態は上述の如く是れ又未完成若くは未開展の歷程を歩みつゝある。其の生産力、其の貿易高は數十年來非常に増進せるにもせよ、之を主要列國と比較すれば尙ほ其の最下位より超躍し能はざるのみならず、内には餘りある人口を擁し勞働力を自らに持ちながら、其の生産額は需用量に伴はず、却つて年々巨額の輸入超過に悩まされてゐる。其の結果は歐洲戰爭當時の繁榮を峠として爾來下り坂に向ひ、其の頃二十二億と稱せられたる正貨も、連年公私債券に依り補充されつつあるに拘はらず、今は甚だ残り少なくな

つてゐる。而も其處には尙ほ確乎たる經濟國策がなく、政府は姑息なる一時的小計に齷齪し、頻りに跛行的競歩を試みつゝある。斯くては到底世界的經濟爭覇戰に打勝つ能はざるのみか、容易に國民それ自らの生活難を凌ぎ得ない状態に在る。其の根本的原因是矢張り政治の經濟化に發足せず、産業爲本の國是に立脚せざるが爲の禍ひに外ならない。斯くて國際生活の表現たる貿易關係を通して與へられたる現實は、爲政當局の無策と、國民生活の艱難を特に主要輸入品の超過に物語つて居り、そして結論は人口問題及所得等より觀察せると同じく生産未發達てふ事實に歸着する。随つてそれは産業國家への轉換以外に救済の方法なきを最も鮮明且つ痛烈に指示する。



## 第五章 産業國策の基調

上來、余輩は我が國民生活の實態を明らかにするため、人口、國家及國民所得並に貿易の現勢を通觀し、内外諸方面より我が國民の地位環境が如何に在るかの真相を見究むるに努めた。それは國家の將來を案じ、國策の樹立運用を念とする人々に取りての基本的要件であり、一部又は一時的なる技師的見解や、投機的主張に囚はれず、廣き世界の視野より全局的にして綜合的なる觀察を下さんが爲の用意に出發したのである。

最初に約束せる余輩の企ては、斯くして漸く産業立國論の豫備的關門を通過したが、さて上述の綜合的大局觀に依りて何を教へられたか。そは敢て再説の煩を俟たずして人口問題の解決策も、國富及國民所得の増進も、將た又國際的經濟戰に於ける難局打開策も、一に唯た産業國策の恢弘に依る以外、神と雖も別の妙案なしといふ歸結に到着したのである。それが國家の現狀、國民生活の實態を正視することに依りて歸納し確認し得たる判決であり、何等偽りなく、何等欺かざる最後の宣告である。

この判決、この宣告は、隨つて當然に我が國從來の政治、經濟其の他百般の機構方策に對して大なる改造を要求し、我が國の現勢が重要な轉換機に在ることを告知する。いはゆる昭和の維新といひ、國民の更生といひ、總て興へられたる此の判決、此の宣告に基きて建直しを斷行するにあらざる限り、國難突破の道なきを、事實が極めて雄辯に聲明してゐる。

此の場合、今さら顧みて何がさうさせたかを反問することは、最早や時代おくれである。それは既に歴史上の問題であり、若し過去に遡及するならば、朝野同罪、歴代の爲政者も其の政府を支持し又は傍觀せる國民も、俱に過怠の責を免れ能はぬ。刻下の要務は既往に執着せずして一日も速に新たな運命を打開するにある。

こゝに於て何よりも緊切なる問題は、如何に産業國策を確立し、如何に國民經濟の建直しを具體化すべきか、其の基調、其の指標、其の實行方策如何に在らねばならない。本論の主趣として豫期せらるゝであらうところの今後の展開は、即ち此の緊切なる問題に對して、進んで吾々の解答を提供することに外ならない。

それで先づ産業國策の基調から述べる。

### (一) 積極主義の方針

第一は積極主義の方針である。苟くも事の産業政策に關する限り、如何なる意義、如何なる場合に在つても消極主義の方針を執ることは、それ自らに於て矛盾であり、不合理且つ無價值である。殊に我が國民生活の實情が既述の如く人口の消化に悩み、勞力の過剩に行詰り、所得の貧弱に苦しみ生活必需品の自給に苦しむ、能はざる未發展の過程に當り、ある状態の下に在つては、明快なる積極主義の政策を堅持して



之に於て何よりも緊切なる問題は、如何に産業國策を確立し、如何に國民經濟の建直しを具體化すべきか、其の基調、其の指標、其の實行方策如何に在らねばならない。本論の主趣として豫期せらるゝであらうところの今後の展開は、即ち此の緊切なる問題に對して、進んで吾々の解答を提供することに外ならぬ。

## (一) 積極主義の方針

第一は積極主義の方針である。苟くも事の産業政策に關する限り、如何なる意義、如何なる場合に在つても消極主義の方針を執ることは、それ自らに於て矛盾であり、不合理且つ無價值である。殊に我が國民生活の實情が既述の如く人口の消化に悩み、勞力の過剰に行詰り、所得の貧弱に苦しみ生活必需品の自給にすら堪へ能はざる未發展の過程に喘ぎつゝある状態の下に在つては、明快なる積極主義の政策を堅持して之を徹底せしむる以外、國運民命の根本的打開策は斷じてあり得ない（此の點、最近歐米各國が生産過剰に由る不況を告げつゝあるとは、大に事情を異にするを知らねばならぬ）。故に之が爲には假令公債を財源とする必要ありとも、其の使途目的の生産的事業たるに於ては、敢て差支へはないのである。

之に反して例へば現に世人に熟知せらるゝいはゆる消費節約政策の如き、舊き時代の道德的説法としては兎も角、之を政府の名に於て國民に強ゆるは經濟の通則をも辯識せざる錯覺の方針である。消費の節約は必然に需用の減退を招致し、需用の減退は必然に生産の減退を餘儀なからしめる。其の結果は財界の萎縮であり限産協定であり、工場閉鎖であり、失業群の續出である。此の因果的現象は政府それ自身に於て諸税の減少、鐵道及專賣事業其他官業經營上不良の影響を被りつゝある事實に徴しても明々白々である。言ひ換ふるに此の種の消極の方針は其の理由及動機の善惡を問はず、産業關係に於ては事實上の不景氣招來策であり、失業者製造策となる。假りに金融資本主義の要求に迫られたるにもせよ、國際貸借の調節を急務とせるにもせよ、それは局部的利害を過大視せるが爲の謬見に引づられたのであつて、國家及國民生活の全般的立場を有利に開導する方策とはいひ能はぬ。

勿論、如何に消費節約を高調する政府と雖も、産業の發展を無用なりとし、生産の増加を抑止する程に放膽ではあり得ず。故に一方には節約を宣傳しつゝ、他方には其の政策の矛盾を忘れて産業合理化とか、農山漁村の振興とか、中小商工業融資とか、相當月並の題目を陳列し、就中最近は失業救済施設に焦点し、其の状恰も右腕に白刃を振り翳しつゝ、左手に珠數を爪繰り題目を唱ふるが如き奇觀を呈してゐる。斯かるは消極主義それ自らに固有する政策的破綻を自覺する能はずして徒らに焦頭爛額の苦を示しつゝあるに過ぎない。

若し眞實に産業合理化に切念するならば、其の根本義として、所謂緊縮、所謂消費節約を宣傳するよりは、寧ろ速に之を打切りて吾等の主張する積極的政策に改宗するを必要とする。蓋し消費者は常にヨリ良く、ヨリ廉價なる品物を要求するものであり、生産者は之に應ずべく大量生産主義を執り、以て原價を引き下げ消費を増進せしむることに依り其の利益を増加する。精良と廉價と大量生産と消費増進と薄利多賣、此の五つは一聯の輪の如く相結ばれ、相互循環しつゝ、共に利得を増す。それが即ち産業合理化の原理原則であり、妙所でもある。随つて若し其の中の一片たりとも之を缺くに於ては——例へば消費節約の如く——合理化變じて忽ち非合理化となり、其處には唯崩壊が待ち設くるだけである。所謂國産愛用宣傳の如きも亦同様であつて、先づ自國に必要な生産の増加を圖らずして何物を愛用せしむべきか。國民の必需品が不足し、又は精良を缺き、又は不廉なるに於ては、何うして國産愛用を實現化し得るか。



失業者救済施設に於ても又固より其の理を異にするものではない。假りに幾千萬圓を投じて臨時的對症療法を大都會に行ふにせよ、それは一時凌ぎの對策であり、日本の全層には及ばない。故に積極主義に依る産業發展策の行はれざる限り、不景氣と失業とは決して底を割らず一方に救済すれば、他方に失業する。めぐる因果の小車の如く、ぐる／＼まはりを演ずるか、若しくは一日温めて十日冷やすの類に過ぎないそれが果して何の救済か。吾々は斷言する、國民經濟建直しの根本策は積極的なる産業國策を差措きて絶無なりと。

## (二) 建設的の方策

第二は建設的の方策である。茲にいふ所の建設的の方策とは、一時的又は投機的なる局面糊塗主義の反對を意味する。一方に緊縮主義を高唱しつつ、他方に其の場遁れの救済策を行ふが如き不統一、没見識なる自己破壊の政策を非とするのである。

例を擧ぐれば消極内閣が強いて金解禁を行はんが爲に所謂非募債主義を標榜し、之を以て景氣回復の唯一方策なりと宣傳しながら、一たび其の謬見の爲に財界事業界等に意外の影響を與ふるや、自ら其の標榜に裏切る種々の手段を執りつゝある如きを不可とするのである。かゝるは建設にあらずして寧ろ破壊である、安定を看板として動搖を賣つたと同じである。未で金解禁の時機醇熟せざるにも關はらず、又何等金解禁後の準備を持合はさるるにも關はらず、更に金解禁を好機として我が國際經濟及國民經濟の建直しを行ふべき明確なる對策を有せざるにも關はらず、單に金解禁の爲の金解禁を急げるが如き局部的、技師的虛榮政策の爲に禍ひされた結果ではないか。其の非募債主義は國債價格を釣上げんが爲の人為的方便であり、其の緊縮主義も亦非募債主義に辻褄を合はさんが爲の事業繰延に過ぎない。それが何の建設的の方策であり得やう。

それ故に金解禁は實現したけれども消極内閣が重要視せる國際貸借關係は改善されず、却つて正貨は豫想外に激減しつゝありて前途の見込も立たない。而も之に對處すべく當然に緊要なる貿易振興策の打開されたるにもあらざれば、産業發展の具體案を所持してゐるでもない。否、實際には所謂非募債主義の爲に政府事業は勿論、民間各方面の建設的計畫も頓挫し、輸入の減退と同時に輸出も減退しつゝあるこれ又建設にあらずして破壊的の方策の現はれではないか。政府は頻りに各種調査會を設け審議を急ぎつゝありといふと雖も、その效果如何は未來の問題であり、今は既に後の祭である。本來は金解禁に先んじて具體案を取纏め、之が實行に着手した後、徐に金解禁を行ふを至當の順序とする。然るに其の前後を誤りて寧ろ輕卒に金解禁を聲明したるは、即ち何等建設的用意なく、事後に至つて遽に局面を粉飾するため、名を調査機關に藉りて其の責任を後日に推委せるものとも認められやう、斯くの如き本末前後の顛倒是斷じて産業國策の樹立及運用に適する有資格者とはいふ能はず、悲しむべき政策の破綻は、畢竟其の應報に外ならぬことになる。

若しも政府の方針が、飽く迄も自由主義的見地に立脚するならば、それも或は一箇の建て前といひ得やう。最近に至る迄、現内閣が金解禁

に依る物價の低落を樂觀し、之を自然に放任することに依つて、我が國の勞働賃銀を引下げ、生産費を廉にし、そして聽ては輸出の増加、財界の恢復を見るであらうと想像もし宣傳したのは、たとへ其の所見の根本的に誤れるにもせよ、其の論理だけは一貫する。然るに實際の行



建設にあらずして破壊の方策の現はれないか。政府は頻りに各種調査會を設け審議を急ぎつゝありといふと雖も、その效果如何は未來の問題であり、今は既に後の祭である。本來は金解禁に先じて具體案を取纏め、之が實行に着手して後、徐に金解禁を行ふを至當の順序とする。然るに其の前後を誤りて寧ろ輕卒に金解禁を聲明したるは、即ち何等建設的用意なく、事後に至つて遽に局面を粉飾するため、名を調査機關に藉りて其の責任を後日に推委せるものとも認められやう、斯くの如き本末前後の顛倒は斷じて産業國策の樹立及運用に適する有資格者とはいふ能はず、悲しむべき政策の破綻は、畢竟其の應報に外ならぬことになる。

若しも政府の方針が、飽く迄も自由主義的見地に立脚するならば、それも或は一箇の建て前といひ得やう。最近に至る迄、現内閣が金解禁

に依る物價の低落を樂觀し、之を自然に放任することに依つて、我が國の勞働賃銀を引下げ、生産費を廉にし、そして應ては輸出の増加、財界の恢復を見るであらうと想像もし宣傳したのは、たとへ其の所見の根本的に誤れるにもせよ、其の論理だけは一貫する。然るに實際の行程は之と正反對の歩調を取り曾て自ら排撃せる前内閣發案の絲價安定融資補償法をすら急に實施し、曩日の聲明とは似ても似つかぬ手段を執つてゐる。そして恐らくは之が爲に惹起せらるゝ貿易の障礙、低物價政策の崩壊等、消極内閣を自ら一枚板看たる緊縮主義とは全く相反する矛盾に墮つることを未だ反省してゐないのである。この政策上の自己破滅は彼等が言ふ所の中小商工業低利金融にせよ、前述の失業救済施設にせよ、皆何れも同様であつて、本來は消費節約と緊縮政策に逆行するものであり、いはゞ盲者と跛者の競争である。若し正直に緊縮主義、自由主義、低物價政策に徹底するならば、一切の保護及救済策は全部拋棄せねばならない。隨つて所謂農村振興も肥料の配給政策も、其の他現内閣の十大政策中に掲げたる各般の主張は皆出鱈目となるのである。少くともその標榜と所信に誠實なる限り、是等各般の施設に手を差出してはならず、差出し得べき理由も道義的資格も無い筈である。併しながら實際は悉く其の裏を行つてゐる。口に前内閣を攻撃しつゝ手に前内閣の政策を模倣し、或はそれを切り取りつゝある。前内閣の主張に共鳴し又は改宗したといへば、それまで、あるが、斯くの如きは總て建設の方策の持ち合せなきの致す所に外ならない。

吾々は消極内閣の如き誤れる自由主義的政策を是認し能はぬのみならず、國家經濟の立場より見て寧ろ或る範圍、或る程度に於ける保護政策の採用を必要とする——其の範圍及程度は漸次後に述べる——政友會も民政黨も外面的には齊しく産業の振興を説き、貿易の進展を圖るといひ、農・工・商其の他各般の施設や、社會政策の實行や、國民負擔の輕減等を唱ふることに於ては、大同小異、殆んど其の差を見分け難い程であるが、しかし其の根本的思想には天地雲泥の相違があるのである。一は緊縮主義、節約主義、非募債主義、偏自由經濟主義にして而も當座凌ぎの一次的救済策に焦慮しつゝあるに對し、他は常に積極主義的方針を執り、國家經濟が要求する保護政策を執り容れ、生産的公債の發行を承認する故に兩者齊しく國民生活の安定を切言するにもせよ、一は専ら消費節約に依る切り詰め主義を最善の手段とするに對し、他は生産所得の増加に依る民力の擴充を第一要義とする。比較對照し來れば表面の修辭形容は酷似すれど、其の精神及政策は段違ひである。之に對する是非の判斷は各人それ〴〵所見を異にするであらうが、其の何れに味方するにもせよ、今後の政府及び政黨は組織的、有機的に考案せられたる建設的政策の持主であらねばならぬ。

### (三) 進取的發展策

第三は進取的發展策を緊要とすることである。こゝに言ふ所の進取的發展策とは、退嬰的、籠城的なる無爲傍觀主義の反對を意味する。隱居主義、遁避主義、鎖國主義の思想に出發する一切の方策、若しくは日より見主義、成行き主義臨機應變主義の政治も、亦困より進取的發展



策と相容れざるものたるは言ふまでもない。

歐洲戦争當時、列國間には一しきり自給自足主義の論が大いに流行したことがあつた。此の説は今も尙ほ相當の勢力を有し、我が國にも共鳴者が少からず見受けられる。否、斯くいふ吾々も、食料・鐵・油・肥料・機械及用具類等の自給を切要とするものであり、随つて是等主要なる必需品の生産を保護し、貿易の逆勢を防遏緩和するの必要あることは前に述べた通りである。併しながらそれは單なる自給自足論ではない。「自給」はいゝが、「自足」は不可なり。「自給」と同時に大いに海外に向つて生産の進出を圖らなければならぬ。そして自國以外、他國の需要を満たし、他國の國民生活を向上せしめ、共同福利の理想を達成せなければならぬ。即ち自給自足にあらずして自給他足である。

其の方策如何。こゝに我が國の産業國策上、特に朝野一般の理解を要する一つの問題がある。それは國內經濟と對外經濟の別を混同すべからざることである。或る論者は廣き意味の世界經濟の見地のみに執着し、國家の保護なくして立ち行かざるが如き事業は、如何に國民の必需品と雖も——例へば食料・鐵・油・肥料等の如きものと雖も——これを海外の供給に待つを有利とする、其の原料、資本、技術又は設備經營等の關係に於て、獨立自營の可能なる採算を得ざるものは、たとへ自國の領域に資源を有するにもせよ、有利なる生産事業とは謂へない、それは關稅、又は國庫の補助若しくは他の如何なる形式に依るを問はず、結局國家が之を保護するだけ、それだけ國民の負擔となるが故に、斯くの如き品物は寧ろ之を外國より輸入するが善いといふ。自由主義的經濟論者は概ね此の種の見解を把持してゐるが、それは確に一面の眞理である。併しながら一面の眞理必ずしも全部の眞理ではない。

假りに上述の如き自由主義的見解に絶對の價値を認むべしとするならば、世界各國は即日即時、關稅の障壁を取除きあらゆる保護獎勵策を撤廢するであらう。だが、それはユートピアである。現實の世界は所謂關稅戦争時代と謳はるゝまでに列國競つて保護政策を執りつゝある。其の理由の一つは國防關係、即ち一朝有事の日、國民の糧道及軍需品の杜絶を虞るゝが爲であり、其の二は幼稚なる自國の産業を成長せしめ輸入防遏及輸出貿易に依り利益を圖るが爲である。歐洲戦争當時の自給自足論は前の理由に刺戟されたのであるが、普通には後の理由に基づくものが多い。我が國に於ても臺灣に於ける製糖業の如きは、即ち後者の政策に依つて今日の成功を齎した一例である。

更に亦別箇の理由がある——實際には極めて強く、且つ切實なる理由であるにも關はらず、世人の理解は未だ淺いが——それは國內の資源技能及勞働能力を活かすことに依り、國民生活を安定し向上せしむる爲である。前にも一言せる如く、輸入品に對して其の代價を支拂ふことは、生産に必要な資本の利子、配當及運賃を除き、大部分は勞銀の變形である。何れの國に國つても、原料そのものゝ價格は寧ろ安く、運賃も亦特殊の場合の外、さして高しとせない。又諸般の設備及運用に要する經費もあるが、概して生産價値の大部分、少くとも大半は技能及勞力の提供者たる知識と汗の結晶、即ち廣き意味の勞銀から成立する。故に吾々が輸入品を購ふことは、外國人に對して何億乃至十何億といふ勞銀を支拂つてゐるのである。

今これを國內に於て生産したりとせよ、そして關稅其の他の保護を差引ける價格が外國品に比して假りに若干不廉を免れざるものとする。

一見甚だ不利の如く考へられやうが、其の實、商品價格の大半を占むる生産勞銀は自國國民の懐に落ち、一錢一厘と雖も他國には流出しない



技能及労働能力を活かすことに依り、國民生活を安定し向上せしむる爲である。前にも一言せる如く、輸入品に對して其の代價を支拂ふことは、生産に必要な資本の利子、配當及運賃を除き、大部分は勞銀の變形である。何れの國に國つても、原料そのもの、價格は寧ろ安く、運賃も亦特殊の場合の外、さして高しとせない。又諸般の設備及運用に要する經費もあるが、概して生産價値の大部分、少くとも大半は技能及勞力の提供者たる知識と汗の結晶、即ち廣き意味の勞銀から成立する。故に吾々が輸入品を購ふことは、外國人に對して何億乃至十何億といふ勞銀を支拂つてゐるのである。

今これを國內に於て生産したりとせよ、そして關稅其の他の保護を差引ける價格が外國品に比して假りに若干不廉を免れざるものとする。一見甚だ不利の如く考へられやうが、其の實、商品價格の大半を占むる生産勞銀は自國國民の懐に落ち、一錢一厘と雖も他國には流出しないのである。假りに外資によるとしても、配當又は利子以外は全部國內に循環するだけである。若し國內の資本に依つて經營すとせば、其の生産費の全部、其の商品價格に支拂ふ代價の全體が自國國民の甲から乙、乙から丙へと轉々移動するだけに止まり、輸入品を購ふ場合の如く他國人の手に取り入れられるのではない。故に之を國家經濟の全局から言ふならば、假りに國內の生産品は少々位高くなつても、商品價値の大半を占むる勞銀を外國に支拂ふことを免れる。そして、其の勞銀に相當する金額は自國國民の手に落ちて國內に循環する。即ちそれだけ國際貸借上、國家としての負擔が減少することになるのである。況んや此の國內生産事業に依りて多くの労働者が職を得、所謂知識階級も其の働き口を廣くすると共に、他の商工業者及農業家も國內に循環する資金と勞銀の移動集散に依り、消費を刺激し、需要を増進する結果、自から其の利益に均霑し得るに於てをや。是れ列國が苟くも資源、技術、労働力の許す限り、自國の産業を保護獎勵し、關稅の障壁を高くするを厭はざる所以であり、同時に其の經驗、興味、技術の進歩等に依り、臺灣に於ける糖業の如く内地の紡織業の如く立派に成功を告げ、進んで海外に輸出し得るやうになるのである。

對外經濟と國內經濟との間には、此の如く本質上多大の差異があり、之を同一水準線に置きて立論するは、未だ國家經濟の何たるかを知らざる迂見である。所謂青砥藤綱流の經濟觀が時間と勞力との貴重なるを忘却せる點に於て、其の誤れるは言を費す迄もない。しかし茲に多數の人間が手を空しうして徒食しつゝありとせば、全然無意味に時間を消費するよりは、一文錢の微と雖も之を拾ひ出した方が、まさしく優つてゐる。國家經濟の場合に於ても其の理は同様であつて、其の眠れる資源を開發し、其の豊富なる人口を活用する上に於て、時には青砥式經濟に學ぶ必要なしとはいへない。單に對外經濟、世界經濟あるを知りて偏自由主義を最上の方針とするが如きは、國家經濟の重要性を無視せる拙策である。少くとも將來發達の見込みあるもの、發達せしめざるべからざる自國の産業は、多少の關稅上の保護を與へても、之を獎勵するが當然であり、之を輸入に仰ぎて勞銀の變形ともいふべき商品代價を外國に支拂ふことは、假令割高なる自國の生産費と比較しても尙不利である。現時我が國の政府が直接産業保護の爲めに支出しつゝある補助金は其の全部を合しても十六七億の總豫算中、僅に四千數百萬圓であるが、他方失業者救濟施設の爲には數千萬圓を要すと報ぜられ、且つ各地方に對して此の種の事業に限り、勞銀額の半分迄も國庫補助を與へてゐる。而かも我が輸入總額二十億圓中、其の大半は自國に於て生産可能なる商品であることを見忘れてゐるのである。換言せば年々何億といふ大金を外國の労働者に支拂ひながら、自國に有り餘れる人間を空しく遊ばしてゐるのである。かゝる畸形的なる國家經濟の建て方が何處にあらうか。

然らば我が日本は如何なる産業を興隆し、助成し、發展せしめねばならないか。それは後に述べるとして、要する所は國民必需品の自給で



ある。先づ自給して巨額の輸入品を防止すると共に、更に進んで之を海外に輸出する。それが産業國策の基調として特に進取的政策を緊要とする所以である。

或は云ふものあらん、自給の必要は了解せり、而し何れの方面に向つて進出し得るか、此の答は極めて簡單にて足りる。隣域に四億の人口を有する支那があり、就中三千萬を算する滿蒙があり、廣茫千里に亘る露西亞があり、南洋があり、印度がある、我れに於て對策と努力をだに缺如せざれば、單に亞細亞方面のみにも世界全人類の約半數を占めて居り、我が國產品の對象として絶好の顧客たるべき消費者は近き眼前に於て、寧ろ有り餘る程ではないか。姑息なる消極的退嬰策を一排し斷乎として進取的政策を執らざるべからざる理由は既に明白と信ずる

#### (四) 組織的統一的政策

第四は組織的統一的政策の必要である。我が國從來の政府は上に總理あれども、各省割據の弊を脱せず屢々政變に遭逢すれども、豫め具體的政綱を定めて主義一貫せる政策を遂行し得たものは極めて稀である。同時に一般國民も亦國策の如何に在るべく、如何に運用せられざるべからざるかを嚴正に注視しつゝありとはいひ難い。例へば、各政黨が盛んに國民に呼びかけつゝある主義政綱は對しても、冷靜なる吟味を缺き、之が爲に所謂輿論は常に愚論の異名なりといふが如き嘲りを耳にすることが寧ろ餘りに頻繁である。それ故にこそ總選舉後未だ幾月ならずして早くも政策の轉換を叫ぶが如き論者も輩出すれば、緊縮と節約とを強調せる舌の根の未だ乾かざるに早くも絲價調節を理由として傳家の寶刀を抜き、或は言を失業救済に藉りて一旦打切れる土木事業を急施せんとするが如き變態性の政治を目撃せなければならぬのである。かゝるは皆其の政策の組織的、統一的ならざるが故であり、隨つて其の働きに有機的、集中的なる強味を見出すことが出来ない。吾々の要求し期待する産業國策は此の如き淺弱なるものであつてはならない。既に産業國策と銘打つ限り、事業それ自身の性質が、永續的、耐久的彈力を持たねばならぬと共に、鞏固にして徹底的なる組織的及統一的方針の一貫を必要とするのである。

産業國策は獨り政府の力に依つて實現さるべきものではない。朝も、野も、男も、女も、農も、工も、商も、漁も、鑛も、その他國民の總てが悉く其の心を一にして努力を集中し、其の智能を傾倒せなければならぬ大事業である。それでなければ國難打開國民經濟の建直しの時機は容易に到來しないのである。

晩近歐米各國に在つては、國勢復興の最要急務として産業統制、産業合理化の運動が殆んど政治經濟の中心的思潮となつてゐる程であるがそれは大戦中に起つた所謂産業動員、經濟參謀本部の運動の繼續であつて、之が爲には各國共に既に種々の機關が設置されて殆んど行政運用の樞軸とかつてゐる(次章參照)。

即ち國民更生の第一打着として既に政治の經濟化が實行され、産業爲本主義の建て前に依る政治の運行に成功を齎らしつゝあるのである。

世間に兎角の批評はあるが伊國はムッソリニの政治は其の實産業第一主義に徹底する爲の獨裁主義とも解せられ、又莫斯科政府の如きも此の點では思ひ切つた仕事を遺つてゐるのである。



は容易に到來しないのである。

晩近歐米各國に在つては、國勢復興の最要急務として産業統制、産業合理化の運動が殆んど政治經濟の中心的思潮となつてゐる程であるがそれは大戦中に起つた所謂産業動員、經濟參謀本部の運動の繼續であつて、之が爲には各國共に既に種々の機關が設置されて殆んど行政運用の樞軸とかつてゐる（次章參照）。

即ち國民更生の第一打着として既に政治の經濟化が實行され、産業爲本主義の建て前に依る政治の運行に成功を齎らしつゝあるのである。

世間に兎角の批評はあるが伊國はムツソリニの政治は其の實産業第一主義に徹底する爲の獨裁主義とも解せられ、又莫斯科政府の如きも此の點では思ひ切つた仕事を遺つてゐるのである。

政黨内閣の認識價值が、世界の趨勢に照らして如何に妥當づけらるゝかは全然問題である。それよりは、政黨主義の長所とも將た生命ともいふべき政策の恒久性と弾力性をとして、國民生活の基礎たる産業中心、經濟中心の意識と方策の上に開展せしむることが、少くとも我が國に於て最も緊切と考へる。

世上往々同一内閣の下に於て政策の更新とか、方針の轉換又は修正といふが如き熟語を喧傳し、而かも何等奇異の念なく自ら之を發唱するものもある。斯の如きはそれ自體が政黨としての存在價值を幻滅せしむるものである。一定の主義政綱を具有するものに政策の更新、轉換乃至修正などはあり得ない。政黨の主義政綱は總選舉に依つて國民に約束し義務づけられたものである。然るに未だ次ぎの總選舉をも經ず、何等責任解除の理由なくして之を口にすとせば、それは更新にも修正にもあらずして、まがふ方なき變説改論である。政黨の變説改論は國民に對する公約蹂躪である一旦議會の解散を求めて新たに直すか、公約不履行の責を負ひて懺悔し引退するか、政治を公明にする方法は此の兩途以外にはあり能はぬ。若し解散も引退もせず、自儘勝手に更新轉換、否、變説改論しても可なりとせば、總選舉は無用無意義の人騒がせに過ぎない。政黨内閣の本質上に許さるべきことでもなければ、良心ある政治家の忍び得る所でもない。

既往は問ふも詮なし、現在及將來の政黨内閣は、斷じて上述の如き軟骨性のものであつてはならない。飽くまでも主義政綱の永續性、耐久性を有する彈力の強いものでなければならぬ。之が爲には即ち組織的、統一的なる政策を確立堅持するを根本要件とするのである。單なる政權、單なる大臣の椅子、單なる多數黨だけが立憲政治の價值でも眞髓でもない。各省各局てんくばら／＼の方策を持ち寄りて、それに美名を冠し、之を陳列して誇りとするが如きは寧ろ禁物である。國策の中樞を見定め有機的に其の努力を産業國策に集中するにあらずば、何うして世界的經濟爭鬪の活舞臺に立ちて効果的實績を期待し得られやう。



## 第六章 輸出増進策

### (一) 一般の方策

産業國策の究竟目的は改めて説くまでもなく、一面には輸入を防遏し、他面には輸出を増進するに在る。前者は先づ順序として國民生活の必需品を自給することに出發すべきであるが、しかし單なる自給を以て事足ると爲すは未だ世界人としての要素を具備せざる島國の見地の域を脱し能はぬ。苟くも國際的經濟戰に對處するに方りては他面輸出を増進し、依つて以て優越的地位を確保しなければならぬ。輸入防遏と輸出増進とは不可分なる因果的關係を有するものであり、たとへ其の一を充たし得たりとしても、若し他の一を缺くに於ては未だ國民經濟上の施設を完うせるものとはいひ得ない。

前章及前々章に於て、吾々は農工兩産業の現勢を考究するに際し、主として輸入防遏に觀察の焦點を置いたが、是れ唯だ説明の便宜に由るのであつて、其の眞意は無論輸入防遏と同時に、輸出の増進を考慮し且つ期待しての立案である。例へば農産物の代表的主目として取扱ひたる米の問題にせよ、將た工業の例題として記述せる鐵、油、肥料及機械等の問題にせよ、それは單に外國品の供給に待たざる迄に國産品を製出し、以て自給自足を圖れば足るとするの意味ではない。期する所に國內の需要を滿たすと同時に、廣く海外に販路を開きて大いに之を輸出せんことを要望してのことである。此の意味に於て輸入防遏、即ち輸出増進策であり、既述の農村振興策も、工業發展策も、本來は決して對內的需給を限度とする政策たるべからずして、ヨリ強く、ヨリ切實に、對外的飛躍を豫想しての國策たらねばならないのである。

さて然らば如何にして輸出増進の目的を達成すべきか。一般的原則よりいふならば、總ての商品を國際化することである。殊に我が國民の日用品をして單なる日本の需要限りのものと見ず、世界的需要限りのものと見ず世界的需給關係に適應する國際的商品としての價值性を具備せしめる。第二には氣候、原料關係並に國民性に最も適當せる工業、殊に經濟的に列國と競争し得る確信を有すると共に、内外に亘り需要廣き商品の製産を奨勵すべきである。この用意と認識とを實際上に發揮するにあらざれば、列國間の經濟的爭覇戰に突進して其の優强者たることは容易に望まれないのみならず、世界の趨勢は如何なる商品、如何なる地域たるを問はず、時々刻々にあらゆる生産物の國際化を促しつゝあるのである。そは南洋の天産物たる砂糖が我が製菓業者の手に依り加工されて他國に輸出せられ、或は加奈陀及米國の小麥が日本に於て粉と化し、或は全然輸入原料に依るゴムと綿布より成る足袋が麥粉と共に支那方面に供給せらるゝが如く、現前顯著なる例證が極めて明瞭に之を語つてゐるのみならず、他方に在つて日本の特産物と見らるゝ傘、下駄の類すら支那より我が國に輸出されつゝあるが如き現象に徴して

も、直ちに首肯せらるゝ事實であらねばならない。

固よと箇々の商品、箇々の生産物中には専ら國內用のものもあれば、輸出向きのものもある。併しながら、それ各は國民をめぐりの好尚、



き商品の生産を奨励すべきである。この用意と認識とを實際上に發揮するにあらざれば、列國間の經濟的爭覇戰に突進して其の優强者たることは容易に望まれないのみならず、世界の大勢は如何なる商品、如何なる地域たるを問はず、時々刻々にあらゆる生産物の國際化を促しつゝあるのである。それは南洋の天産物たる砂糖が我が製菓業者の手に依り加工されて他國に輸出せられ、或は加奈陀及米國の小麥が日本に於て粉と化し、或は全然輸入原料に依るゴムと綿布より成る足袋が麥粉と共に支那方面に供給せらるゝが如く、現前顯著なる例證が極めて明瞭に之を語つてゐるのみならず、他方に在つて日本の特産物と見らるゝ傘、下駄の類すら支那より我が國に輸出されつゝあるが如き現象に徴して

も、直ちに首肯せらるゝ事實であらねばならない。

固よと箇々の商品、箇々の生産物中には専ら國內用のものもあれば、輸向きのものもある。併しながら、それ各は國民それ〴〵の好尚、習慣、圖樣等の差異に由る第二次的の現象であつて原則的、本質的には生産品の國際化に基礎づけられずして輸出増進の途は見出し能はぬ。現に廣幅物の絹布、綿織布等の如き我が國の重要輸出品が立派なる國際的商品であることは何人にも認知せらるゝ所であるが、これと同様に我が國の貿易關係を改善し、輸入國の地域位より輸出國の地位に轉せしめんが爲には、國民の日用品そのものからして先づ國際化せしむる程度にまで開眼しなければならぬ。此の自覺此の條件を忘れて輸出の多からんと欲するは鎖國時代の經濟觀に防復するものたるを免れない。

然るに我が現在の實情は果して斯くの如き國際商品化の趨勢に適應すべく妥當なる方針を執つてゐるであらうか。又國民の多くが果して此の原則的條件を意識的に體得してゐるか何うか。朝野の識者は頻りに輸出増進の急務を説いて居り、又國民の必要とする衣料、食料及住料等の立派な國際商品として我が國に輸入せられてゐることを十二分に知悉してゐる筈である。それにも拘はらず、我が國の生産物、殊は日用品をして國際化せしむることの必要と努力とに就いては、生絲其の他從來世に知らるゝ特殊品以外、殆んど措いて問はざるが如き觀がある。かゝるは未だ日本をして世界的輸出國たらしむべき根本の要素と資格とに缺如するものといはねばならない。

實をいへば明治以後の政府は大に實業を奨励し、經濟的對外發展の必要を高唱し來れりと雖も、それは唯だ月並のテーブル・スピーチたるに過ぎずして、具體的には何等徹底の方策が確立されてゐないのである。それ故に國家の外交にせよ、教育制度によせ、國民經濟の要求に適應すべく基礎づけられてゐないのみならず、當面の主務官廳たる農材及商工省の如きすら、明確なる方針と施設とを合はしてゐない。例へば米、麥、大豆等の輸入國でありながら、我が農作物の國際商品化に關する指導方法に就いては極めて狭き範圍に限られて居るが如きはその一證であり、就中重要な工業生産物に關しても、ちぎれ〴〵の方策以上に殆んど何もかも見出し得ざる状態に在る——殊に現時の消極内閣に至つては、曩に田中内閣時代に決定せる各種産業助成の費目を削除し、或は一旦前内閣の貿易局新設豫算を切棄て置きながら、忽ち自ら之を復活するが如き撞着矛盾の行動を演じつゝありて、徒らに其の無理解又は不見識を暴露しつつあるを遺憾とする。尙忌憚なく言へば根本的に産業の發展を圖らずして何の輸出増進があらうか。生産の増加を後にして單に貿易局の新設を急ぐが如きは、本末顛倒であり、國産品なくして如何に愛用の途ありや。それは單に消極主義の悲哀を自ら慰むるに過ぎざるのみ——斯くの如くにして貿易の増進を期待するは寧ろ餘りに小説的といはねばならない。

吾等は前に現行教育の缺陷を指摘して實業化の緊切なるを力説し、又外交及國防の經濟化を提唱したが、顧みて今日の經濟國難に徴する時我が國の教育は果して如何なる認識を與へられ得るか。中學、師範、高等學校、殊に多量生産の實況を示しつゝある法科系の教育機關に依り如何なる効果が待設けられ能ふか。又例へば我が國現時の外交を見ても、刻下の國情に割切なる如何の働きを爲しつゝありや。日本の海外に



要求する所は低廉にして豊かなる原料の供給と我が輸出貿易品の販路開拓である。而して之が爲には支那、露西亞、印度、南洋及米國等に對する外交上の努力が何よりも肝要であらねばならない。然るに近來日支の關係は外觀上好轉を傳へられつゝ、ありとはいへ、其の真相は果して如何。最も密接なる利害を有する滿蒙問題に就ては全然拱手傍觀せられて之が解決點を見出すべく一步も前進せざるのみならず、恰も滿蒙の存在を忘るゝものゝ如く一つの努力をさへ傳へられてゐない。その上に新任公使は所謂アグレマンの關係に妨げられて本國に立往生の姿を呈し、帝國の威信を疑はしむるが如き状態を持ち續け、何よりも重要な日支關稅條約の交渉を一代理者の手に行はしめてゐる。其の結果として將來對支貿易に不利なる協定を甘受するに至るなきかは、識者の深く憂慮して己まざる所である——現に最近の報道に隨へば今回の交渉に由る日支新關稅は甚だしく我が國の諸産業を壓迫し深刻なる打撃を對支通商上に與へる虞れなしとはいへない。互惠協定の實施期間を當初の十年案より極度に短縮して僅に三箇年に讓歩したるが如き。日本側互惠品目の範圍を狹隘にし、從來の對支輸出總額の約六割までも支那の關稅自主權を承認したるが如き、更に我が互惠品目の大部分に對して從價二分五厘引上權を留保せしめたるが如き、何れも妥當なる協定とは認め難く、尙この他にも種々の缺陷が既に各方面から指摘されてゐる——是れ即ち國家の外交が國民經濟の要求に出發せず、貿易の増進の重點として考案運用せられざるが爲に外ならない。

前者と同種の實例は對露外交にも既に示されて居り、就中ポーツマス條約に依つて獲得せる漁業權すら屢々圓滑なる進展を阻まれてゐるではないか。隨て彼我の經濟的協力よりする東露の開発は前途遼遠であり、同方面に於ける外交上の施設と對策とは殆んど何もものを見出し能はざる實情に在る。更に印度の綿布關稅引上といひ、濠洲に於ける我が絹布の壓迫等といひ、問題は各國それ／＼の政策に立脚するにもせよ此の間我が國の外交が經濟産業の見地に如何なる働さを爲したりやと問はゞ、單なる形式的交渉以外、事前に於て有意義なる活動を示せる事實あるを殆んど知り能はぬ。

羅馬が一日にして成らずといふが、凡そ産業の振興にせよ、輸入の防遏、輸出の増進にせよ、之を實現せんが爲には國家及國民の何れもが其の目的を達成するに必要な方策を確立し、あらゆる努力を集中するにあらずんば結局砂上の樓閣たるに過ぎない。故に日本をして輸出國たらしむるには、國家百般の施設が之に適應すべく準備づけられねばならぬと同時に、一般國民も亦廣く世界を相手として活躍するだけの用意を缺いてはならない。此の準備と用意とを合はずして徒らに輸出増進を口にすとも、それは單なる机上の雄辯であり、實際的には何の用をも爲さない。然るに我が國の現状は上述の如く國家として未だ明確なる具體的方策が無く、外交も其の他所要の機械が此の目的を達成すべき基礎の上に運行されてゐない。斯くして何程輸出増進の急務を高調したればとて、なか／＼に實績の擧るを期し能はぬ。

それで吾々は先づ一般的原则論として我が國民日用品の國際化を圖ること、そして國家の方策と各般の施設を確立改善するの要務を略述したのである。前内閣は其の一手段として輸出補償制を立案し之を現内閣に引繼いだが、それは固より輸出獎勵の局部的方法に過ぎない。又輸

出品に對する運賃の低減若くは拂戻の如き、既に各國に採用せられつゝありて、是れ又局部補助の一方法に過ぎないのである。更に根本的な要件としては矢張り積極的産業發展策に依る輸出適當品の多量生産と良品低價であり、如何に輸出を増加せんと欲するも世界的需要を有す



意を缺いてはならない。此の準備と用意とを持合はずして徒らに輸出増進を口にすとも、それは單なる机上の雄辯であり、實際的には何の用をも爲さない。然るに我が國の現状は上述の如く國家として未だ明確なる具體的方策が無く、外交も其の他所要の機械が此の目的を達成すべき基礎の上に運行されてゐない。斯くして何程輸出増進の急務を高調したればとて、なか／＼に實績の擧るを期し能はぬ。

それで吾々は先づ一般的原则論として我が國民日用品の國際化を圖ること、そして國家の方策と各般の施設を確立改善するの要務を略述したのである。前内閣は其の一手段として輸出補償制を立案し之を現内閣に引繼いだすが、それは固より輸出獎勵の局部的方法に過ぎない。又輸

出品に對する運賃の低減若くは拂戻の如き、既に各國に採用せられつゝありて、是れ又局部補助の一方法に過ぎないのである。更に根本的な要件としては矢張り積極的産業發展策に依る輸出適當品の多量生産と良品低價であり、如何に輸出を増加せんと欲するも世界的需要を有する適品無くば海外に供給すること不可能なると同時に、如何に國産を獎勵すとも、良品低價にあらざれば以て輸入を防遏し、國際經濟戰に對抗し能はぬのである。故に根本的には一日も速に産業立國策を樹立し、國家全局の機構を産業經濟本位化せしむると共に、國民全部が輸出國民として要素を具備するまでに自覺開眼しなければならぬ。そして國家は外交、國防、教育、交、金融、その他あらゆる機關を通じて國際經濟戰に對處すべき施設を講じ、適切なる指導、獎勵及保護を與へる。いはゆる國際貸借の改善も、金解禁に伴ふ善後策も、國民經濟の擴充も、失業問題の解決も、眞實には這般の積極的方針を措きて其の可能性ありとは覺えない。隨つて消極政策の手に持ち扱はるゝ局部的國策の如きは本質的に無價値なる閑戯にあらすんば貧弱なる彌縫策に過ぎざることを悟らねばならない。

## (二) 四箇の觀點と我が國の地位

輸出増進に關する一般の方策に就ては既に前節に略述したが、我が國一部の人士間には吾々の提唱しつゝある積極的政策に對し今も尙種々の悲觀論や懷疑見を挾むものがあり、之が爲に國家として執るべき當然の對策も、政府に於て行ふべき當然の施設も阻碍され、若しくは極めて姑息なる枝葉末節の事のみを心に心を奪はれつゝある。而して是等の人々の主張する所を聞けば、第一は依然原料問題に躊躇し、第二は技術問題、第三は資本問題、第四は販路の問題等に低迷しての消極論たらざるは無く、而かも其の大部分が論者自身の頭腦的錯誤にあらざれば、舊時代の鎖國的經濟觀に出發する謬見多きを憾む。

第一の原料問題については既に前章工業發展策の中に説明して置いた通り、現に英獨佛等の何れを見ても、皆原料の輸入國であり、大に輸出を増進せんと欲せば、原料品輸入の更に多きを要する關係に在る。試みに英獨兩國の例を取らば、

英國の輸出入主要種目 (單位十萬磅、一九二八年)	
輸入額	輸出額
食料及煙草	五四二
原料及粗製品	七〇一
完成(製造)品	五、七八六

獨逸の輸出入主要種目 (單位百萬馬、一九二八年)	
輸入額	輸出額



食料及煙草	四、一九六	六〇八
原料及粗製品	七、二四七	二、二六九
完成(製造)品	二、四五八	八、五〇〇

一目して英獨共に巨額の原料及粗製品輸入國たるを知り得ると同時に、之を加工製造して完成品と爲し、以て輸出貿易の大宗たらしめつゝある事實を看取し得やう。假令原料購入の爲に對外支拂額の増加を招くにもせよ、それは單に一時的假拂たるに過ぎずして、製造工業の設備及能力にあらば短期間に之を加工し完成品化する事に依り、大なる利益を獲得し多數國民に生活の途を興へ能ふことは、我が國の紡績事業に徴しても極めて明白である。この意味よりいへば、原料輸入は我が國に取つての榮養素であり、之を攝取し消化するの多々益々大なる程、國民經濟を優強ならしむる所以である。随つて經濟外交の要點は圓滑に豊富低廉なる原料を外國に求めるにある。

第二の技術問題に關しては歐洲大戰當時の試鍊に依り既に製作工業の大部分は製造可能なることを立證し、舶來品萬能の思想も今や漸次に局部的に限縮せられて居る。例へば製鐵、造船、飛行機、發電機、變壓機、窒素肥料、レーヨン等々の如何なる工業と雖も、邦人が有する技術能力の優秀なるは事實上に判明して居り、世界何れの國民と比較しても根本素質には決して遜色は無いのである。曾て製鐵事業中最も至難と認められたる武力板薄板の如きも國內生産の發達に依り漸次輸入を減少し、又獨逸の專賣視せらるゝ化學染料の如きも、既に其の或るものは獨逸品と對抗し得るまでに進んでゐる。最も技術の精巧を要する時計類の成功は言はずもがな、極めて鄰近なる實例としては我が國のシヤツ、メリヤス類が世界の本場と呼ばれる、マンチエスターに進撃し、廣島縣の萬年筆が歐洲にまで羽翼を擴げつゝある。又多年純輸入品を以て目されたる毛織物類殊に洋服地の如きも、英國製優等品に劣らざる國産品を身に纏ひ得る時期に達してゐるのであつて、邦人の能力と技術とは我が國民自らが評價しつゝあるよりも遙に高く、遙に優れたる實質的進歩を示してゐる。然るに此の間尙巨額の輸入を防ぎ能はざるは即ち我が國の産業方策、就中工業國策に缺如せる結果に外ならずして必ずしも技術上の罪では無い。別言せば産業に對する爲政者の指導、保護統制等の未だ到らざるが爲であり、國民それ自らの有する天分は十二分に英獨と對抗し、或は彼等を凌駕し得る程に豊かなりと稱するも敢て過言ではあるまい。

第三は資本の問題であるが、是れ又我が朝野の間には頭腦硬化病の發作かと推せらるゝ程の錯覺が廣く流行してゐる。消極内閣の標榜しつゝある非募債主義の如きは其の顯著なる實例の一つであり、消費經濟にのみ拘泥して生産經濟を理解せざる鎖國時代の緊縮節約論が、如何に無價値の努力たるかは既に眼前の事實に照らして炳焉火を賭るよりも明かである。彼等口を開けば忽ち國債の増加を咀ひ或は保護政策の非を鳴らし、或は財源の窮乏を嘆くを常とするも、生産公債の増加は毫も憂ふるに足らざるのみならず、之を活用する事に依りて國富を増進し國民經濟を裕福ならしむることは、恰も原料の輸入を榮養素として輸出の繁榮を圖ると同様であり、寧ろ多々益々辨ずるに足るものあるを思は

しめる。假りに吾々が前に提擧せる試案の如く二三の主要なる基本工業を振興し以て當面の輸入を防止するとしても、之に要する資金は既記の如く鋼鐵、肥料、機械、自動車等概算年額約三億圓の製作に對して約四億圓を投資せば足るのである。又假りに國內製出を可能とする全額



第三は資本の問題であるが、是れ又我が朝野の間には頭腦硬化病の發作かと推せらる、程の錯覺が廣く流行してゐる。消極内閣の標榜しつゝある非募債主義の如きは其の顯著なる實例の一つであり、消費經濟にのみ拘泥して生産經濟を理解せざる鎖國時代の緊縮節約論が、如何に無價値の努力たるかは既に眼前の事實に照らして柄焉火を賭るよりも明かである。彼等口を開けば忽ち國債の増加を咄ひ或は保護政策の非を鳴らし、或は財源の窮乏を嘆くを常とするも、生産公債の増加は毫も憂ふるに足らざるのみならず、之を活用する事に依りて國富を増進し國民經濟を裕福ならしむることは、恰も原料の輸入を榮養素として輸出の繁榮を圖ると同様であり、寧ろ多々益々辨ずるに足るものあるを思は

しめる。假りに吾々が前に提擧せる試案の如く二三の主要なる基本工業を振興し以て當面の輸入を防止するとしても、之に要する資金は既記の如く鋼鐵、肥料、機械、自動車等概算年額約三億圓の製作に對して約四億圓を投資せば足るのである。又假りに國內製出を可能とする全額年産十億圓の工作品を作るとして、其の所要資本は十二三億圓にて足れりとする。固より原則的には民間を督勵して是等の企業に當らしむべきであるが、之が爲には或る期間、各國に行ひつゝあるが如く適當なる助成補給、關稅政策、其の他種々の方面より其の達成を促進する途を講ずべきである。簡明卒直に國家が此の投下資本に對し十年間平均年五分の補助を與ふるとしても、其の金額は毎年六七千萬圓に過ぎないのである。凡そ工業の原料は鑽石といひ、石炭といひ、總て勞働の結晶に外ならない。故に工業に依る十億圓の生産は其の大部分勞働賃銀とも稱し得られるのであつて、男女工平均一日一圓の勞銀として前記製作に依り實に三百三十萬人の勞働者及其の家族の生計の途を與へる。それは社會政策より見ても極めて重大の意義を有するのみならず、其の目標とする十億圓の工作品は現に外國より輸入されつゝある商品即ち日本に需要すると同時に外國の消費にも共通するものなるが故に、國內の入用を充すと共に、直ちに輸出貿易に轉換し得る國際商品である。隨つて之に基礎づけらるゝことに依り、輸出増進の活力素となることは毫も疑ふの餘地は無い。

思ふに如何なる悲觀論者にもせよ、我が帝國の實力を以てして五億乃至十億程度の資金が不相應の巨額だとは考へぬであらう。民間の一紡績會社や、一電力會社ですら、二億三億の資本は必ずしも大なりとせず、況んや政府自ら之を行ふにあらずして唯だ適當なる指導及保護を與ふべく確たる方策だに樹立せば可なりとするのである。又假りに電力國有の一事を實行するとしても、之に依つて何等國民の負擔を増加する虞れなきは前に説ける通りである。要するに問題は資本難にあらずして一に國策の有無如何に依つて決定する。國策だに定まらば資金は内外何れの方面よりも供給され、別に預金部其の他よりする低資金融の方法も立つ。たとへ、保護政策の可否は別論としても、現今世界の實勢は各國競つて保護政策を採用せざるなく、輸入防遏、輸出増進に對する關稅及金融等の施設を始め、外交に、教育に、交通運輸に、國家の全機構を擧げて經濟的保護主義の徹底化に努力を集中しつゝある時代に直面してゐるのである。獨り我が國に限つて呆然自失、或は姑息彌縫、僅に其の日暮しの小計を以て足れりとするが如きは、斷じて國民生活を多幸ならしむる途とは信ぜられない。

第四は販路の問題である。現今世界の人口は約十九億と推算されてゐるが、其中亞細亞方面のみにても十億内外の人間が居を構へつゝある。支那に四億、印度に三億、其の他印度支那に、南洋に、亞伯利に我が生産品の販路は頗る廣い。假りに歐米兩大洲に對しては我が特產品の供給に主力を注ぐこととし、其の他の國際競争品の輸出を見合はすとしても尙決して天地の狹隘なるを憂ふるに及ばないのである。單に滿洲にのみ就ていふも、二十年前一千萬と稱せられたる人口は近く三千萬に上るの盛況を呈しつゝありて、朝野の對策だに宜しさを缺かずんば將來極めて有望なる發展地域たるを疑はない。凡そ貿易の主眼は低廉なる原料品を得ること、相手國民に必要な商品に他の競争者よりも安價に供給するに在る。而して我が國は亞細亞大陸を對岸に控へて彼地より原料の輸入に至便なる地位を占むると共に、未だ近代的産業未開



國の多數の人民を同じ地域に擁しつゝあるが故に、需要供給の兩面に於て甚だしく他に劣らざる寧ろ有利なる立場を惠まれてゐるのである。併しながら此の有利なる立場も腕も拱きて之を傍觀するに止まらば、單に空想を地圖上に描くの愚觀を脱せざるのみならず、其處には歐米各國より來る熾烈なる經濟的侵略に放任するの結果となる。故に國家の外交は當然此の有利なる立場を活かすことを一義として運用されねばならない。そして一方には我が國が必要とする原料の供給を圓滑ならしめ、他方には我が生産品を國際化し各目的地の需要に適合せしむべく誘導するの役目を引受ける。それが即ち吾々の要求する外交の經濟化である。

斯くして我が國の産業が振興し、優良且安價なる國際的商品を多量に生産するに至つたとせば、販路の擴張は必然的であり。地理的にも人文的にも亞細亞に國する日本は十億の顧客を對象として潑瀾たる活氣を呈するに相違なしと信ずる。此の曉に至らば單に對米向きの生糸だけが貿易の大宗では無く、又綿織物や麥粉乃至今日の工作品其の他の少額なる雜貨類が支那及印度向きの輸出品はと限らない。鐵、機械、汽船肥料、人絹織物、化學工業品等々々の何れもが殆んど無限的需要を亞細亞大陸の將來に持つてゐるのである。嘗に工業生産物のみでは無い。世人が輸出不可能なるかの如く考へつゝある米穀ですら、支那は近來大なる輸入國となりて一年六百萬石を海外の供給を仰いで居るのみならず、安南、緬甸を除ける他の各國即ち爪哇にせよ印度にせよ、皆米の輸入國たるを見忘れてはならない。それ故に吾々は國民全般が日用品の國際化を圖ると共に、農と言はず工と言はず品質の改良と價格の低廉とに切念し、大量生産に由る積極的經濟に邁進せんことを力説して己まざる次第である。

叙べて茲に來れば所謂原料問題も、技術問題も、資本問題も、販路の問題も、總て悲觀するに足らず、消極的なる懷疑論者の見解の如きは神經衰弱病者に目撃する所の危惧心に異らざるを知り得やう。本來我が國はその地理的關係に於て、又その氣候に於て、産業發展上極めて好適なる環境に在るのみならず、國民の智能は世界何れの國民にも負けを取らず、その人口の饒多なるだけ、それだけ生産力を強盛ならしむる爲の強味であるやうに仕向けねばならない。現に英獨の如きは日本以上の輸入國であり、殊に大戰の深傷を蒙りて瘡痍未だ癒えざる状態に在るに拘はらず、既に着々として國勢を回復し輝かしき更生の機運を打開しつゝある。他國の行ふところ我れ之を爲し得ざるの理無し。然るに何故に我が國に於て之を至難とし何故に深刻なる不景氣の永續を啣たねばならぬか。結論は寧ろ簡明である。其處には未だ産業國策が確立してゐないからである。政治上の組織運用が經濟化されてゐないからである。外交も教育も國防も其の他の機關も國民經濟の擴充を基調として構成されてゐないからである。輸出増進策は結局輸入防遏策と同一の理論、同一の約束、同一の内容を要件づける區々たる。一局一部の小施設に依つて大勢を轉換せんとするが如きは得て望む能はざる所、根本的には飽迄も積極的進取の政策を堅持貫徹して國內生産を豊富低廉ならしむること以外に別の方法も手段もあり得ない。それは即ち産業立國策の徹底を意味し、國民の總勞力を動員することに歸着する。之か爲には爲政者が率先行政の全機構を刷新し指導統制の任に當ることから開始されねばならない。これ吾々が本書に於て各般の方面に亘り所見を記述

する所以であつて、其の全部的趣旨が聽て輸出増進策の講究に外ならないのである。



でぬないからである。政治上の組織運用が經濟化されてぬないからである。外交も教育も國防も其の他の機關も國民經濟の擴充を基調として構成されてぬないからである。輸出増進策は結局輸入防遏策と同一の理論、同一の約束、同一の内容を要件づける區々たる。一局一部の小施設に依つて大勢を轉換せんとするが如きは得て望む能はざる所、根本的には飽迄も積極的進取の政策を堅持貫徹して國內生産を豊富低廉ならしむること以外に別の方法も手段もあり得ない。それは即ち産業立國策の徹底を意味し、國民の總勞力を動員することに歸着する。之か爲には爲政者が率先行政の全機構を刷新し指導統制の任に當ることから開始されねばならない。これ吾々が本書に於て各般の方面に亘り所見を記述

する所以であつて、其の全部的趣旨が纏て輸出増進策の講究に外ならないのである。

### (三) 我が國輸出品の一瞥

上に説ける所は輸出増進策としての根本的要件を明かにし、之に對する一般國民の正しき理解を促すと同時に、國家が必要とする方針と施設の如何に在るべきかを概説したのである。

翻つて我が國の輸出状態を見るに、大正十四年の輸出總額二十三億圓は暫らく別として、それ以後に在つては特別輸出品を除き左の如き數字を示してゐる。

昭和元年	二十億四千四百萬圓(朝鮮臺灣共二十一億一千九百萬圓)
同二年	十九億九千二百萬圓(同上) 二十億六千五百萬圓
同三年	十九億七千二百萬圓(同上) 二十億三千八百萬圓

世界的不景氣の影響を受けて近年減退の傾向を呈すと雖も、概觀的には平均二十億圓内外の輸出額を示しつつある。而して其の輸出品目を總括的に分類し、約數的に表示すれば左の如し。

生絲及絹布類	九億圓
綿絲及綿布類	四億五千萬圓
天産物	二億圓
工作品及其の他	四億五千萬圓

即ち生絲及絹布類が總輸出額の四割五分を占め、次では綿絲及綿布類が約二割三分となつてゐる——此の中生絲のみにて總輸出額約三割七分、綿布類が同じく約二割二分に上り、兩者合して十二億圓内外に達する——隨つて天産物及工作品等に屬する幾百種の輸出品が尙甚だ振はざるは一見何人にも推知し得る所である。

假りに之を以て前節に掲げたる英獨の輸出入主要種目と對照せよ、英は邦貨に換算して五十七億圓以上の完成品を輸出し、獨逸も亦同じく四十億圓以上の製造品を海外に供給してゐるのである。然るに我が國に在つては他國の原料品たる生絲が輸出の大宗にして天産物の二億圓も亦概ね他國に取りての原料又は組製品として輸出さるゝものであり、其の上生絲といひ天産物といひ我が國獨得の生産であつて他の追隨を許さない品物のみである。斯く總輸出額の大半を占むる二種目、金額にして十億圓以上のものが原料又は半原料の形に依つて海外に持ち出され完成品としての價格を有せざることは我が國民に對して如何なる事實を教訓するか。そは工業生産の未だ國際化せざる證據であり、製造工業



の發達を促すべき餘地極めて多きを物語るものではないか。

更に試みに英國の例を藉りて彼れが重要輸出品目の概算額を瞥見すとせよ。

(單位千圓——百萬圓以下約數——一九二八年度)

綿絲及綿製品	一、四五三、〇〇〇
毛絲及毛製品	五六六、〇〇〇
其他織物及衣類	五八六、〇〇〇
鐵鋼製品	六六八、〇〇〇
機械類	五三七、〇〇〇
船車及飛行機	四七〇、〇〇〇
石炭	三九一、〇〇〇
食料品	三四四、〇〇〇
化學製品	二五四、〇〇〇

我が國の綿絲及綿布類輸出額は四億五千萬圓内外に上り生絲に次ぐの地位を占めてゐるが、それでも英國が十四億五千萬圓を輸出するに比較すれば尙彼れが三分の一にも達せない而かも其の原料たる棉花輸入高に於ては彼我兩國共に左程の大差なく、即ち英は一九二七年六十八萬佛噸を印度、米國及埃及等より輸入しつゝあるに對し、我れは同年度に五十七萬佛噸を各國より購つてゐるのである。然るに其の輸出金額に於て斯く格段の開きを生ずるは我が内地消費高の多きに由ること一理なれど、一面には彼れが高級品の生産を主とするに對し、我れは此の點に一步を輸せるが爲である。但し戰後英國紡績業の沈滞せるに反し、我が國のそれが著しき躍進を示し、着々前者の領域に踏込みつゝあるは聊か意を強くするに足る(最近印度が綿布關稅引上を斷行し、殊に英印間に特惠協約を設けたるは、事實上我が紡績事業の進出に對する防衛戰とも解せられる)

元來日英兩國は歐亞其の地を異にすとはいへ、彼我の環境頗る相似し、國情その他共通的なる點が極めて多い。而して其の英國が綿製品を以て輸出貿易の首目とし、次では鐵、機械、船車乃至化學製品等を以て輸出産業の重要品目と爲しつゝあることは、我が國より觀て好箇の參考たらねばならない——同國の特種製品たる或種の織物又衣服類並に石炭等の如きは暫らく別問題とするも——就中毛織物及機械類の如きに至つては技術能力の許す限り何れの國と雖も生産可能なるものであり、船車及飛行機も亦同様である。英國は多年造船業を以て世界に雄飛し、綿布、製鐵又造船の三大事業を貿易の横綱大關格としたのであるが、近年之に加ふるに自動車及飛行機等を以てし、造船業の頽勢を補ひつつある。然らば我が日本は如何といふに、邦人本來の實力に於ては製鐵にせよ、造船にせよ既述の如く國際的技術戰に優位を贏ち得るまで

に進展しつゝのり、勞働賃銀も彼れに比し遙かに低廉なるに拘はらず、未だ大に輸出能力を發揮するに至らざるは何故か。

約言するに我れは英國に酷似する地位に在りて其の技能に何等遜色なしと雖も、僅に綿布綿製品の一品目を除き他は悉く遠距離より英國の



以て輸出貿易の首目とし、次では鐵、機械、船車乃至化學製品等を以て輸出産業の重要品目と爲しつゝあることは、我が國より觀て好箇の參考たらねばならない——同國の特種製品たる或種の織物又衣服類並に石炭等の如きは暫らく別問題とするも——就中毛織物及機械類の如きに至つては技術能力の許す限り何れの國と雖も生産可能なるものであり、船車及飛行機も亦同様である。英國は多年造船業を以て世界に雄飛し、綿布、製鐵又造船の三大事業を貿易の横綱大關格としたのであるが、近年之に加ふるに自動車及飛行機等を以てし、造船業の頽勢を補ひつつある。然らば我が日本は如何といふに、邦人本來の實力に於ては製鐵にせよ、造船にせよ既述の如く國際的技術戰に優位を贏ち得るまで

に進展しつゝのり、勞働賃銀も彼れに比し遙かに低廉なるに拘はらず、未だ大に輸出能力を發揮するに至らざるは何故か。

約言するに我れは英國に酷似する地位に在りて其の技能に何等遜色なしと雖も、僅に綿布綿製品の一品目を除き他は悉く遠距離より英國の後塵を拜してゐるに過ぎない。否、單に後塵を拜してゐるだけでは無い。彼れが巨額の輸出品も我れに於ては尙輸入國の状態を呈し、若しくは極めて微々たる對外的生産を示しつゝあるに止まる。これ即ち我れに産業國策なく、爲政者として執るべき緊要なる積極的施設が等閑に附せられ、ある結果といはざるを得ない。換言せば民間に於ては既に相當の業績を擧ぐるものありと雖も、國家の力を以て適當なる指導、保護及統制を行はず、折角國民の持合はしつゝある技能と勞力とを此の方面に集中せしめざる缺陷の致す所に外ならないのである。

勿論、精密にいへば各國の産業には皆それの歴史があり、特色もあり、需給の關係、風土嗜好等の差異に依つて甲國の利とする所、必ずしり乙國に適すとは斷せられない。故に日英兩者の國情は酷似するにもせよ、彼れが傳統を移して直ちに我が用を爲すとは限らず、我が國としては又他國に見る能はざる天産物もあれば、國民の特技と稱し得べき長所もあり得る。現に蠶絲、綿紡織、水産業等の如きは我が國の特長又は優良産業として世界に定評があり、樟腦、綠茶、薄荷、除蟲菊等の如き天産物や、玩具、眞田、ブラシユ等の如き小工業も亦我が國の輸出品として相當の聲價を有つてゐる。唯だ遺憾なるは蠶絲及綿紡織等の數種目以外、我が國産又は特技として認めらるゝものが何れも其の價格高からず、世界的商品として其の輸出量の多大なるを期待し難きことである。故に國家の産業方針を如何に取り定むべきかに關しては矢張り主要農産物及基本工業の増進を主眼とし、先づ輸入を防遏すると同時に輸出の伸展を圖らなければならぬ。是れ吾々が前々章に於て此の方面の問題に多くの言を費したる所以であり、而して我が國の輸出増進策を考案するに方り、特に英國の例を引用し重要産業の國際化を要望せる所以でもある。

以上は我が國の輸出状態を鳥瞰すると共に、今後の方針につき一言したのであるが、更に此の機會に於て現在我が國が重要と爲しつゝある輸出産業に關し以下少しく所見を附加する。蓋し個々の品目に亘り一々縷述することは本書の目的する所にあらざれども、前に例題を擧げて農業及工業發展策を説きたると同様、茲にも二三の例題として簡單に要旨を述べて置くのみ。

#### (四) 蠶絲政策の確立

今日我が國の輸出産業を語るに方り、例題の第一に擧げらるべきは無論蠶絲業である。然るに世上往々斯業の前途に關し疑問の眼を注ぐものあり、例へば支那生絲との競争を憂懼し、又は人造絹絲の壓迫を云々し、若くは桑園の枯衰、勞銀の騰貴、産繭増進率の停頓を懸念するが如き屢々吾々の耳にする所である。仍て一應我が蠶絲業の概況を通觀し今後の對策に關する私見を加へることとする。

そも蠶絲業は初めより日本限りの産業では無く、廣く見渡せば支那、印度、中央亞細亞より黒海を経て巴爾幹諸邦に及び、最に南歐伊



佛、西等に行はれたものであつて、前世紀の中葉後一八七五年頃は東南歐殊に佛伊兩國が養蠶の中心地と目せられ、世界總産額の約半數を産出してゐたのである。然るに其の後蠶病の蔓延に禍ひされ、且つ産業革命の影響や勞銀の騰貴等に祟られて漸次に凋衰し、而して前者に取つて代つたものは即ち支那であつた。二十世紀の初頃には支那の蠶絲が嶄然世界の市場を壓して居つたのであるが、其の後日本の擡頭倣しく大正年間に入りて遂に日支地を易へ、間もなく日本の生絲は全世界總産額の過半數を突破して其の六割五分以上に達し、支那は漸く二割乃至二割五分内外を上下する状態となつた。斯くの如く歴史の示す所は既に支那が日本の敵にあらざる事實を證明して居るのであつて、我が國の蠶絲業が斯くも長足の發展を遂げたるは第一に國民の特技、第二蠶種の改良、製絲工業の進歩等、科學的知識の應用、第三朝野の獎勵と努力、第四農家の生業特に副業として好適なること等々幾多の理由があり、隨つて我が國民それ自ら懈怠せざる限り、假令支那生絲の復興的機運に再會すればとて遠き未來はいざ知らず、遙に現在の優越的地位より轉落するが如きことありとは覺えず、又斷じて轉落してはならないのである。それで現在我が國の養蠶業の概況を見れば、

我が國養蠶業の現勢

年次	養蠶戸數(千戸)	掃立枚數(千枚)	繭産額(千貫)	繭價(千圓)	桑作面積(千町)
昭和元年	二、〇六一	一七、九六一	八六、七二五	六六、四五三	五七二
同二年	二、一〇三	一八、四二九	九〇、八六二	四九六、九三二	五九五
同三年	二、一六五	一八、八八九	九三、八五八	五五一、六八四	六〇九

繭の價根は近年漸落歩調を呈すれど、其の産出量は比年増加し、斯業に従事する農家は全國農村戸數の三分の一を超えてゐるのである。次に製絲業の概況は左表の如くである。

我が國製絲業の現勢

	大正十四年	昭和元年	昭和二年
製絲場數 (單位)	一八五	九二	八三
従業員數 (千人)	五四五	四八五	四九六
繰絲釜數 (千箇)	五三五	四二七	四二六
生絲數 (百萬貫)	八	九	一〇
同價 (百萬圓)	九五六	八五六	七九九
屑物價格 (百萬圓)	三〇	二四	一九

價格合計

(百萬圓)

九八六

八八〇

八一八

此の他に眞綿數六萬乃至九萬貫、價格二百萬圓乃至五百萬圓あり。



製絲場數	(一千)	一八五	九二	八三
従業員數	(千人)	五四五	四八五	四九六
繰絲釜數	(千箇)	五三五	四二七	四二六
生絲數量	(百萬貫)	八	九	一〇
同 價 格	(百萬圓)	九五六	八五六	七九九
屑物價格	(百萬圓)	三〇	二四	一九

價格合計 (百萬圓) 九八六 八八〇 八一八

此の他に眞綿數量六萬乃至九萬貫、價格二百萬圓乃至五百萬圓あり。  
昭和元年及同二年分は自家産のものを含まず。

多年農家の副業と見られ、養蠶に製絲に、主として婦女子の勞力に依り其の指頭から繰り出さるゝ此の一種目を以て年産八億圓乃至十億圓近くの生産を爲しつゝあることは、確に世界の驚異であり、容易に他國の追隨を許さざる我が蠶壇場でもある。而してそれが如何なる形に於て外國に輸出さるゝやと見るに、

生絲及絹物類輸出額 (單位千圓——百萬圓以下約數)

年 次	生 絲 類	絹 物 類	合 計
大正十四年	九一三,〇〇〇	一一七,〇〇〇	一,〇三〇,〇〇〇
昭和元年	七五一,〇〇〇	一三八,〇〇〇	八八九,〇〇〇
同 二 年	七五四,〇〇〇	一四五,〇〇〇	八九九,〇〇〇
同 三 年	七四六,〇〇〇	一三九,〇〇〇	八八五,〇〇〇

生絲の輸出先は米國が全體の九割五分以上を買ひ入れ残餘は佛國その他に分たる。

即ち生絲の輸出額は嶄然我が對外貿易上の首座を占めてゐるが、絹物類は前者に比して尙甚だ少額の憾みを禁じ能はぬ。我が國に於ける絹織物の總生産額は昭和二年度に於て純絹物四億一千百萬圓、絹綿交織五千八百萬圓、合計約四億七千萬圓となつてゐるが、其の中の輸出額は上表に在る通り一億四千五百萬圓である。故に總産額に對する輸出割合は約三分の一に止まり、輸出生絲に對しては五分の一の金額にも足りない。殘餘は即ち内地消費である。

斯くの如く我が國の蠶絲業は世界獨得のものであり、其の價格は國際市場の行情及需給關係の如何に依り高低あるを免れずと雖も、數量に於ては蠶絲共に増産の趨勢著しくして何等悲觀を要とせぬ。唯だ半製品たる生絲が依然輸出の大宗を爲し、面かも其の完成品たる絹織物の輸出額が未だ前者の五分の一にも達せざるは、斯業に従事する人々に對して更に大なる努力と開拓とを期待さるべき事實たらねばならない。それは勿論各國の關稅政策其の他の事情に妨げられつゝあるが爲めなれども、半面には我が絹織物の國際化、就中製織、染色、販賣組織、嗜好研究等に關し、尙十二分に海外の需要に適合せしむるに至らざるの憾みを感じずには居られない。これ斯業の發展と輸出増進の爲に特に最善の計慮を必要とする所である。

養蠶、製絲及貿易の概況は既に述べた通りであるが、然らば我が國の蠶絲業は唯漫然として樂觀せば可なりといふに、實は決して左様では



無い。否、吾々は今にして速に蠶絲政策を確立するにあらずんば、折角築き上げたる堅固なる地盤も他日或は動搖するに至らんことを虞るゝ點に於て、世の悲觀論者とは異なる別箇の事由を見出すのである。例へば前記支那生絲との競争に對しては殆んど完全に日本の優勝に歸したるにもせよ、もとく國土廣大なる支那の事であり、地價も安く殊に其の中南部は養蠶の好適地なるのみならず、人口多く勞銀亦低廉なるが故に自然我が國よりも安價なる蠶絲を供給し得る可能性を有つてゐる。隨つて我が國それ自らが妥當なる對策を準備せず、單に眼前の安逸を保つを能事とするに於ては國際需供關係よりする鋭敏なる刺戟作用に促進され、既に占め得たる日本の地位も將來絶對に逆轉せずとは限らない。歴史的には我れ勝てりと雖も、漫然捷利の甘酒に陶醉して居つては逆襲、又逆襲漸次受太刀とならねばならぬ怒れなしとは何人が保證し得やう。此の故に日本としては今に於て、豫め激烈なる競争戰の迫出に善處すべき對策を講じ、能ふ限り未然に之を防止すると同時に益々海外に於まる需要の増加を喚起することに努力せなければならぬ。

しかも其の對外策は唯だ一ありて二あるを知らず、即ち飽く迄も科學的研究を進めると共に極度の經濟的節約法を採用し、以て品質の優良と多量生産主義を實現することである。再言せば多量生産に依つて生産原價を低下し、品質の優良と相待つて低廉なる支那生絲を凌駕する。價格だけ低廉ならば雷に支那生絲の脅威を受くる危険なきのみならず、海外の需要は益々増進するに相違なく、品質の優良なる限り何ものも我が牙城を侵すことは出来ない。單に日本の利害のみを標準とする時は輸出貿易の首座を占むる生絲の如きは其の價格の高さが上にも高かるべきを欲すと雖も、他に競争者の出現を豫想せらるゝ場合に在つては獨り相撲を取り能はぬ。又假りに價格を低廉ならしむるとしても、多量生産主義に依る原價の切り下げは毫も生産者を苦しめず、それが必然需要を刺戟し増加するが故に益々生産者の利潤を多からしむべきは經濟の通則として何等疑ひを容れないのである。

此の理は所謂人造絹絲の壓迫に對しても同様である。世界的普及性を有する人造絹絲の將來は後に述ぶるが如く大に注目すべき事業であるが、之を蠶絲と比較すれば兩者各々品質を異にし、隨つて需要の範圍にも自ら別がある。たとへ外觀的に酷似するにもせよ、種々微妙細微の點に於て到底人造品を以て天然絲の價値を滅却し能はざるは、如何に人造樟腦や、養殖眞珠を以てしても本來の實物を無價値ならしめ能はざると同じであり、寧ろ實際的には却つて天然絲の特長をヨリ尊重せしむることゝもならう。現に米國は世界各國中人造絹絲の最大生産國であるが、而かもこれが爲に我が生絲の需要は少しも減退せず、即ち大正十四年に於ける生絲の對米輸出量は約五十萬俵であつたが、昭和三年には六十一萬餘俵に増加してゐる——米國の統計調査に據れば、過去十年間に於て、毛物の需要には殆んど増減なきも、綿絲は二割を増加し、而して此の間生絲は二倍、人造絹絲は十五倍の需要増を示してゐる。此の事實は毛及綿絲が單に實用向需要限度に止まれるに對し、一般の嗜好は絹物又は絹物類似品に向ひつゝあることを物語るものと解せられる。故に天然絹絲の將來は其の價格だに可及的低廉なるに於ては、何等悲觀の要なきのみならず、益々需要増加の趨勢に在りと認め能ふと同時に其の價格が高ければ高い程、消費量の増大を望み難くして生絲に對

する愛好者も己むなく人造絹絲を代用することになる。即ち問題は主として唯だ價格の點に在るのみである。

斯く推究し來れば我が蠶絲業に對する一部の懷疑論は餘りに神經過敏に過ぐといはねばならぬ。さりとて現勢のまゝに放慮して差支なしと



ると同じであり、寧ろ實際的には却つて天然絲の特長をヨリ尊重せしむることゝもならう。現に米國は世界各國人造絹絲の最大生産國であるが、而かもこれが爲に我が生絲の需要は少しも減退せず、即ち大正十四年に於ける生絲の對米輸出量は約五十萬俵であつたが、昭和三年には六十一萬餘俵に増加してゐる——米國の統計調査に據れば、過去十年間に於て、毛物の需要には殆んど増減なきも、綿絲は二割を増加し、而して此の間生絲は二倍、人造絹絲は十五倍の需要増を示してゐる。此の事實は毛及綿絲が單に實用向需要限度に止まれるに對し、一般の嗜好は絹物又は絹物類似品に向ひつゝあることを物語るものと解せられる。故に天然絹絲の將來は其の價格だに可及的低廉なるに於ては、何等悲觀の要なきのみならず、益々需要増加の趨勢に在りと認め能ふと同時に其の價格が高ければ高い程、消費量の増大を望み難くして生絲に對

する愛好者も己むなく人造絹絲を代用することになる。即ち問題は主として唯だ價格の點に在るのみである。

斯く推究し來れば我が蠶絲業に對する一部の懷疑論は餘りに神經過敏に過ぐといはねばならぬ。さりとて現勢のまゝに放慮して差支なしとの見解も亦無條件的には成立しない。特殊の事情に依りて世界的好景氣時代が到來し永續するか、又生絲に對する新たな需要方面が発見されるか、或は少くとも米國の財界が特に躍進的繁榮を告ぐるか、ともあれ何等か特別の理由なき限り、絲價の低廉なることを要求せらるべき環境に立つものとして今後の對策を講ずるにあらずんば、我が國に取りて萬全の計とはいはれない。それには何としても多量生産主義が第一要義であり、多量生産主義にして而も品質の優良なるを期するには科學的及經濟方法に基き邦人の特技を利用して其の目的を達成する以外に別の手段はあり得ない。此の意味に於て現消極内閣が極めて少額なる養蠶の科學的助成費をすら削除せるがときは蓋し拙策である——尙勞銀の昂騰桑園の枯衰、產繭増率量の停頓等を理由として早くも斯業の前途に失望の嘆聲を發するものありと雖も、それは餘りに現狀に拘泥せる片面觀たるを免れない。勞銀は元來物價の高低に伴ひて上下するのみならず、勞働能率だに増進せば敢て深く憂ふるを要せず、殊に我が國の蠶業は半ば農業の副業たる性質を有するが故に實際上には融通性もある。又桑園、蠶繭、製絲等の問題に關しては、これこそ更に科學的研究に依り改良進歩を圖るべきものであり、我が國が支那其他に對し大なる強味の一つは此の點に存在する——

それで問題の焦點は如何にして多量生産、品質優良、以て斯業の將來を隆盛ならしむべきかに歸着すると共に、それは當然に蠶絲政策確立を要求せずんば己まないのである。試みに我が國斯業に對して最も緊要とする施設を例示すれば、

- (1) 桑園の改良
- (2) 蠶兒飼育法の改良
- (3) 蠶種の改良と配給法の改善
- (4) 製絲及加工業の改良
- (5) 繭取引、製絲及貿易關係の統制並に組合組織の改善
- (6) 共同倉庫の設立
- (7) 養蠶、製絲及輸出に對する金融の改善、特に其の金利引下
- (8) 其の他各種の指導、獎勵及保護

茲には是等各事項に關し細かに所見を説くの違なけれど、要するに其の總てに通じて科學的實驗と經濟的經營とに基き第一に良質多産、第二に加工完成、第三に輸出増進の實績を擧ぐるに在る。吾々の信する所に依れば、如上の諸施設を合理的に於ふに於ては少くとも現在蠶絲の生産額を二倍以上三倍にすること敢て不可能とせず。随つて其の價格を相當の程度に低廉ならしむるとも、以て農家及製絲業者の利益を減少



せざるのみか、今日よりも確に多くの收得を齎すに相違ないと思ふ。何となれば生産増加、價格低廉の結果として必然的に需要の増大を來らし輸出の累進を期待し得るからである。

併しながら以上の施設は區々片々たる一時凌ぎの小策や姑息不徹底なる申譯的のものであつてはならない。首尾一貫し經緯相聯絡せる確乎たる方策として運用されなければならない。語を新たにせば即ち徹底的及積極的なる蠶絲政策を樹立し、内閣の更迭又は政黨政派の關係等に累せらるゝことなく國家及國民經濟上の大方針として實現し遂行するにあらざれば、以て其の完きを期し難いのである。幸に這般の政策に確立されたとせば、支那絲との競争も人造絹絲の壓迫も左までの問題では無く、最近絲價の暴落や繭安の爲に惱みつゝある農家の困難も、將來は根本的に救はれ得ると共に、十億圓内外の輸出額をして十數億乃至二十億圓に増加せしむること單なる机上論では無いと信ずる。

### (五) 綿紡織と人造絹絲に就て

我が輸出貿易の第二位を占むるものは綿絲及綿布類である。凡そ我が國に於て何等政府の保護に依らずして而かも世界列國に對し毫も遜色なき實績を挙げたるものは何ぞやと問はば、何人も指を綿花工業に屈すべきを疑はない。他の殆んどあらゆる事業が卅接政府の庇蔭の下に立ち、然らざるも關稅其の他の方法に依り擁護せられつゝある中に、我が紡績業が獨立獨歩、毅然として國際市場に躍進しつゝあるは確に人意を強くするに足る。

それは綿絲が國民の必需品であることは主なる強味があり、紡績の業が我が國土に適し我が國民の特技たる長所を有することも大なる原因の一つに相違ない。而かも其の原料を外國より購入して國內の需要を滿たし、そして外國へも輸出するのである。此の點からいへば純國産にして且つ世界總産額の六割五分をも占むる生絲業者が、頻々政府の保護を求めて已まざるが如きは寧ろ憂ふべき現象といはざるを得ない。それは即ち製絲家の經營或は組織に何等かの缺陷があり、若くは健全なる企業たらしむる上に何等か不合理なる事由の伏在せるが爲か。ともあれ綿紡の自由なる發展と比較すれば一見生絲業者の甚だ不甲斐なきを聯想せずには居られない。故に益々蠶絲政策を確立すると共に事業統制の緊要なるを痛感せしめるのであるが。綿紡に至つては之に異り、時に消長は免れざれども常に自力自營、而して常に進取的であり、積極的であり、舊つて海外貿易の尖端に突進し、潤歩しつゝあるを壯とすべきである。

故に事の綿絲紡織業に關する範圍に於ては、最早や吾々が嗚々の辯を要しないのである。其の基礎に於て、資本及經營的財能に於て、技術に於て、他の如何なる事業よりも堅實性を持つて居る。故に國家として經濟政策上の任務は、將來に於て更に一層の發展を期すると共に、海外に在つて國際經濟戰に打勝つべき努力に助成すること以外、他は總て當業者に一任して可なりである。

但し現時の綿絲紡織業が既に理想的にして完全無缺の状態に在りやといへば、未だ容易に然りと答ふることは出來ない。例へば英國の斯業

者は年々約七億圓の棉花を輸入して之を綿絲布に完製し、原料代に倍加する十四億圓餘を海外に輸出する。即ち棉花輸入額を差引きて毎年七億圓以上の利益を國民經濟に提供しつゝあるのであつて、此の一點は我れに於て尙甚だ彼れに及ばざるを遺憾とする。參考の爲め大藏省貿易



緊要なるを痛感せしめるのであるが、綿織に至つては之は異なり、時に消長は免れざれども常に自力自營にして常に進歩してあり、舊つて海外貿易の尖端に突進し、潤歩しつつあるを壯とすべきである。

故に事の綿織紡織業に關する範圍に於ては、最早や吾々が呶々の辯を要しないのである。其の基礎に於て、資本及經營的財能に於て、技術に於て、他の如何なる事業よりも堅實性を持つて居る。故に國家として經濟政策上の任務は、將來に於て更に一層の發展を期すると共に、海外に在つて國際經濟戰に打勝つべき努力に助成すること以外、他は總て當業者に一任して可なりである。但し現時の綿織紡織業が既に理想的にして完全無缺の状態に在りやといへば、未だ容易に然りと答ふることは出來ない。例へば英國の斯業

者は年々約七億圓の棉花を輸入して之を綿織布に完製し、原料代に倍加する十四億圓餘を海外に輸出する。即ち棉花輸入額を差引きて毎年七億圓以上の利益を國民經濟に提供しつゝあるのであつて、此の一點は我れに於て尙甚だ彼れに及ばざるを遺憾とする。參考の爲め大藏省貿易統計に據り、我が綿織紡織業の概況を掲げて置く。

綿織紡織事業概況 (單位一千圓—高萬圓以下約數)

年次	綿織物		メリヤス類		其他共合計
	棉花輸入額	綿織品輸出額	メリヤス類	其他共合計	
大正元年	二〇一、〇〇〇	五三、〇〇〇	二六、〇〇〇	九、〇〇〇	九三、〇〇〇
昭和元年	七二六、〇〇〇	七一、〇〇〇	四一六、〇〇〇	二九、〇〇〇	五三〇、〇〇〇
同 二年	六二五、〇〇〇	三九、〇〇〇	三八四、〇〇〇	三二、〇〇〇	四九六、〇〇〇
同 三年	五五〇、〇〇〇	二六、〇〇〇	三五二、〇〇〇	三四、〇〇〇	四二六、〇〇〇

今より十九年前の大正元年當時に比し斯業の變遷が如何に在るか右表に依つて大略察知し得やうが、此の間棉花輸入額が二億圓より五億五千萬圓即ち二倍七分強を増せるに對し、綿織品輸出が同期間約四倍七分を示せるは大いに喜ぶべきである。併しながら其の原料輸入額と製品輸出額とを比較して、尙一年一億二千萬乃至二億圓の入超を示すは、前記英國が七億圓内外の出超となりつゝあるに對し、等しく世界的紡織工業國の地位を占めつゝ尙餘りに多くの開きがあり、甚だ物足らぬ感じを禁じ能はぬのである。

この事實は言ふ迄もなく英國の紡織設備は殆んど我が國の夫れに十倍し、更に多年の精練を重ねた爲めと、一面には我が國內の需要多量の爲め、彼我同律に論じ能はざるに由る。併しこゝに特に留意すべきは彼國の設備は數に於てこそ十倍すれ、既に其の大半は老朽的であり、其の上勞働組合の運動に煩されて其の生産費が漸次に高まりし結果、諸外國の競争に押されて今や最も困難なる事態に陥つてゐることである。現に同國全體の紡織會社過去三ヶ年間の平均配當率は僅かに百分の一内外と言はれて居る程の状況にある。之に反し我が國は其の設備こそ六七百萬圓に過ぎないが、何れも最新の工場であつて其の能率は前者よりも遙に優良なるが上に、更に豊富低廉なる勞働者を有する事に依り、此の數年間猛然として世界の各市場に突進し、印度、支那は勿論バルカン半島、南亞方面迄もその販路を開拓し、英米等の先進國を假令一部たりとも凌駕し得たるは明かに我が國の紡織工業が世界の經濟戰に打勝ちつゝある證據と認められる。此の意味に於て吾々は是非共今一步を進めて、假令直ちに英國の實例の如くならずとするも、せめて近き將來に於て原棉と同額なる製品を輸出し得る迄に其の發展し希望して己まないのであり、又それは決して望みなき空想にあらずと思ふ。

さはあれ、英國の紡織業者が既に我れに對して多大の脅威を感じ、百方防衛策に苦慮しつつあると同時に、我が國の前面にも漸次支那の同業者の接踵し來りつゝあるを知らねばならぬ。又各國の關稅政策其の他種々の對抗的氣勢を示すあり、殊にランカシア多年の潛勢力と其の



精練熟達せる經驗中に吾々に於て未だ及ばざる點少からず、更に彼れに學びて大に奮發せなければならぬのである。そして粗製品より上級品へ、生地より染色ものへと益々進化向上すると共に、ヨリ一層販路の開拓に努力し、當面の難局に屈することなく勇往激勵すべく、政府としても亦金融、爲替若くは動力及戻税等について適當なる方策を講じ、以て輸出の増進に助成して然るべきである。

次に上に蠶絲及紡績業の一斑を述べたる序を以て茲に少しく人造絹絲の事を加へて置く、其の生産及輸出額に於ては未だ前兩者に比し大なる懸隔ありとはいへ、其の事業相似せる點より見て、又我が國に好適なる輸出品として頗る有望視せらるゝ點より考察し、人造絹絲の將來は特に注目の價値ありと思ふ——所謂人造絹絲の稱呼は今日甚だ妥當を缺くの感ありて、世界的にはレーヨンと呼ぶを可とするも暫らく通俗に隨ふのみ——

曾てユヂソン翁は半世紀後の世界を想像してレーヨンの需要が天然絹絲に取つて代るべしと豫言したが、それは固より一場の戯言にあらずんば、此の新事業に對する最大級の形容詞であらう。だが、人造絹絲の發展は世界の發明王をして斯く迄に豫言せしむる程に驚異的であり織維工業に對する革命的記録を示しつつある。そして最近の業績を見れば、

人造絹絲生産高 (單位百萬封度)

	一九二七年	一九二八年	一九二九年
米 國	七五	九八	一三三
英 國	三九	五二	五九
伊 國	三六	四七	五三
獨 逸	三一	四一	四五
佛 國	二一	三〇	三七
和 蘭	一六	一六	二〇
日 本	八	一一	一八
白 國	一三	五	一五
瑞 典	一〇	一一	一一
其他各國共、合計	二六七	三四五	四二四

米國の一雜誌に據る。但し日本の生産實數は本表よりも多きこと次表に掲ぐるが如し。

米國の人絹生産高は上表の如く世界の第一位を占めてゐるが、其の消費高も交我が國より輸出する生産を凌駕し、之に次ぐは英獨佛であり

日本も此の數年來生産及消費共毎年五割以上を増加しつつあるのみならず、一昨昭和四年に至つて貿易の形勢一變し、從來の輸入國より輸出に好轉するに至つた。



白	一三	五	一五
瑞	一〇	一二	一二
其他各國共、合計	二六七	三四五	四二四

米國の一雜誌に據る。但し日本の生産實数は本表よりも多きこと次表に掲ぐるが如し。

米國の人絹生産高は上表の如く世界の第一位を占めてゐるが、其の消費高も交我が國より輸出する生産を凌駕し、之に次ぐは英獨佛であり

日本も此の數年來生産及消費共毎年五割以上を増加しつゝあるのみならず、一昨昭和四年に至つて貿易の形勢一變し、從來の輸入國より輸出に好轉するに至つた。

我が國の人絹事業概況 (單位千封度)

	生産	輸入	輸出	消費
昭和二年	一〇,〇〇〇	七九九	三七	一〇,六七二
同 三年	一六,〇〇〇	二二六	六八	一六,一八八
同 四年	二五,〇〇〇	二二四	二五二	二五,三七二

かくして昨年度に於ける人絹織物の輸出は約四千八百萬ヤード、外に斤量單位のもの約十五萬斤を加へて其の價格二千八百萬圓餘に上つてゐる。勿論一面には尙輸入品の跡を絶たざる事實を見通し能はずと雖も、年々激増しつゝある國內の需要を満たし、其の上に輸出超過を示すに至れるは主として國家の保護政策に基くにもせよ。之を多とすべきであり、今後に於ては更に大いに支那其の他の方面に販路を擴張し得べき可能性あるを十二分に認められる。

改めて説く迄もなく人絹は純然たる化學工業品たるが故に蠶絲、棉花及麻等に比し、氣候風土又は蟲害等に依り直接生産に影響を及ぼすと少く、随つて價格の高低にも弾力多く、且つ世界何れの地に於ても企業し得る便利があり、これこそ専ら科學と技術とに依る國際戦裡の産業である。此の意味よりいへば生絲及綿紡織事業に特殊の長所を有する日本としては、將來前兩者と共に最も有望なる産業たるや疑ひなく、而かもそれは互ひに併行して各國の需要を喚起し能ふものである。これ吾々が茲に此の事業に關し一言を添へたる所以に外ならない。精しく言ふならば固より此の事業にも根本的には其の原料たるバルプの問題があり、一時的には市價の變動も昨年來尋常では無い。しかし蠶、棉、麻の何れもが二割乃至三割の操短を行ひつゝある受難期に際し、たとへ若干の操短と義務輸出を要制するゝにもせよ、各社概ね相當の利益を擧げ堅實の發展性を認められつゝある人絹事業の將來は頗る心強きものがあると思ふ。故に今後の要件としては、製紙用バルプと共に速に此の方面の原料供給の途を講じ、科學的研究を遂ぐると同時に、益々其の技術を精良にし、進んで海外販路の開拓を圖らねばならない。それには政府としても相當の施設を講じ指導獎勵の任を盡して然るべきである。

(六) 造船と化學工業に就て

既記英國の實例に隨へば、彼れが輸出品の主目は綿製品其の他の衣料に次ぎて鐵、機械、造船乃至化學製品等にある。日本には日本特殊の事情あるが故に、必ずしも彼れが先蹤を逐ふを要せずと雖も、所謂東洋の英國として目せらるゝ我が國が大體に於て同様の方針に依ることの



なるは重ねて語を勞する迄も無いと思ふ。而して吾々は是等の各産業中、

製 鐵

機 械

の事は既に前に之を略説したるを以て、茲には少しく造船事、及化學工業について記述する。

世人の知る通り我が國の造船事業は明治以來最も顯著なる發達を示せるもの、一つである。當初殆んど總ての軍艦と汽船とを外國に注文したる日本が、今は世界最優秀の軍艦も商船も自らの手に製造し得るまでに進歩するに至れるは、海國たる日本として固より必然の結果であらねばならない。現今世界各國の商船所有數は昭和三年ロイドの調査に依れば、

英 國	一九八七萬噸	米 國	一四六三萬噸	日 本	四一四萬噸
獨 逸	三七七萬噸	伊 國	三四三萬噸	佛 國	三三四萬噸

の順序であつて日本は世界第三位に在る——歐洲大戰前には獨逸が世界の第三位を占め、日本は漸く第七位に置かれてゐたが——而して歐洲戰爭時代には海運事業の熱狂的好景氣に際會し、我が國の船舶總收入實に四億五千萬圓（大正七年度）にも上つたのである。それが海軍の充實と共に、我が國の造船業を刺戟して長足の發展を遂ぐべく力づけたことは言ふ迄もないのであつて、戦後の反動期に入り此の方面の打撃は痛刻を極めたといへ、現在我が國に於ける造船業は一千噸以上の建造能力を有するもの十九、船臺七十七、船渠四十六、其の公資本二億三千萬圓、拂込一億六千五百萬圓、外に社債七千六百萬圓、借入金五千五百萬圓と稱せられる。そして其の投資に依る造船能力は一ヶ年少くとも五十萬噸を下らないのである。

然るに斯くまで發達せる我が造船業の近情如何と問へば近年甚だ振はず、之を世界的に見るロイドの調査では、

各國造船概況（單位千噸）

	一九二六年	一九二七年	一九二八年
英 國	六四〇	一、二二六	一、四四六
米 國	一五一	一七九	九一
日 本	五二	四二	一〇四
獨 逸	一八一	二九〇	三七六
佛 國	一一一	四四	八一
伊 國	一一〇	一〇一	五九

和 蘭	九四	一一〇	一六七
日 本	七二	七二	一三九
獨 逸	五二	四二	一〇四
佛 國	一一一	四四	八一
伊 國	一一〇	一〇一	五九



英	六四〇	一、二二六	一、四四六
米	一五一	一七九	九一
日	五二	四二	一〇四
獨逸	一八一	二九〇	三七六
佛	一一一	四四	八一
伊	二二〇	一〇一	五九

和	九四	一一〇	一六七
丁	七二	七二	一三九
瑞	五四	六七	一〇七

英國は依然トップを切つてゐるが、之に次ぐは復興途上に在る獨逸であり、日本は無残にも上記九ヶ國中の最低位に落ちつゝある——昨年  
 年は新造船十六萬噸、昨年は十二萬噸臺になつたが本年は軍縮問題と關聯して更に低下の趨勢に在る——斯くして總能力五十萬噸の建造設備  
 を持ちながら、僅に十萬噸内外しか活用されず、甚だしき時は四五萬噸臺の造船にも甘んぜざるべからざるが如き苦境に立つに至つては、國  
 家及び國民經濟上漫然看過し難き逆勢ではないか（而かも他方に在つては一昨年の如き二十五隻一千百萬圓以上の汽船を外國から購入してゐ  
 るのである）

それは勿論、世界的不況時代の現象に相違なく、随つて此の種の受難は單に日本限りの問題では無い。現に英國の如き其の建造能力の巨大  
 なるに比して利用率は極度に低下し到る所に悲鳴を上げてゐるが、然し事業本來の性質よりいふならば、少くとも我が日本に關する限り、造  
 船業の將來は有望且つ多幸であらねばならぬ筈である。否、朝野の協力に依り之を有望且つ多幸ならしめむべく導かねばならないのである。

蓋し我が國の船舶は其の隻數及噸數に於てこそ世界の第三位に在れ、中には多くの老朽船を含むが故に實質的には第四位の獨逸に劣り、隨  
 つて海運收入も彼れに比すれば少額である。現今優秀船の競争時代に方りて通商交易の利を得んが爲には、勢ひ老朽船の淘汰を餘儀なからし  
 むこと必然なるを以て、自然造船業の前途を多望にする可能性あるのみならず、炭用船が漸次デイゼル船に變更さるゝは經濟上必然の理にし  
 て已に世界共通の現象である。然るに我が國には尙デイゼル船の所有甚だ少くして今後此の方面の需要及改造も當然に活氣を呈するであらう  
 ことを推定せしむる理由がある。加之其處に適當たる施設をだに講ずるならば、世界一半の需要をして我が國に差向けしむることも決して至  
 難では無い。英國の造船業が世界的である以上、例へば我が紡績が英國と角逐しつゝある如く、日本の同業者が彼れと同様の立場に進み、同  
 様の利益を博し能はぬといふ制限は絶対に存在せず。況んやその技術及能力に於て我れ既に彼れに遜らず、別して勞銀は我れ尙遙かに彼れに  
 比し低廉なるに於てをやである。

だが問題は是れも亦價格の點と、而して販路の開拓如何に在る。主として我が海軍方面の註文に期待を懸け、依つて以て斯業の繁榮を望む  
 が如き時代は既に過去に入らんとしてゐる。それよりは國際的經濟戰の利器として大に飛躍するだけの自信と計畫を必要とするのである。之  
 が爲には第一に其の主要材料たる鋼鐵の製造を盛んにし、その生産價格を外國よりも低廉ならしむるを絶対條件とする。之に次では經營の改  
 良を求める。例へば資本の二重乃至數重投下を防止すべく企業之合同又は統制を行ふが如き、規格を定めて所要材料及業務の部分的作業或は  
 製造を行ふが如き、當業者それ自身に於て率先改善の實を擧ぐると同時に、政府としても動力、金融其の他の政策に於て宜しく之を開導する



の方策を執るべきである（最近消極内閣が造船業資金貸付子補給法の名の下に僅々八萬圓程度の豫算を計上して足ると爲せるが如きは餘りにも姑息の小計といはざるべからずして、眞實には果して國策の重要義を理解せるや否やをすら疑はしめる）。

次に化學工業について一言せんか。斯業の淵藪は獨逸を筆頭とすべきであるが、歐洲戰爭中製品の輸入杜絶するや、その刺戟に依り我が國に於ても相當の進展を促したに拘はらず、戰後忽ち獨逸品に壓せられ現時多くは關稅の保護の下に漸く殘喘を保つが如き感なしとせない。所謂化學工業の範圍は頗る廣汎にして既述の人造肥料及人造絹絲の如き其の一種目に屬し、國內の生産大に見るべきものありと雖も、工業藥品染料、醫藥品、化粧品材料等の如き亦何れも化學工業の一科を爲すものたるを見忘れてはならぬ。而して我が國は其の工業原料たる曹達類のみにて昭和三年度一千三百萬圓、智利硝石六百萬圓以上を輸入し、染料も人造藍、塗料等を加へて三千萬圓以上の輸入がある。但し部分的に見れば工業藥品に屬する硫酸の如き年産一千八百萬圓内外に上り、國內の需要を滿たして餘剩百萬圓内外を輸出し、硝酸、鹽酸、醋酸等も稍々自給の域に達しつゝある。但し其の生産價は獨逸に比して尙遙かに高い。

我が國には人造肥料其の他化學工業の基本的要素とも云ふべき硫酸の原料たる硫化鐵礦を産出し。又硫黄も石炭も敢て事缺かない。獨英佛の如きは硫黄が無く、硫化鐵礦も不足し之を他國の供給に仰いでゐるのである。即ち部分的には我が國の方が化學工業に於て有利の立場に置かれてゐるのであるが、唯我が國に取り苦痛とする所は曹達灰及苛性曹達の原料たる鹽の缺乏を告ぐることである。換言せば化學工業の二大要素たる酸とアルカリの中、酸は我れに於て不足せざれど、アルカリを缺く。随つて鹽專賣法の利害如何が極めて切實なる問題となつて來るのである。我が國は多雨多濕の爲め海鹽の製造を妨げ、且つ岩鹽の産出なきを以て一部を臺灣より移入する外、更に不足を支那より輸入してゐるが、しかし一面より考ふれば政府の專賣の爲め却つて製鹽業の發達を阻止し、又海外よりの自由なる輸入を抑塞してゐる憾みもある。政府の方針は重きを食料用途に置いてゐるやうであり、事實に於て我が國現時の消費は鹽の大部分を漬物用、味噌用、醬油用、魚類用等に充當され、工業用は未だ全需要額の一割内外に過ぎざる状態に在れど、其の代りに別に一千三百萬圓もの曹達類を外國から輸入してゐるのである。此の點に於て鹽專賣法の存在が動もすれば化學工業の發展に不良なる影響を與へつゝあることは大に考慮せねばならぬ。須らく政策を一新するか、又は適法を設けて更に工業用鹽類の生産に關する關東洲の鹽業政策を助成し、又は支那鹽の輸入を便ならしめんことを必要とする。右は化學工業に關する一應の所見を陳べたに過ぎないが、獨逸は此の一工業の爲にすら戰後數年ならずして四億圓以上を輸出し、英國の如きも二億五千萬圓を對外的に收穫しつゝある。元來化學工業は原料其の他に基因する國際的障壁を科學的に打ち破りて人類の經濟生活を自由なる世界に解放するとまで言はれてゐる。我が國の爲政者は近視眼的事象に没頭せず、宜しく永遠の計を此の方面に運ばねばならない。そして現に存在する各種研究の如きも統一的組織的に大擴張をなし、部門を定めて發明及改良の進展獎勵を督勵し、列國に比して遜色なき事を期せねばならぬ。

## (七) 水産業の改良と畜産

現在我が國は世界に於ける五大水産國の一を以て目せられ、英、米、加那陀及那威と共に、斯界の優者たる地位に在る。若し單に其の魚獲



新するが、又は適法を設けて更に工業用鹽類の生産に關する關東洲の鹽業政策を助成し、又は支那鹽の輸入を便ならしめんことを必要とする。右は化學工業に關する一應の所見を陳べたに過ぎないが、獨逸は此の一工業の爲にすら戰後數年ならずして四億圓以上を輸出し、英國の如きも二億五千萬圓を對外的に收穫しつゝある。元來化學工業は原料其の他に基因する國際的障壁を科學的に打ち破りて人類の經濟生活を自由なる世界に解放するとまで言はれてゐる。我が國の爲政者は近視眼的事象に没頭せず、宜しく永遠の計を此の方面に運ばねばならない。そして現に存在する各種研究の如きも統一的組織的に大擴張をなし、部門を定めて發明及改良の進展獎勵を督勵し、列國に比して遜色なき事を期せねばならぬ。

### (七) 水産業の改良と畜産

現在我が國は世界に於ける五大水産國の一を以て目せられ、英、米、加奈陀及那威と共に、斯界の優者たる地位に在る。若し單に其の漁獲高よりいふならば、五大水産國中に在つても、日本は確に世界の王座を占め得る資格があり、専門家の説に隨へば、現地球上に於て收穫せらるゝ總水産額の四分の一は日本國民の手に掌握してゐるといふ。然るに之を貿易の方面より見ると五大水産國中最も漁獲高少なき那威が年額約八千萬圓を海外に輸出し、加奈陀も亦約六千萬圓を各國に送り出してゐる。之に對して我が國は如何と問ふに、上表の如く魚貝類その他あらゆる水産物を合して約五千萬圓内外である。

我が國水産輸出額 (單位一萬圓)

年	次	一 般 水 産 物 (魚貝昆布其他)	罐 詰 魚 介 (カニ其他)	特 殊 水 産 物	合 計
昭和元年		二、二六五	一、三九九	九三三	四、五九八
同 二 年		二、〇一三	一、七八二	一、一五八	四、九五三
同 三 年		一、七三七	一、一〇七	一、三〇四	五、一四八

特殊水産物は魚油及鯨油、寒天、沃度、沃度加里、珊瑚及其の加工品を含む。

右表の外、露領において漁獲せるもの、中、鮭、鱒及蟹を合せて海外に輸出するもの年額約三千万圓内外がある。故に之を前表と合すれば我が水産輸出總額は八千万圓内外となり、綿絲及綿布類に次ぎて輸出品中の第三位を占めるのであるが、顧みあ我が海國たる自然の地位と環境とを考ふるときは如何。

繰り返す迄もなく我が國は四面環海、殊に世界三大漁場の一と稱せらるゝ、ベーリング海に近接し、加ふるに支那海及日本海の大漁場を存し太平洋面には魚族の繁殖に好適なる潮流に恵まれてゐるのであつて、陸地とは正反對に、天然の恩寵は正に天下に冠たりといふも決して過言ではあるまい。之を以て古來魚類は我が國民の保健上最要の食料となつて居り、獸肉に代つて食膳の用に供せられつゝある關係上、其の漁獲高の極めて多量なるべきは當然たらねばならぬ。

農林省の統計表に據れば、

我が國漁獲高概況 (單位百萬圓)

年	次	内地沿岸	養殖	△遠洋漁業	トロール	合計
大正元年		八五	二四	五	〇	九四



昭和元年	二二三	一七	八五	九	三三五
同 二年	二二九	二三	七九	九	三四〇

△右表の遠洋漁業は内地沖合を指す。

◎大正元年度トロール船漁獲高は遠洋漁業中に合算す。

斯くの如く單に内地沿岸に於ける漁獲物のみならず昭和二年産額二億三千萬圓に近く、これに養殖其の他を合すれば實に三億四千萬圓に上るのである。其の上に露領方面のもの、捕鯨船に由るもの並に關東洲及朝鮮方面に於ける遠洋漁業の分を加ふれば、其の總收穫高は恐らく四億五千萬圓以上に達するを疑はない。然るに其の輸出高は罐詰類及特殊生産物を加へても尙ほ五千萬圓内外に過ぎないのである。

それは勿論、一般國民が魚肉を常食と爲すに由るにもせよ、實際には尙ほ漁業組織、設備及利用經營法に不完全なる爲め、生産の増加未だ理想的なる能はざるの事實を見通すことは出来ない。我が國水産業者は現今約百五十萬人を超えて居り、漁船の總數は約三十萬噸と算ふれば其の中動力を備ふるものは僅に二萬隻餘に過ぎない。即ち總數の十八分の一だけが漸く近代化したのである——それでも大正の初に比すれば動力船は十倍の増加であり、近來は年々三千隻乃至五千隻位づゝ在來式の漁船を改良し動力設備を加へつゝある——水産業者百五十萬人に對する四億五千萬圓の收穫は設備其の他の資本収入を零としても、一人平均三百圓未滿にしか當らない。以て其の生産の貧弱さを知るべく、同時に又其の漁獲方法の如何に原始的なるかをも推知し得やう。

現に前記の水産物、殊に内地沿岸漁獲物の種目を見るに基の大部分は鯨と鰻であり、容積よりいへば此の兩者が全收穫高の半數以上を占めてゐるのである。随つて其の價格は他の魚類に比して低く、之を食用とする少量の除いて専ら農家の肥料に供せられる。斯かるは食料輸入國たる日本として餘りにも不經濟極まるのみならず、其の事業及設備並に需供關係等の如何に未開的なるかを物語るものといはねばならない。

故に我が水産業を發展せしめんが爲には根本的に大洋漁業、漁船漁具の改良、及び運輸及貯藏の設備を完全にすると共に、一面には國內の供給を豊富ならしめ、他方には漁獲物の國際商品化を圖るを急務とする。それには冷凍藏を始め醃藏、燻藏、酢藏等の方法を奨励し適宜加工して製造食料たらしめねばならぬ。從來の如く節類其の他の乾製を主とする如きは寧ろ初歩時代の觀を脱せない。故に政府としては先づ漁業組合の設立改善等を促すと同時に、必要なる條件に依り簡單に低利金融の方法を講じて可なりと信ずる。かくして漁船漁具等の改良だに行はれたならば、其の漁獲高をして現時に倍加せしむることは寧ろ容易の業であり、そして完全なる設備と相待ちて新鮮なる魚肉を低價に供給するに於ては國民保健上至大の効あるに止まらず、其の輸出額を現時に二倍三倍ならしむることも敢て至難とはせない筈である。支那が漁業に極めて幼稚にして而かも需要の大なる、又歐米の消化力が自然的に著しく増進しつゝある狀況は、近時地中海に於けるトロール船の發達、フイツシユミールの販賣額に徴して明瞭である。

之に對する要策としては先づ第一に水産教育の普及發達を圖ることが、特に刻下の日本に於て最も緊切なる急務である。現時の如く水産科が農學部の中に寄寓する觀あるは甚だ妥當を缺く。須らく國家政策上の見地に依り之を獨立せしめ、世人の因襲的觀念を覺醒するに努むべきである。又水産學校の設立及擴張を奨励し、主として前記の如く實業的の性質を有するものとするべきである。



して製造食料たらしめねばならぬ。従來の如く節類其の他の乾製を主とする如きは寧ろ初歩時代の觀を脱せない。故に政府としては先づ漁業組合の設立改善等を促すと同時に、必要なる條件に依り簡單に低利金融の方法を講じて可なりと信ずる。かくして漁船漁具等の改良だに行はれたならば、其の漁獲高をして現時に倍加せしむることは寧ろ容易の業であり、そして完全なる設備と相待ちて新鮮なる魚肉を低價に供給するに於ては國民保健上至大の効あるに止まらず、其の輸出額を現時に二倍三倍ならしむることも敢て至難とはせない筈である。支那が漁業に極めて幼稚にして而かも需要の大なる、又歐米の消化力が自然的に著しく増進しつゝある狀況は、近時地中海に於けるトロール船の發達、フィッシュユミールの販賣額に徴して明瞭である。

之に對する要策としては先づ第一に水産教育の普及發達を圖ることが、特に刻下の日本に於て最も緊切なる急務である。現時の如く水産科が農學部の中に寄寓する觀あるは甚だ妥當を缺く。須らく國家政策上の見地に依り之を獨立せしめ、世人の因襲的觀念を覺醒するに努むべきである。又水産學校の設立及擴張を奨勵し、主として簡單なる實際的教育を漁民に普及し、又水産試験所の如き機關も盛んに活用する方法を講ずべきである。

若し夫れ水産と比較せらるゝ畜産類に至つては獨逸及米國の如き、單に製革のみにも一億圓以上を輸出しつゝありと雖も、我が國に於ては甚だ振はない。そは一に風土氣候、殊に牧場及牧草の生育、保管等に難あるが爲めなれども必ずしも絶望とは斷じられぬ。殊に我が領域内には朝鮮の一部の如き牧畜に適する地が他にも少くはないと認め得る。更に對内的に見て豚、兎等の如き舍屋畜類は農家の副業として近年各地に普及してゐるが將來益々之を盛んならしむべきである。就中鶏は輸入卵のみにも一時は年額千七百萬圓を越ゆる程の狀況を呈せし爲め近年頗る飼育數を増加し、且つ優良種及飼育法の改良に依り著しく産卵額も豊富となり、此の一兩年に於て殆んど輸入を擊退し進んで餘剰を輸出せんとする程に發展してゐる。併し毛皮族に屬する畜産は唯だ兎の食肉用を兼ねる外未だに見るべきはなく、養狐、鮑の如き少く之を試みつゝあるも尙未知數の問題たるに過ぎぬ。是等は今後其の飼育法を研究し奨勵普及を圖らば、小面積の地域を以て相當の實績、少くとも今日以上の收獲を擧げ得べき可能性ありと思ふ。他國の如く牛馬綿羊等の飼育には比較的不當なりとするも、家畜及小動物を各農家の副産たらしむに於ては、食肉用又は毛皮用等に益する所少しとせざるが故に、假令輸出を望み能はざるにもせよ、多少とも輸入を減じ併せて農家の収益を増進すべきである。我が國の鳥獸が近き年月の間に於て殆んど革命的に其の種類の變化せること、例へば牛馬にせよ、豚及鶏等にせよ今や極めて稀にすら純日本種を見出し難くなれる事實は即ち經濟的要求の如何に切實なるかを物語ると同時に、國家及國民生活の將來を考ふるものに取り深慮を缺くべからざる點である。

### (八) 有望産業の助成

以上は唯だ余輩の念頭に浮び出でたる數種の産業を例題として指摘したまで、あつて、その道の専門家達に於ては無論夙に熟知せらるゝ所である。のみならず、現在及將來に於ける國際的産業として最も有望なるものは前記以外にも多々あり、例へば

一、製紙、製糖製粉

一、陶磁器

一、アルミニウム及マグネシウム

一、時計、計器類



一、玩具

一、硝子類

一、麻製品

一、各種國際的的作品

等の如きは改めて説明を加ふるまでもなく、今後大に對外的發展を期待さるべきものであり、あらねばならない。

現今我が國の製紙事業は特殊品を除けば大體に於て自給自足の状態に在れど、其の原料計畫だに立たば、將來は益々支那及南洋等の方面に躍進すべきであり、製糖の如き今一段の農業的發展を計れば、更に大に可なりとする。又製粉事業の如きも、既に其の原料は他よりの輸入又は補充を要すと雖も、之を加工することに依つて現在すら既に相當の利益を擧げつゝあるは貿易統計の示す所であり、將來尙發展の餘地あるを餘想し得る。更に陶磁器類について見れば年々三千萬圓以上の輸出を缺かず、これに珐瑯鐵器及硝子類を加ふれば其の輸出額は五千萬圓乃至六千萬圓に達する重要品目となりつゝある。販路は米國を第一とし、加奈陀にも印度其の他の南洋にも將た歐洲方面にも開かれて居るが、併し之を獨逸に比すれば尙遙かに及ばず、其の品質技巧よりいつても獨のドレスデン、佛のセーブル、丁のコッペンハーゲン等に較べて未だ至らざるの憾みを免れない。元來窯業は我が國固有の工藝美術として長き傳統を有する産業たるに拘はらず、一部好事者間に愛翫せらるゝに止まりて其の特技を充分に國際的に發揮すべき趣味の普及も、宣傳的努力も未だ足らざる爲め廣く傳はらず、却つて下級品が單なる經濟的商品として取扱はれつゝある。今後は其の設備を完全にして優良品の多量生産を圖り國際的に發展する方針の確立を要する。既にトンネル竈の如き實驗に依り燃料節約の方法も工夫され、又低價なる夜間電熱の利用、塗料の研究等一層改善の途を講ずるに於ては必ずや將來一大輸出品として迎へられるであらう。

更に曩に列記せし作品中特に注目すべきは輕金屬の製作である。アルミニウム及マグネシウムの如き、其の原料は假令其の全部を外國に仰ぐとしても、それは販賣價值の十分の二三に過ぎずして其の主たる工費は一噸を作る爲め三四萬キロ時を要する電力代である。然るに其の電力は實に我が國に於て極めて豊富であり、殊に近來供給の過多を告げつゝある。我が國に輸入するアルミニウムは一萬二三千噸、金額にして一千万圓内外に上る。先づ之を自給して輸入を防遏するは勿論なれど、同時に世界各國に輸出することも極めて有望と信じ得る理由を有す。世界のアルミニウム總消費額は百二十萬噸、價格一億圓と稱せられ、最大の生産國は米國であるが、其の原料は専ら南米の輸入に依り而かも電力代は我れに比して高價なるが故に、我れに於て施設宜しきを得ば決して前者に對抗し能はざる筈がないのである。前年米國のシンジケートが富山縣黒部川流域に大量の水力使用權を出願して物議を醸したる事實に徴するも、我が電力が如何に本業に有利なるかを證明して餘りありと思ふ。又マグネシウムは將來アルミニウムと共に主要輕金屬として多大の需要あるは既に定論あり、而して兩種の世界に

於ける現需要額は約百二十萬噸、十億圓と言はれてゐる。我が水力電氣量が充分であり、料金が低廉なれば、何れも將來頗る有望なる輸出品たり得べきを疑はなう。

若し夫れ工作具及工作品に至つては其の種類甚だ多くして一々品目を擧ぐる邊なきも、製鐵其の地基本工業の發達と相持つて大に海外の



其の電力は實に我が國に於て極めて豊富であり、殊に近來供給の過多を告げつゝある。我が國に輸入するアルミニウムは一萬二三千噸、金額にして一千萬圓内外に上る。先づ之を自給して輸入を防遏するは勿論なれど、同時に世界各國に輸出することも極めて有望と信じて得る理由を有す。世界のアルミニウム總消費額は百二十萬噸、價格一億圓と稱せられ、最大の生産國は米國であるが、其の原料は専ら南米の輸入に依り而かも電力代は我れに比して高價なるが故に、我れに於て施設宜しきを得ば決して前者に對抗し能はざる筈がないのである。前年米國のシンジケートが富山縣黒部川流域に大量の水力使用權を出願して物議を醸したる事實に徴するも、我が電力が如何に本業に有利なるかを證明して餘りありと思ふ。又マグネシウムは將來アルミニウムと共に主要輕金屬として多大の需要あるは既に定論あり、而して兩種の世界に

於ける現需要額は約百二十萬噸、十億圓と言はれてゐる。我が水力電氣量が充分であり、料金が低廉なれば、何れも將來頗る有望なる輸出品たり得べきを疑はない。

若し夫れ工作具及工作品に至つては其の種類甚だ多くして一々品目を擧ぐる遑なきも、製鐵其の他基本工業の發達と相待つて大いに海外の需要に應ずべく精進するの必要は多言を費すまでも無い。又各種の雜品に就いていふも、例へば玩具の如き、ブラシユの如き、或は製帽用眞田の如き、其の多きは一千萬圓を超え、少きも五百萬圓内外の輸出を示してゐるのである。之を要するに總ての生産物を國際化することが輸出増進の根本的要義であり、而して之を實現せんが爲には優良、低廉豊富の三條件と、動力費の低下、基本工業の完成とを缺いてはならない。そは即ち國內生産に對する積極的方策のみが唯だ之を可能とする。

多くの人々の知るが如の獨逸の機械及化學工業等が世界に定評あると同様に、那威の機械、瑞典の化學工業も亦其の聲價は高いのである。瑞西の山中に製造せらるゝ時計や、チョコレートが全世界に販路を有し、チーズ、バター、肉類の罐詰等が、セメント、機械と共に歐洲の小國丁抹より各國に送り出され、伊太利製の帽子が歐米は勿論、日本の店頭に飾られつゝあるを目撃して之を無關心に看過するものは、未だ「世界の日本人」たる資格を具備せざる無自覺者といはねばならない。誰れか又原料の乏しきを憂ふるや。單なる特殊天産物のみに生命を託するが如き國民は、原始的民族若くば二三特殊の例外を別として世界何れの文明國にも殆んど見當らない。眞實に國際經濟戦裡の強者たらんが爲には優秀なる加工品を輸出するを第一要務とし、優秀なる加工品は國民の能力と技術とを最大要素とする。能力あるも之を激勵せざれば無能力者と擇ばず、技術あるも利用宜しきを缺く時は實の持ち腐れとなる。幸ひに其の能力を發揮し、其の技術を働かすべく精進するに於ては、人口の多ければ多き程、勞力の供給豊かなれば豊かなる程、以て國富を増進し國民經濟を擴充せしむる源泉となるのである。

輸入防遏といひ、輸出振興といふも、詮ずる所は國民それ自らの能力と技術との總和であり、總決算たることを意味する。如何にして其の總和總決算を有利ならしむべきか。其處には當業者それ々の自覺と奮勵とに依り其の生産及販賣過程を通じての協力、合同、能率の増進、事業の分業化、經濟化、合理化等々を必要とすると同時に、國家としては速に産業國策を確立し、效果的なる指導、統制、保護、獎勵等々を缺如してはならない。そして金融、交通、運輸税制其の他各般の上に産業國家としての施設を整備し、大中小の各企業を聯ねて十二分に其の機能と特技とを活用せしむべく働きかけねばならないのである。これ吾々が積極主義的政策を高調する所以であり、單に金融資本主義に拘着して徒らに國際貸借の改善を期待するが如きは、畢竟柱に膠して琴を彈ずるの類に過ぎない。所謂國產愛用の趣旨は固より不可なしと雖も、根本的には先づ國產を豊富にするか前提要件である。之を愛用することよりは、之を優秀にし、之を國際商品化することがヨリ緊切であるらねばならぬ。若しも國內の產出に事缺かば所詮愛用の途なく、之を國際商品化せずば、以て輸出を振興し國民經濟を富強ならしめ得ざるが故である。應に知るべし、消極主義と積極主義の政策的差異は退嬰と飛躍との對立に外ならざることを。但し現時の我が國民が其の何れを



妥當とするかは、是れ又智見と能力問題に歸着する。

論者或は言はん、今日我が國各工業は萎靡銷沈し、工場の多くは操業短縮或は閉鎖しつゝある、何の利益ありて更に新たに工業に投資するものあらん。然り、今日の不況に就いては其の原因もとより二三に止らずと雖も、就中其の主なるは、第一に是等工業の多くが専ら國內のみの需要に應ずる爲の計畫なりしに對し、寧ろ突如として其の消費の激減に遭逢したること。第二は其の企業が多く歐洲大戰中の好景氣時代即ち物價騰貴の時代に於てなされし爲め、自然其の設備に要せし資金が今日に比し遙かに高價に上り、隨つて生産原價の不廉なるを免れざること。第三には好況時代の需要率が戦争終了後と雖も依然永續すべしとの企業上の誤算を有せしもの少からざること等を見遁すことは出来ない。之を略言すれば國內の不況に由る消費の減退、外國の生産過剰よりする壓迫、加ふるに金解禁の爲に爲替に變動を來たし急激なる打撃を蒙れることを主なる原因とするのである。併しながら、若しも此の現實の狀況に恐れを懷きて最早我が國の工業は絶望なりとし一切の着手を見合せんか、そして依然として鐵も機械も自動車も其の他の工作品も從來の通り外國より購ふとせんか、我が國は未來永久、輸入國の地位を脱し能はずして、國際貸借の改善も、失業問題の解決も、遂に實現達成の時期あるを知り能はぬのである。吾々の主張する生産増加は現に過剩に苦しみつゝある事業を指すのではない。我が國に於て容易に工作可能なるものは外國品を排して是非我が國にて製作する、そして更に之を外國に輸出すべく努力することが國家經濟の上に絶對必要であることを高調するのであり、然らずんば徒らに手を拱きて他國の景氣回復を待望すとも、根本的には我が國が經濟的國難を打開し能はぬが故である。



## 第七章 金融機關の改善

### (一) 産業資金の充實と中央銀行

國家及國民經濟の建直しは積極的なる産業政策の開進に由る以外、何等效果的手段なきは既に章を重ねて論述した通りであるが、茲に其の國策を運行して所期の目的を達成せんとするに方り更に最も重要な要件を爲すものは低利なる産業資本の充實である。それは生産技能を圓滑且優強に發揮せしむる爲の油であり動力である。そは例へば人體に於ける血液の働きを爲すものであり、随つて其の心臓にも該當すべき中央銀行並に興業銀行、勸業銀行、農工銀行其の他の特殊銀行が、特に敏活有效なる役割を分擔せなければならぬことは、言を俟たない筈である。

顧みるに我が國に於ける産業及通商資金は多年高利にして、而かも圓滑を缺くの憾みを深からしめて來た。英米の利率が四分乃至五分程度に在るに對して、我れは常に八分乃至一割を負擔するの狀態に在りしは何人も知る所であらう。尤も最近一二年は寧ろ變態的に利率低下しつゝ、あれど、それにも拘はらず、事業資金は兎角缺乏を訴へられ、實業界の嘆聲は殆んど、總ての方面に共通なるかの如く聞き取れる。其處には有力なる中央銀行があり、政府の保護下に立てる特殊銀行が存在するにもせよ、産業資金の充實に澁苦を感じ、内外通商の取引を意の如くならしめ能はざる事實の屢々傳へらるゝは何故か。

歐洲大戰時代に於ける經濟界の好調は既に過去の夢物語であるが、其の後反動期に入れる矢先、更に不幸にも關東大震火災の打撃を受け、國民一般に意外なる深傷を負つたのである。爾來七星霜、朝野を擧げて整理と彌縫とに没頭し、加ふるに昭和二年の金融界の變亂に會し、更に今春の金輸出解禁と共に事業界の半恐慌の時代に遭遇し、其の影響極めて痛激なものがある。之が爲め資金は一方に偏集し、銀行に遊資ありと雖も生産的企業は殆んど中絶し、中小商工業者も、農業家も、齊しく金融難に喘ぎつゝある。遊資餘りありて事業興らざるは、一時變調期は別とし、一般的通則としては國民經濟の萎縮して振はざるが爲である。事業興らざるが故に完成品の輸入尙ほ防遏し難きのみならず、我が生産品の輸出も活況を呈せず。斯くして政府が保護奨励を加へたる開墾事業や、其の他の事業の如きすら殆んど企業を休止するに至り、殊に最近に於て各種工場の閉鎖、生産制限等相繼ぎ、延いて失業群の續出、購買力の減退等、恰も深淵に臨むが如き境地に追ひ込まれてゐるのである。



如上の現象を通觀し來り、更に遡つて根本的に所謂我が經濟國難の打開策に思慮を運ぶならば、産業國策を遂行するが爲の施設として、資金の充實、金融關係の改善に關し何人も切實なる考究の必要を痛感せずには居られまいと思ふ。

根本的及實體的意味よりする國民生活の安定と擴充とは、固より生産經濟を主とすべきであり、所謂金融經濟は前者を支持運行する爲の副機關であらねばならない。往時は資本經濟を以て最尊最貴としたる時代もあつたが、近代に於ては世界各國悉く生産經濟を主とせざる無く、而して其の機運の開展する所、名實共に圓滑なる信用經濟の發達を示しつつある。我が國の識者及賢明なる金融家の如き亦此の趨勢に順應して、國家の經濟に資益せんとする趣旨を離れざるべきは吾々の信じて疑はざる處であるが、中には生産經濟を輕視し、或は之を從屬物の如く誤認する結果、今日尙舊時代の金融資本主義の範圍に低迷しつゝある人士が絶無とはいへない。現に不自然なる消費節約を強調しつゝある消極内閣の如きは、寧ろ極端とも見らるゝ金融資本主義の奉持者たらずとせぬ。

苟くも經濟常識を失はざる限り、今更斯くの如き説明を加ふる必要もないのであるが、世間往々にして金融機關の本質的認識を見誤れるが如き論者もあり、甚だしきは中央銀行及特殊銀行の任務の如何に在るべきかをすら、何時の間にか忘却せるが如き議論に接することも稀では無い。民間普通の商事銀行は暫らく別問題として、先づ中央銀行の責務からいふならば、それは決して兌換券發行の特權を握りて利益を獲得するが爲の機關では無い。又國庫の出納、公債發行の代辨を爲すことだけが其の使命でも無ければ、金利の上下、國債の市場放出に依つて株主を利益することのみが本質的行務でもあつてはならぬ。まことは中央銀行こそ金融界の中樞であり總本家たるべき立場に在るのみならず、國民經濟の盛衰を左右し得る程の機能と與へられてゐるのである。隨つて産業の消長も、通商の浮沈も、中央銀行の働き方如何に關係すると至大であり、殊に國家の保護を受くること厚く、其の權能の廣汎なる點に於て、我が國の中央銀行は恐らく廣き世界にも類例少き異彩と稱し得やう。

我が日本銀行條例も最初は太政官布告に濫觴し、兌換銀行券條例も明治十七年の布達に依つて定められたものである。爾來小部分の改正は行はれたが其の根本の組織に於て、株式より成る營利的建て前は何等變更なく繼續されて來たのである。そして各種の特權に基き其の基礎の牽固不拔となり、盤石の堅實性を有するは一般國民と共に大に多とすべきであるが、聞く所に依れば、其の利益は年々累積して實に莫大なる金額に上つてゐることである。勿論こゝには日本銀行それ自らの自衛的施設に就いて敢て議せんとするのでは無く、又其の巨額なる利益の如きも日本銀行本來の性質に鑑み、國家有用の場合には他に率先して國利民福の爲に活用的に提供せらるゝであらうことを一般に期待せられてゐるやうでもあるが、兎もあれ、日本銀行が銀行中の銀行であると共に、公益機關中の公益機關たる性質を有するものたるべきことは兒童走卒と雖も之を疑はない。隨つて其の公益任務を完うする爲に必要な改正は、當然に遂行せらるべき筈である。

然らば如何なる改正を現在の日本銀行に必要づけられてゐるか。それに就いては識者間に於て既に定論がある。其の概要を擧ぐれば、

(1) 兌換券發行に對する現制保證準備額を適當に増加すること

(2) 若しくは現制度を改めて米國の例に倣ひ保證準備を主とし、正貨準備を從とする比例準備制度を採用すること



牽固不拔となり、盤石の堅實性を有するは一般國民と共に大に多とすべきであるが、聞く所に依れば、其の利益は年々累積して實に莫大なる金額に上つてゐることである。勿論こゝには日本銀行それ自らの自衛的施設に就いて敢て議せんとするのでは無く、又其の巨額なる利益の如きも日本銀行本來の性質に鑑み、國家有用の場合には他に率先して國利民福の爲に活用的に提供せらるゝであらうことを一般に期待せられてゐるやうでもあるが、兎もあれ、日本銀行が銀行中の銀行であると共に、公益機關中の公益機關たる性質を有するものたるべきことは兒童走卒と雖も之を疑はない。随つて其の公益任務を完うする爲に必要な改正は、當然に遂行せらるべき筈である。

然らば如何なる改正を現在の日本銀行に必要なづけられてゐるか。それに就いては識者間に於て既に定論がある。其の概要を擧ぐれば、

- (1) 兌換券發行に對する現制保證準備額を適當に増加すること
- (2) 若しくは現制度を改めて米國の例に倣ひ保證準備を主とし、正貨準備を従とする比例準備制度を採用すること
- (3) 保證準備の擔保に商業手形を充用すること(寧ろこの商業手形を以て保證準備の原則とするまで改正せば、更に可なりと信ずる)
- (4) 株式に對する配當制限一定額の積立金を超過せる利益金の處分法制定
- (5) 少くとも理事の半數を民選にすること

上記各項中、其の(1)、(2)、(3)が最も重要な問題である。

そも、我が中央銀行の現保證準備制は二十餘年前に定められたものであるが、其の後に於ける經濟狀態が著大なる進化發達を遂げたることは、何人の眼にも炳焉たる事實である。然るに尙ほ之を舊時のまゝに踏襲墨守して寧ろ必要以上に正貨準備を重視し、且つ保證準備の制限の過少なるは、必ずしも我が財界の進運に適應すとは言い難い。米國は人の知る通り歐洲戰爭に依り、世界一の正貨所有國となり、全世界の正貨の四割五分を有すと稱せられてゐるが、それでも聯邦準備銀行の法定制限率は四割となつて居り、而かも更に低率さるべき傾向を呈してゐる。英國の如きも矢張り其の金準備高は同じく四割であり、我が國の如く通貨に對する正貨準備を高率に制限づけてゐる國家は他に例がない。

それ故に、我が國の現制準備額を増加して英國と同様、假りに之を四割にまで擴張するとしたならば、例へば十億の正貨準備を有する場合には即ち二十五億圓までの兌換券發行を可能ならしめる。之を五割としても二十億圓となり、從來の制限外發行を消滅せしむるに止らず、現制に比し少くとも四五億圓内外の流動資金を増加し活用し得せしむるであらう。斯くして發行税なき資金が豊富となればそれだけ金利は低下し、以て産業政策の遂行を促進し得るのであつて、此の運用こそ他の營利銀行と異なる金融機關の中樞として常に我が國の經濟界に對し、資金充實、金利調節の任務を圓滑に達成し得るのである。本來が國家より多大の特權を受けつゝある中央銀行であり、時には銀行それ自らの利益も其の幾分は犠牲にする覺悟を以て、國民經濟の恢弘に努力する奉仕的精神を有する事を切望して止まぬのである。それには時勢に適應する各般の改善を要とすべく、若し全然舊様に拘泥するが如くんば世上却つて其の機能を疑はれ、或は遂に設立の意義に惑ひを懷かしむるが如き虞れなきを保せない。これ蓋し當局者に取りても心外の沙汰に相違なしと信ずるが故に、敢て忌憚なく所見の一端を記述したる所以である。

## (二) 興業、勸業其他の特殊銀行に就て

中央銀行の使命については既に略述したが、今日我が國に於ける産業金融機關として直接特殊の責任を帯ぶるものに興業銀行、勸業銀行、農工銀行、朝鮮及臺灣銀行等がある。其の本質よりいへば、産業國策の遂行に必要な金融運用機關は主として是等の特殊銀行が其の衝に當



りて最善を盡さねばならぬ關係に置かれてゐる。別言せば是等の銀行は民間の商事銀行と異り、専ら公共的方針に基き最も直接的に國家が特に保護獎勵を必要とする産業上の有用機關として切實に働きかくべき重要性を與へられてゐるのである。

然るに現在是等の特殊銀行が完全に其の任務を満たし得べき各種の條件を果して具備しつゝありや否やは、少くとも其の規模より見て甚だ疑問であり、殊に上來吾々の提唱する産業國策を實現せんとするに於ては、更に其の機能を擴充し、資本及産業債券の發行力増加等に依り、豊富且低利なる資金の供給に當らしむるの必要あるを思はしむる。

それに就けても吾々は今日政府が所有する資金、若くは政府の方針如何に依つて之を産業資金化し得べき財源が必ずしも絶無又は稀少ならざるを確信するものである。前段には中央銀行制度の改正に實行せば、更に四五億圓の資金を融通し能ふことを述べたが、それは暫らく別としても、我が大藏省預金部には二十八億圓以上(昭和四年末)の資金があり、而かも其の内約二十一億圓は、三千七百萬人を超ゆる國民の預金より成る郵便貯金であつて、近年平均約二億圓宛の増加を示してゐる。又別に遞信省に於て取扱ひつつある簡易生命保險(四年度歳入一億三千八百萬圓、歳出五千五百萬圓)もあれば、國有財産整理資金もある——國有財産整理資金は國有財産を整理處分して、中央諸官衙の建築及營繕費等に充當することゝなつてゐるのであるが、刻下の經濟的難局を打開する爲には、それよりも産業國策の助成に其の資金を差向ける方より緊要と感ぜられる。消極内閣は此の種の整理をすらはず、却つて生産方面の事業を繰延べつゝあれども、元來國有財産の整理は一日も早きを有利とし、空しく之を眠らし置くの可なるを知らない。昭和二年度末調査に據る國有財産の總価格は實に七十二億圓に上るのであつて順次之を適當に處分するとせば、こゝにも國家に必要な産業資金の財源は直ちに見出され得るのである——然るに現政府は何故に極めて僅少なる産業上の研究費用をすら削減するが如き方針を執りたるか。全く不可解なる退嬰主義といふ以外、評語の下しやうも無い。

固より茲に引例せる預金部資金に關しては運用委員會の諮問を経るにあらずんば、之を融通し能はざることになつてゐる。而してそれには「有利確實なる方法」を以て「國家公共の利益」の爲に運用すべきことを條件づけられてゐる。こは至極當然の事とも見らるゝが、併し其の如何なる方法が果して眞實に有利確實であり、國家公共の利益と認むべきかに就いては單なる抽象的見解に依つて決定せらるべきでは無い。例へば、現在二十一億圓に上る郵便貯金の約六割は國債證券と地方債證券とに運用され、又外國預金と内地預金の分も一割を超えてゐる。三千七百萬人の汗と膏の結晶ともいふ郵便貯金の大部分、少くとも其の一半が斯くの如く或る意味に於ける不生産的證券化されてゐることは果して郵便貯金そのものゝ本質に最も適合すと稱し得るであらうか。殊に今日の如き國民經濟の硬塞に悩まされつゝある時、それが果して最善の運用法と認め得るであらうか。それよりは該貯金を活用し、能ふ限り直接的に之を生産資金化する事こそ一層喫緊の急務ではあるまいか。而して之に依つて産業の振興を促進し多數の國民に生産の途を與ふるとせば、それが即ち最も效果的なる國家公共の利益たるのみならず、郵便貯金そのものゝ性質にも適合し、併せて世に喧しき中央資金の地元還元問題も自然に解決せらるゝ筈である。

この見地よりいふならば、預金部資金は事情の許す限り興業、勸業、農工及信用組合等を通じて産業振興の爲に運用せらるゝを第一要務とすると同時に、其の利率の如きも更に低からしめねばならぬ。随つて特殊銀行を以ては七の問、殆ど可成り資金削減の要がある。



へば、現在二十一億圓に上る郵便貯金の約六割は國債證券と地方債證券とに運用され、又外國預金と内地預金の分も一割を超えてゐる。三千七百萬人の汗と膏の結晶ともいふ郵便貯金の大部分、少くとも其の一半が斯くの如く或る意味に於ける不生産的證券化されてゐることは果して郵便貯金そのもの、本質に最も適合すと稱し得るであらうか。殊に今日の如き國民經濟の硬塞に悩まされつゝある時、それが果して最善の運用法と認め得るであらうか。それよりは該貯金を活用し、能ふ限り直接的に之を生産資金化する事こそ一層喫緊の急務ではあるまいか。而して之に依つて産業の振興を促進し多數の國民に生産の途を與ふるとせば、それが即ち最も效果的なる國家公共の利益たるのみならず、郵便貯金そのもの、性質にも適合し、併せて世に喧しき中央資金の地元還元問題も自然に解決せらるゝ筈である。

この見地よりいふならば、預金部資金は事情の許す限り興業、勸業、農工及信用組合等を通じて産業振興の爲に運用せらるゝを第一要務とすると同時に、其の利率の如きも更に低からしめねばならない。随つて特殊銀行それ自身に於ては此の間、殆んど何等の収益利鞘を求めざる程の奉仕的任務に服せんことを望みたい。現時の組織を以てして若し之を不可能とするならば、宜しく其の制度を改造すべきであり、それが民間銀行と異り國家より特權を附與せらるゝ特殊機關として當然の役目とも云ふべく、又若し此の種の方法に依つて假りに損失を招く虞れありとせば、適法を設けて政府補償の途を講ずるも敢て不可なりとせない。且つ又郵便貯金の預金者は必ずしも單に利殖を目的とするものではない。故に該貯金に依りて多大の収益利鞘を求むるが如きは寧ろ不穩當の嫌ひあるを免れざると同時に、郵便貯金の利率を更に適度に引き下げ一段低利に資金を供給し得る便法を開くも差支へなしと思ふ。之を現在の利率に据ゑ置きて民間銀行と競争の形を爲し、延いて財界に於ける利率低下の趨勢を抑止するが如き状態を呈するのは決して郵便貯金の趣旨に合致すとは認められない。假令貯金利子を幾分低下するにもせよ。窓口に於ける取扱方法を篤實にし官僚臭を一掃すると共に、極めて薄利なる無報償無手数料主義を以て其の資金を國民經濟の振興、即ち産業發展の爲に運用し、生産事業を通じて之を一般國民の手に還元する。そして貴重なる資金の死藏と偏在的集中とを避くること、國家事業としても、將に預金者の意思及立場より觀察しても、最も適切なる手段であり且つ最も有效なる低利金融の一策ではないか。

或は從來の特殊銀行のみを以てしては、産業國策の遂行に必要な金融運用の任務を果すべく、其の組織に於て不適當なる點もあり、又其の負擔の餘りに重きを危むものもあらう。而かも此の如きは既記中央銀行制度の改善の場合と同様、特殊銀行本然の目的に合致せしむべく組織を建直すことに何の不都合なく、又特殊銀行をして吾々の期待に背かざる使命に當らしめんが爲には勢ひ規制に比して其の規模を大にし、事實上産業金融統制の主なる任務を負ふべく其の機構を擴充するが當然で無ければならない。故にそれが餘りに過重なりとせば、例へば工業銀行、鑛山銀行、水産銀行等々それ〴〵に分科するも可なりである。現に今日に於ても工業銀行乃至水産銀行等々の特設を希望するもの少からず、かゝるは形式枝葉の問題であり、敢て從來の特殊銀行のみに限定し集中せざるべからざる理由を認めない。目的は産業國策の遂行に堪ゆべき任務を完うするに在る。そして各分科機關を通じて適當なる統制方法に於ては何等妨げなしと信ずる。

世上又或は吾々の提案に對して、臺灣銀行の轍を履むが如き事なきやを憂ふるものがあるかも知れぬ。併しながら、顧みて我が國財界の歴史を觀るに、歐洲大戰爭の勃發は實に世界未曾有の椿事であつたと同様に、其の波動を受けたる我が日本に於ても物價及株式の昂騰は平時に三倍乃至五倍したのである。そして一朝戰爭の終結を告ぐるに及んでそれが忽ち暴落したことは現に世人の目撃して居る事實である。換言せば我が財界は既往十數年間に於て世界的暴風時代に遭逢し、千古其の例なき激動渦中に震盪されたのである。この間、たま〴〵臺灣銀行の如き不仕末を暴露したればとて——勿論それには内部的經營上の過失もあれども——それは歐洲戰爭が空前の大變事なりしが如く、世界的暴風時代の犠牲と見るべき點もあり、之を目して平時の常例と爲すは當らない。若しも此の種の暴風時代に難船せるの故を以て、總ての場合を危惧



するに於ては、渺茫たる太平洋は勿論、琵琶湖を渡ることすら、危険極りなしとして躊躇せねばならぬのであつて、其の迂や測るべからずである。吾々は中央銀行始め各特殊銀行に對する法規を改正し、重役の責任を重からしむると同時に、政府の監督を嚴にして一切の不正及脱法行爲を取締るべき必要を主張するものである。だが過去に於ける二三の例を以て將來を否定するが如きは、所謂羹に懲りて膾を吹くの類であり、相俱に國家産業の發展を談する資格を缺くといはねばならぬ。

語を重ねていふが、今日の經濟國難は決して尋常一様の状態では無い。それは單なる世界的不景氣の餘波のみでは無くして、國民經濟を根本的に建直さざる限り、到底乗り切れる能はざる難航時代である。假りに歐米の景氣が回復しても、支那の動亂が鎮靜しても、印度、南洋其の他世界各方面の趨勢が順調に轉じて、我れ自らに於て産業國策を遂行し之が達成に努力するにあらずんば、何時までも唯だ他働的運命を辿るに止まり、人口過剩問題の解決も、輸入の防遏も、國際貸借の改善も、國民生活環境の向上も容易には期待され能はぬのである。故に此の經濟國難の波濤を突破する爲には朝野を擧げて奮闘するの覺悟が肝要であると共に、何よりも先づ主力を産業の振興に傾倒せなければならぬ。國策に大定せば、其處には必ずしも財源なきを憂へず、資金なきを嘆するに及ばざること上述の通りである。敢て區々の繩墨に拘泥すべき秋でも無ければ、些々たる運賃の低減などに依り大勢を轉換し得るが如き膚淺なる政策を以て足れりとする時でも無い。保護すべきものは徹底的に保護すべく、獎勵すべき産業は國力の可能なる限り大いに獎勵すべきであり、之が爲に更に所要の産業に限り、例へば總ての公課を解除する長期低利の金融を與へる、輸出品には完全なる補償制を設ける、國民經濟の全局に有益ならば、あらゆる方法に依り利便を與へる、其の他國民の負擔と能力の堪ふる範圍に於て最善を盡さねばならないのである。

この故に吾々は中央銀行の改善を要望すると同時に、興業銀行、勸業銀行及其の他の特殊銀行の組織と内容を擴充し、名實共に産業金融機關としての機能を十二分に發揮せしめ、民間銀行を壓迫せず其の營業範圍を侵すことなくして國家が必要とする施設に順應しつつ、豊富且低廉なる資金の運用に當らしむることの極めて緊要なるを指摘せざるを得ないのである。若し夫れ不動産に對する金融問題といひ、中小商工業者融資問題といふが如き部分的竝に技術問題に關しては、別に其の人ありて之を専門的に攻究すべく、又吾々に於ても他の機會に記述する時もあり得やう。大局的には何よりも先づ産業國策の確立が根本であり、今は唯だ其の骨子を描きて廣く世人の理解と考察とを求むるのみ。

### (二) 通貨と物價問題

世間一部の論者はいふ、通貨の膨脹は直ちに物價の騰貴を招徠するが故に不可なり、宜しく通貨を縮少して物價を低落せしむるにあらずんば、輸入防遏、輸出増進の目的を達する能はずと。所謂經濟學者の間には以前より此の種の見解を主張する人士甚だ少しとせず。そは恰も勤儉貯蓄といひ、消費節約といふが如き標語が、殆んど無批判的に讚美され、如何にも眞實味ある至言として受取らるゝと同様の感とを與へてゐる。

惟ふに是等の論者は上來吾々の提唱せる積極的産業國策、殊に本章に記述せる産業資金金融通策を以て必然通貨の膨脹を伴ふ虞れありとの懸念を惹起するでもあらう。そして忽ち不自然なる物價騰貴の時代が襲來するかの如く杞憂臆測するかも知れない。



世間一部の論者はいふ、通貨の膨脹は直ちに物價の騰貴を招徠するが故に不可なり、宜しく通貨を縮少して物價を低落せしむるにあらずんば、輸入防遏、輸出増進の目的を達する能はずと。所謂經濟學者の間には以前より此の種の見解を主張する人士甚だ少しとせず。そは恰も勤儉貯蓄といひ、消費節約といふが如き標語が、殆んど無批判的に讚美され、如何にも眞實味ある至言として受取らるゝと同様の感を與へてゐる。

惟ふに是等の論者は上來吾々の提唱せる積極的産業國策、殊に本章に記述せる産業資金融通策を以て必然通貨の膨脹を伴ふ虞れありとの懸念を惹起するでもあらう。そして忽ち不自然なる物價騰貴の時代が襲來するかの如く杞憂臆測するかも知れない。

併しながら斯くの如き意味よりする通貨對物價論は多くの場合、單なる概念の發作であり、唯だ机上の論理に囚はるゝ抽象的思辨としてのみ一顧の價値を與へらるゝに過ぎざる程度に屬する。随つてそれは常に現實の眞を穿てる妥當の見解といふ能はざるのみならず、實際的には寧ろ此の概念論と全く相反する現象を屢々見受けられるのである。勿論所謂通貨の問題も結局は其の用意及分量の程度如何に依つて是非の判斷を分たるべきであり、何等定まれる目的を有せざる漫然たる通貨膨脹の如きは固より其の可なるを知らない。然れども或る一部の人々に依つて絶對的原則視せられつゝあるが如く「通貨縮少即物價低落」、「物價低落即貿易伸展」と一本筋に思惟論斷し去ることは、未だ世界の實情にも、我が國の經濟界の特殊相にも通曉せざる迂濶の譏りを免れないのである。

元來通貨と物價との關係は極めて複雑であり、簡單なる因果律や、數學的方式を以てしては到底説明し能ふものではない。我が國現下の經濟狀態に於て、幾許の通貨を適量とするかは暫らく別問題とし、其處には各國幣制の差異もあれば、通貨以外の信用取引の高き國と低き國との相違もある。又物價そのものに就いても國際的商品と國內限りの需要品とは決して通貨の多寡に伴ひて一律に上下するものではない。それ故に例へば歐洲戰爭の勃發せる一八一四年當時に於ける歐米主要各國の通貨流通高を標準とし、其の後十箇年を経たる一九二四年のそれと比較するに、此の間佛は七倍、英は六倍、日米兩國は共に三倍となつてゐる——但し米國の通貨膨脹高の比較的少額なるは信用證券と認むべき公債の發行があつたからで、實質的には我が日本が最少の増加を示したことになる——然るに物價の點に於てはフランの激落せる佛國は別とし、日本の物價指數が英米の何れよりも遙に高位を示せることは夙に世人の知る通りである。そして此の狀態は其の後も依然繼續し、昨昭和四年七月各商品卸賣の物價指數は一九一三年を一〇〇として倫敦に在つては一四一、紐育に在つては一四五なるに對し、我が東京に於ては一七四となつてゐる（爾來各國共更に低落の趨勢に在れど、比較的には矢張り我が國が尙高位に在る）。

斯くの如く通貨流通額増加の點より見れば我が國は比較的最少額に止りしに拘はらず、物價指數は之に反比例して高位を保ちつゝあるは何か。それは即ち通貨と物價との關係に種々錯綜せる事情ある證明すると同時に、通貨の伸縮に依つてのみ左右せられざるを知り得べく、實際には生産と消費との關係及一航經濟の事情に基因して上下するものたるを理解され得やう。

翻つて考ふるに現在我が國民生活の實情に於て、假令政府其の他の機關が如何に物價調節に努力するにもせよ、其の有効限界に極めて狭き範圍に過ぎないのである。即ち國民の需要最も多大なる衣食住の日常品は既に説明せる通り、米も麥も豆も砂糖も肉類も悉く生産不足であり、更に棉花、羊毛、鐵、石油、機械、肥料、木材等、國民の必需品といへば其の主要なるものを擧げて殆んど皆不足を告げ、之を海外よりの輸入に依つて補足してゐるのである。輸入に依るものは即ち世界的需給關係に依つて大勢を左右せらるゝものであつて、日本一國の力を以て其



の價格を動かすことは出来ない。それは外國の市價に支配せらるゝものであり、我が國に於ける物價調節の範圍外に在る——米穀管理法の如きに依つて臨機其の暴騰暴落を阻止するにしても、それは部分的且つ一時的であつて全般的に物價を上下せしめ得るものではない——外國の市價に支配せらるゝものは假りに其の輸入を抑制しても、其の効果は極めて微弱であり、又何程節約と緊縮とを呼號したればとて生活必需品は結局買はずに濟まされないのである。觀じ來れば日本獨自に可能なる所謂物價調節の有効限界に如何なるものが見出され得るか。國內に生産して國內に消費する物資としては僅に生魚、薪炭、家具、傘下駄等の如き日用雜貨類に過ぎないのである。又物價決定の一大要素たる勞銀の如きも直ちに一般物價の高低に追隨すとは限らない。別に社會問題や思想問題等よりする諸種の作用や技術關係に依る特殊事情もある。之を要するに我が國民經濟の全局面に於ては調節可能範圍極めて狹隘にして、通貨關係に支配せらるゝ限界は寧ろ一小部分に過ぎない。世の通貨爲本論者は不幸にして此の現實相を透觀せず、卓上に得たる經濟原理論に惑ひて自ら迷語に陥れるものではないか。

且つ夫れ我が國の通貨が列國に比して果して多量なりや少量なりやの判断に就いても實は單なる概念論を以て決すべきでは無い。世の消極主義者は頻りに通貨の膨脹を叫んで已まずと雖も、試みに主要各國の紙幣流通高を國民一人當りに配分すれば、大約左の如き數字を示すのである。

國 別	紙幣流通高	國民一人當 (對米爲替時價に依り 各國共圓價に換算す)
日 本	一、六七八(百萬圓)	二六圓
英 國	三七八(同 磅)	八一
米 國	二、七二三(同 弗)	四六
佛 國	六三、九一六(同 法)	一二三
獨 逸	四、九六七(同 麻克)	四一
伊 國	一七、四五六(同 利)	四九
白 蘭 國	一一、六〇八(同 法)	八一
和 蘭	八六五(同 格 登)	一三二

即ち我が國に於ける國民一人當りの紙幣流通高は主要列國の何れに比するも極めて低位に在りて決して多額とはいへないのである。紙幣流通高の多少は固より國民の富又は所得を表現するものでは無く、例へば國民各自に於て通貨を死藏すること多ければ、それだけ流通を阻碍せらるゝが故に通貨を多くする結果を招くべく、又銀行小切手若くは約束手形の使用に慣るゝ國民は、必ずしも通貨の多きを要せない——米國の如

きは小切手を使用すること頻繁なるが故に比較的に通貨流通高が少いのである——其の原因の何れに在るにもせよ、我が國に於ける通貨の流通額が一部の人々に杞憂せらるゝが如く列國に比して過分にも過大にもあらざることとは上記の數字が證明してゐるのである。



即ち我が國に於ける國民一人當りの紙幣流通高は主要列國の何れに比するも極めて低位に在りて決して多額とはいへないのである。紙幣流通高の多少は固より國民の富又は所得を表現するものでは無く、例へば國民各自に於て通貨を死蔵すること多ければ、それだけ流通を阻碍せらるゝが故に通貨を多くする結果を招くべく、又銀行小切手若くは約束手形の使用に慣るゝ國民は、必ずしも通貨の多きを要せない——米國の如

きは小切手を使用すること頻繁なるが故に比較的に通貨流通高が少いのである——其の原因の何れに在るにもせよ、我が國に於ける通貨の流通額が一部の人々に杞憂せらるゝが如く列國に比して過分にも過大にもあらざることは上記の數字が證明してゐるのである。

かくいへばとて吾々は決して通貨の無限的増大を可とするものでも無く、又放漫なる通貨の膨脹に賛同するものにあらざるは前に述べた通りである。併しながら事實は極めて明白である。今や資金の一部的偏在を叫ばれ、遊資の少からざるを耳にすと雖も、他方面に於ては資金硬塞の聲が各産業界にこだましつつある。そして實際に融通せらるゝ金利が中工商業者に對しては概ね一割内外であり、大企業に對しても八九歩のもの多きは争ふべからざる事實である。此の事實は果して資金充實の反映なりや。通貨の膨脹を裏書きするものなりや。そも／＼亦國民經濟の發展を圖り、國家産業の振興に助成すべき中央銀行其の他特殊銀行の任務と機能とを遺憾なく發揮しつつある現象と解し得べきや。

若しも資金餘りありて而かも金融硬塞し、或は實際上の金利高しとせば、それは即ち主として金融機關の缺陷に原由する。そして金融機關の缺陷は制度的若しくば他の意味に於て結局中央銀行及其の他の特殊銀行の未だ完からざるを示唆する。随つて其の制度方針の改善と業務の刷新等に就いて大いに考慮せられなければならぬのである。假令日本銀行それ自らは金利を引下げたりとしても、之が運用に缺陷あり、之を利用せしむるに適當の方法を以てせざれば、直ちに化して産業發展の用途となり得ず、空しく他の途に死蔵せらるゝか、若しくば中間に抑留せられて容易に企業者の手に入らず、入る時は高利に變ぜざるを得ない。それが果して通貨過大の爲めといひ得やうか。將に又此の上にも尙ほ消極的緊縮政策を必要とすべき理由となり得べきや。

資金硬塞して金利の高きに困するものは決して中小企業家ばかりでは無い。其の影響は最も直接的に消費者の頭上に襲來するのである。凡そ總ての物價を通じて最も普遍的且つ根本的なる條件となるものは生産及商業資金に對する金利の高低であり、生産と分配とに要する資金に對して金利が高ければ高い程、それが物價に加はりて消費者の負擔を重くすることは極めて賭易き事實である。例へば生産業者又は貿易業者より問屋に、問屋より小賣商に、そして小賣商より一般需要者の手に入るまでに始終物價に附隨して離れざるものは金利である。假りに全生産と分配とを通じて五百億圓の資金が循環流動すとせよ、そして金利が一割から七分に低下したとするならば、其處に十五億圓に相當するだけの物價は何等勞せずして自然的に低落するのである——實際的に金利の差が働き懸ける作用は、三重にも四重にもなるのであつて、それが物價に及ぼす影響は更に遙に至大である——だから金利の高きは最も直接的に物價を高める原因となるのであつて、其の負擔は悉く消費者に嫁せられざるを得ない。これ即ち國民經濟上に於て益々資金の豊富と金利の低率とを必要とする所以である。

この故に眞實に國民生活を安易にし、其の經濟力を強からしめんが爲に低物價策を急務とするならば、それは多量生産に依つて生産費を引下げ得る迄に産業を隆興せしむる外に合理的手段は無い。産業隆興、多量生産の先提要件は低金利である。低金利の根本要件は豊富なる資金である。そして各金融機關を通じて豊富なる資金の積極的運用を促進することである。それは斷じて姑息なる消極的縮小主義に依つて期待され得



べき理由なく、現時の如き状態に在つては遊資ありとも資金は動かす、公定利率は低下して産業は萎縮するのみである。此の如きは畢竟不健全なる病的現象の發作であり、手足冷却して唯だ頭腦のみ充血してゐると異ならない。血液は少しも體內に循環せず、否、循環を妨げられてゐるのである。言ふ所の遊資は眞の遊資にあらずして産業不振の反映であり、随つて其の利率引下も名あつて實なき一部一局限りの事象たるに過ぎない。それ故にこそ保護政策の許に生産が進展せず、いつ迄も輸入國に甘んぜねばならぬ状態を餘儀なくせられ、目前には幾多の工場鑛山等が閉鎖又は生産制限を行ひ、販賣價格を協定して辛うじて事業維持に努むる等實に苦心慘憺の光景を呈しつゝあるのである。此の如き急激なる變態的狀況を現出したる事由は經濟界の不振に依る消費激減、企業計畫の不確實等多々其の原因を擧げ得べきも、同時に一面遊資を有しながら他面に融通の途梗塞し、利子の高率なることが確に一大理由を爲して居ると考へられる。世には自然療法と言ふ事もあるが、自然的に過激なる方法を用ひ絶食を強ひて瀕死の危険状態に陥れる如きは斷じて名醫の採らざる所である。そして今日の痛ましき國民生活、失業群の續出、不景氣の襲來は果して何者の致す所か。

歐洲戦後の最大難問題たりし獨逸の賠償問題も今は既に解決せられ、佛國、伊國の財界も既に著しく復活しつゝある。而も彼等各國が慘落低止する所を知らざる通貨を整理安定せしむるに方りては、我が朝野の殆んど想像だに及ばざる苦心と決斷とを以てしたのであつて、殊に獨逸が舊紙幣を切り捨てたる如き、佛國が新フランの發行に成功したるが如き、實に絶大の犠牲と舉國一致の覺悟に依つて達成せられたのである。彼等の改革、彼等の英斷を思へば、我が國の金融機關の改善の如きは寧ろ容易なる事業であり、更に中央銀行のその如きは爲政者の勇氣一つにて直ちに實現の機運を打開し得るのである。敢て朝野の識慮と努力とを切望して已まざる所以である。



## 第八章 消費經濟の改善

### (一) 閑却さるゝ消費經濟

本書は上來主として生産業を對象として考察したのであるが、こゝには簡單に消費經濟に就て所見を加へる。

總ての國民は一方に於て生産者であると共に、他方に於ては消費者である。故に廣き視界よりする産業國策の樹立及運用に際しては、生産消費兩經濟の兩面より之を講究するの必要があり、兩者の關係を圓滑にして相互の利害を適當に調節するの用意を缺如してはならない。生産者にトラストや、カルテルなどの組織があり、消費者に購買組合や、消費組合が起り、その他兩經濟を通じて種々の機構形態を見受くけれども、それは別箇の問題として、茲に國策上の見地よりいへば、生産の増大を圖ると同時に、消費經濟の機關を整備し、配給方法を改善することが區々たる消費節約や、緊縮政策よりも遙かに有效有意義なる施設と信ずる。

我が國の現情に於ては、生産經濟上の根本方策が未だ確立してゐないのみならず、消費經濟の方面に在つては更に一層不用意に看過されてゐる。否、消費經濟方面には殆んど何等の方針施設も講ぜられてゐないと言つた方が寧ろ適切と思はるゝまでに等閑に附せられつゝある。生産經濟の方面には個別的、間歇的、斷片的ながらも、例へば、時々々の關稅改正とか、製鐵業の保護とか、蠶絲業の救済とか、善かれ、悪しかれ、多少の施設を見出し得ぬでは無いが、消費經濟上の機關としては僅に大都市に於ける小規模の公設市場位に指を屈する程度以外に何も無い。米穀管理法の如きも、實際は消費經濟の爲に働きかける場合よりは、却つて生産擁護の具と視らるゝ觀を呈し、それも甚だ不備不徹底の憾みを禁じ難い。近年頻りに社會政策とか、物價調節の聲を耳にすと雖も、それは消費經濟に關する方策の缺陷に原因する實例が頗る多いのである。

消費經濟の原則は國民生活の安易、殊に衣食住に互り其の様式習慣を經濟的且つ合理的に改善し、科學設備を普及し、需要供給の關係を妥當化するに在る。其の様式習慣を一朝にして更新せしむることは固より容易の業では無いが、國家としては能ふ限り民衆的共同經濟の疏通を切實にし、漸を逐うて改善を期すべきであり、生産者の利益を確保し増進せしむると共に、消費者の負擔を軽減し、設備の不完全よる生ずる損傷や無駄を省き、不必要なる中間機關を排除すること等に依り、兩者共通の幸福を得せしむべきである。そして消費の向上と増大とが常に生産者を刺戟し發展せしむるに至つて、兩經濟の調和が實現する。



教科書的の議論は専門學者に委ねるとして、消費經濟上、最も重大なる問題は何といつても物價の低下を圖ることである。生産者の利益を害せずして而かも消費者の負擔を軽減し國民生活を安易ならしむる方法は、低廉にして優良なる品物を如何にして供給するかの問題を離れない。こゝに於て

(一)物價調節の問題が必然に一般消費者の口から呼びかけられるのである。それについては既に前章に述べた通り、衣食住に關する日用品中、主要食糧たる米、麥、豆類悉く生産不足を告げ、輸入に依つて之を補充する状態に在るのみならず、更に棉花、羊毛、鐵、石油、機械、肥料、砂糖、木材、肉類等に至るまで悉く輸入品の中に置かれてゐるのであるから、是等の物價は總て世界的需給の大勢に引きづられ、外國市場の市價に支配せられざる能はずして我が國單獨に其の價格を上下せしむることは出来ない。随つて物價調節の可能範圍は極めて狭く僅に生魚、菜果、薪炭、家具等の特殊品に限らるゝのであるが、これとて前記食糧其の他の日用品必需品と終始相伴ふものなるが故に、意のままに左右し得るものでは無く、物價決定の重大要素たる勞働賃銀亦然りである。だから國際經濟を抽離したる物價調節の效果は極めて微弱たらざるを免れない。これ過去に於て試みられたる我が國の物價調節策が消費經濟上に左までの反響を惹起し能はざりし所以であり、現在及將來に於ても、國民の日用品を外國の供給に待つ限り、其の物價は矢張り世界的需給の大勢に支配せられ常に其の生産國民よりは高價を支拂ねばならぬ。此の故に吾々は産業國策を高唱し、農産物は勿論一般産業の振興に依り國內の生産増加を促し、以て輸入を防遏するの急務を力説して己まないのであるが、それに就けても

(二)低利金融と大量生産とに由る物價對策は極めて緊要であらねばならぬ。既に前にもいへる通り物價中最も普遍的にして且つ根本的な働きを爲すものは、生産及商業資金に對する金利なるが故に、政府は能ふ限り低利金融の方策を講じ、以て生産費の低下を圖ると共に、之に依つて大量生産を容易ならしむることに努力する。さすれば物價は自然に低落し、國內の供給を滑かにするに止らず、進んで海外輸出の原動力ともなるのである。別言せば低金利と大量生産に依つて生産原價の引下げを可能ならしめだにせば、其の價格は當然に低廉となるに相違なく、價格が低廉となれば、内地需要を増加すると同時に、外國品との競争にも對抗し得て販路を海外に擴張し能ふのである。價格の低廉は消費者を利し、内外兩方面に於ける需要の増加は又生産者を利する。それが産業國策としての一大要義たるに拘はらず、從來未だ此の主旨を實際化すべき根本方針すら一貫的に定められてゐないのである。これ我が國消費經濟に關する大なる缺陷といはざるべからずして、其處に國家經濟建直しの急務が益々痛感せられるのである。

(三)消費經濟に關する缺陷 以上は消費經濟に於ける一般的問題について略言したのであるが、翻つて之を我が國の實情に照らすに更に緊要なる幾多の施設が等閑に附せられてゐる。現に我が國の諸物價は世界の大勢に押されて近年低下の步趨を辿り、殊に今春の金解禁に依り追撃的急落を告ぐるに至つたが、しかし卸賣相場と小賣相場との間には尙常に二割五分内外の開きがある。日本銀行の調査に據る我が國の各商品

物價指數は四年三月の一七九・九から最近(本年三月)の一五五に低落してゐるに對し、食糧品小賣相場指數は同じ期間に於て二〇七から一八二に下つたに過ぎずして、其處には二七プロセントの開きが見出される。此の事實は販賣配給機關が——就國民の一日も缺くべからざる食



消費者を利し、内外兩方面に於ける需要の増加は又生産者を利する。それが産業國策としての一大要義たるに拘はらず、從來未だ此の主旨を實際化すべき根本方針すら一貫的に定められてゐないのである。これ我が國消費經濟に關する大なる缺陷といはざるべからずして、其處に國家經濟建直しの急務が益々痛感せられるのである。

(三)消費經濟に關する缺陷 以上は消費經濟に於ける一般的問題について略言したのであるが、翻つて之を我が國の實情に照らすに更に緊要なる幾多の施設が等閑に附せられてゐる。現に我が國の諸物價は世界の太勢に押されて近年低下の步趨を辿り、殊に今春の金解禁に依り追撃的急落を告ぐるに至つたが、しかし卸賣相場と小賣相場との間には尙常に二割五分内外の開きがある。日本銀行の調査に據る我が國の各商品

物價指數は四年三月の一七九・九から最近(本年三月)の一五五に低落してゐるに對し、食糧品小賣相場指數は同じ期間に於て二〇七から一八二に下つたに過ぎずして、其處には二七プロセントの開きが見出される。此の事實は販賣配給機關が——就中國民の一日も缺くべからざる食糧品でさへも——甚だ不備なる状態に在ることを證據立てゝゐる。殊に現内閣成立以來米價其の他の農産物は激落したが、それでも食糧品の指數が依然として上記の如く高きは決して世界の太勢に由るのみでは無い。又例へば鯉節や佃煮の如き純國産品が殆んど下落せず、細かく言はゞ豆の低落せるにも拘はらず、豆腐の値段が前年と同一價格の如き、寧ろ不可解の現象とも考へられる程である。是れ果して如何なる理由に原因するか。それは即ち消費經濟に關する施設が忽諸に附せられ、何等國家としての對策を講ぜられてゐないが爲の禍ひに外ならない。然らば如何なる施設を必要とすべきか。

## (二)消費經濟に關する施設

消費經濟の改善に必要な施設は固より二三にして止らない。それには種々の方策を考案され得るが、就中一般的且つ根本的なるは科學的設備を完成し、生活の合理化を圖るに在る。以下試みに所見の一端を擧げんか。

### (イ)低廉なる電力及瓦斯の普及

電力を低廉にすることの必要は既に農村の電化及工業振興策を説明せる場合に切言したが、更に之を消費經濟の上より見て茲に反覆指摘せざるを得ないのである。元來我が國の如き木造家屋に在つては燃料たる薪炭使用の爲に火災の危険、衛生の害を伴ふのみならず、山林を荒廢せしめ治水の作用を妨ぐる等、國民經濟の全局に取りて不利の甚だしきものといはねばならぬ。さなきだに我が國の林業は獨逸、瑞西等に比して頗る振はず、其の植林能力極めて薄弱且つ遅緩なる結果、年々一億圓もの木材を輸入しつゝあることは是れ又前に述べた通りであるから、國家は一口も速かに植林計畫と相俟ちて燃料政策を確立する急務に迫られてゐる。故に電力竝に瓦斯の價を低廉にして之を一般に普及せしめ、國民生活上の危険と時間の浪費と不衛生を防ぐと共に、不便不經濟なる薪炭に代らしむべく適當なる方策を講ぜなければならぬ。木炭一噸の價は百圓内外となるのであつて石炭の二十圓とは同日の談では無いのみならず、更に兩者の火熱力を比較すれば木炭の甚だしく不經濟なるは一見分明である。若し石炭の供給に不足せば一時之を滿洲、朝鮮に求むるも不可なく、又水力電氣の爲には國家の統制と管理竝に保護法を布くと同時に、價格を引下げても可なりである。現在電力の販賣總價格は約五億圓に上り、米及衣料に次ぐほどの重要な一般日用消成品となつてゐる。故に能ふ限り之を安價に供給することは國民生活上の理想であり、それが可能となれば薪炭の需要も著しく節減せられ得べく、例へば又湯屋の如き、洗濯の如き、其の費用を切り下げ得ること極めて容易き理ではないか。故に電力竝に瓦斯の經濟化と低廉化を圖ること



は國家政策として單に生産事業の一方面に限らず、消費方面に於ても同じく緊切なる要務であらねばならぬ。

(ロ) 冷蔵庫及船車の設備獎勵

次に物價調節の一主要機關として、列國を通じ近時最も發達の顯著なるは冷蔵設備の完成である。我が國の如く四面環海の島國として、且つ支那、朝鮮及沿海州等豊富なる水産物供給地を擁しながら販賣魚價の高貴なる、寧ろ奇異に感ぜらるゝ程であり、更に獸肉の如きは實に世界第一の高價國を以て目せられ、鶏肉、鶏卵其の他の生食資料亦概ね安からず。而かも其の原因を問へば、主として貯藏及運搬の設備に缺く所あるが故に外ならない。現に帝都を距る三十里にして一升二十五錢の牛乳あるに關はらず、それが都人の口に觸るゝ時は一升八十錢乃至一圓にも上り、又或る縣下に於ける鶏一羽の價は近時二十五錢と稱せらるゝに關はらず、東京に於ては少くとも一圓五十錢を下らないのである。生魚、牛肉、菜果等皆此の類にして生産原價と販賣價格との差、我が國の如く極端なるは他に例あるを見ない。此の如きは中間機關の介在するに依れど、第一の理由は冷蔵庫及船車設備に缺くる所ある爲め、腐敗と變質とに由る遺棄物の代償を購賣者に負擔せしめてゐる結果に外ならない。之を英國の例に聞くに冷蔵庫七十萬噸、貯藏船三十五萬噸に上り、倫敦に於ける肉價は一定して殆んど高下する所なしといはれ、英國以外の列國も競つて同様の設備を整へつゝある。我が國に於ても船、庫、車を通じ貯藏設備に對して適切なる獎勵方法を講じ、主要都市及鐵道各驛更に各市場等に於て之を整備せしむるに於ては、假令國庫は若干の負擔を増加すとも、それに幾倍する利益を全國民に均霑せしめ得るを疑はない。我が國の食糧品が他の商品より高價なるは、國民經濟上に於ても社會政策的意味に於ても極めて憂ふべき現象なるが故に、爲政者は強く此の點に思慮を注がねばならない。斯くして配給機關の設備を改善することは他の總ての物産に關しても切望であり、例へば、肥料用硫酸の如きは其の荷作費だけに一噸に付六七圓を要する有様であつて、若し之を散貨のまゝ取扱ひ得べき船車及貯藏設備に完備せば、それだけの價格は直ちに引下げ得るのである。外國に於ては現に小麦、硫酸等を始め主要物品はバラにて運搬し得らるゝ設備が整へられて居る。我が國に在つても鐵道、港灣及倉庫、市場等に同様の設備を施さば、配給機關の整備と相俟つて何れも消費者に對して相當價格を低減し能ふのである。些々たる運賃の割引及拂戻の如きは其の効果言ふに足らず、眞實の消費節約としては先づ此の種の設備を完成するに在る。

(ハ) 廣幅織布の獎勵

國民の生活用品を國産商品化することは、生産經濟の原則として極めて緊要なるのみならず、消費經濟に於ても至大なる重要性を有つてゐる。之を織物の例に見るも、所謂廣幅物と小幅物とは其の製織工賃等に大差なく、而かも世界各國を見渡して小幅物を常用するものは獨り我が國民のみである。否、我が國に於てもロシア、フランス等は悉く廣幅であり、既に廣く國民に使用せられて何等不便を感じないのである。然るに今日尙小幅に執着して之を改めざるが如きは甚だ賢明とはいはれない——現在我が國の織物中、廣幅を不適當とする種類のもものは小幅物總生産額中の約二割に過ぎずして、他の八割は何時にても廣幅に改良し能ふのである——而して之を廣幅に改めたとしたならば、從來小幅

なりしが故に外人の需要に適せざりし我が國の織物も國際商品化せられて相當の輸出を見るべく、又内地人に取りても各自の身長に應じて必要量を購入し得る便あるを以て無駄排除の利益は少くない。其の上、生産努力も節約し得られるのであつて、専門家の計算に據れば之に依つ



國民の生活用品を國產商品化することは、生産經濟の原則として極めて緊要なるのみならず、消費經濟に於ても至大なる重要性を有つてゐる。之を織物の例に見ても、所謂廣幅物と小幅物とは其の製織工賃等に大差なく、而かも世界各國を見渡して小幅物を常用するものは獨り我が國民のみである。否、我が國に於てもラシヤ、フランネル等は悉く廣幅であり、既に廣く國民に使用せられて何等不便を感じないのである。然るに今日尙小幅に執着して之を改めざるが如きは甚だ賢明とはいはれない——現在我が國の織物中、廣幅を不適當とする種類のもものは小幅物總生産額中の約二割に過ぎずして、他の八割は何時にても廣幅に改良し能ふのである——而して之を廣幅に改めたとしたならば、從來小幅

なりしが故に外人の需要に適せざりし我が國の織物も國際商品化せられて相當の輸出を見るべく、又内地人に取りても各自の身長に應じて必要量を購入し得る便あるを以て無駄排除の利益は少くない。其上、生産勞力も節約し得られるのであつて、専門家の計算に據れば之に依つて少くとも一千万圓の生産費を減少し、同時に國內の消費約一億圓を節約し得と稱せられる。小幅織機の昭和三年末現在數は約三十八萬臺(廣幅物は二十一萬臺)となつて居り、急に之を廢棄するの不可能なるにもせよ、何等か適當の方法を講じて機運の促進に努むべきであり、生産費節約、無駄排除及輸出増進の三理由を兼ねたる消費經濟策として、已むなくば暫らく織物消費税に差等を附すとも、成るべく速かに廣幅織の専用普及に努力すべきである。

### (二) 消費組合の促進

生産業者には共同、連絡、聯合の組織があり、又販賣者間にはそれ々の組合があるが、購買者は各人孤立の状態に在りて組織的團體を構成しつゝあるもの未だ極めて稀である。古來の舊習を墨守して徒らに不便利を甘受し、生産者又は中間機關に對して不正の暴利を匡正する能はざるは國民經濟上の一大缺陷といはねばならない。歐米に在つては消費組合が不正なる生産業者を壓倒して自ら生産に任じ、或は不當なる中間販賣人を斥けて配給機關を創設し顯著なる効果を奏せる實例も乏しくないのである。爲政者は宜しく是等の實例に鑑み堅實なる消費組合の成立を促進し、生産團體に對立せしめて成るべく生産者と消費者とを直接的關係の下に置くことに依り、物價の公正と贅費の節約を圖り、國民生活の經濟化を圖るべきである。

### (ホ) 卸賣及小賣市場の改善

中央卸賣市場を改善すべしとの要求は、多年各方面から唱出されてゐるが、實際には尙遲々として進まず、小賣關係の現状に至つては全く昔ながらの舊様に拘泥して殆んど時代の進化を忘れてゐるが如き觀がある。たま／＼東京及大阪等の大都會には若干の公設市場を見受くれども、その設備の不完全なる、其の業態の舊式なる、其の名にふさはしき何程の實質をも未だ具備してゐない。之が爲に東京市の如きは六戸に一軒の小賣商ありと言はれ其の小賣商に必要な生活費を物價の上に附加せられてあることになるのであつて、逆にいへば六戸の消費者が一軒の小賣商を養つてゐる形となつてゐる。斯くては如何に生産費を切り下げても需要者の手に入る時は依然物價の高きを免れない。我が國の生活必需品が容易に低落せざる主なる一原因はこゝに在る。故に消費經濟をヨリ善くする爲には卸賣及小賣機關の改善が何よりも急務となる。或は卸賣及小賣機關の改善に伴ひ、從來の間屋筋や、小賣商が其の職業を奪はれ生活の脅威を被むるであらうことを憂慮するものがある。先年帝都の小賣商が公設市場の開設に反對し、府會又は市會議員等を通じて極力妨害的運動を試みたるやの事實もあり、甚だしきは公設市場豫定地附近の小賣商等が相謀りて威嚇的に賣止め手段を取りたる場所もあつたと聞く。常に選舉場裡の駆引に腐慮しつゝある此の種の議員等としては、小賣商の反感を買ふを恐るゝこと甚だしきが故に、不完全なる公設市場すらが屢々行惱みの種となる。



併しながら、他方に於ては大デパートや、チエンストアアの隆興は時代の大勢である。如何に小賣商が反對し焦躁すればとて、需要者の大群が便利なる大百貨店及チエンストアアに集まることは目前の事前が雄辯に證明してゐる。小賣商の轉換時期到來は已むを得ざる趨勢であり、たとへ、急激なる變化を惹起すべからずとしても、徳川幕府以來の舊習は必然、打ち破らるべき状態に向つてゐる。現在の如き小資本に依る小賣商が大資本を擁する薄利多賣主義に吸収されて行くことは避くべからざる徑路ともいふべく、國民經濟の全局より眺むれば舊き産業革命から、小賣商店の變革時代に推移し、彼等が職を更へて工業其の他の生産的方面に轉化する用意の早ければ早きほど、先賢の明ありと稱し得やう。

假りに小賣商の運命問題は別としても、消費群の數は無論小賣商よりも遙に多く、店頭に客を待ちて國民相互間に共喰を演ずるが如き不經濟なる状態は當然に改善されなければならない。生産者より消費者への直接的關係は今後益々緊密となるに相違なく、緊密ならしめねばならぬのである。それには即ち卸賣市場の設備を完成すると同時に小賣機關を整備し、其の取引、運搬及貯藏設備を良好ならしむるを急務とする。特に食料品小賣市場の如きは其の設備を清潔にし、商品を潤澤ならしめ、一般消費者をして入り易く買ひ易からしむると同時に、前記冷蔵庫を各所に備へ、更に配給機關を簡便ならしめる。斯くせば物價は著しく低下し、消費者の負擔を軽くし得るのである。

#### (一) 生活の合理化と主婦教育

最後に消費經濟の建て前より見て、最も緊要なるは生活の合理化である。生活の合理化は極めて多方面に分れ、國民の衣食住の全般に互りて改善せられなければならないのであるが、單に其の卑近なる例を擧ぐるも、今日の如き和洋兩様の二重生活は時代おくれである。特に最先の要務は生命の糧たる食物に對する栄養知識の普及を第一とする。又一般中流以下の家庭すらが所謂「御用聞き」の來るを待ち、坐して品物の配達せらるゝを悦ぶが如き虚榮的弊風から一日も速に脱却せねばならない。貯藏に至便にして且つ比較的安價に供給せらるゝ乾物や罐詰を嫌ひて、わざと腐敗し易き高價の生食品を求むる習慣の如きも不經濟の一例である。商品に加重せらるゝ配給費が決して輕少にあらざること、小賣商の收支を一目せば直ちに判明する。それを我が國の家庭、就中都會地に在つては一向に理解してゐない。生魚、蔬菜等の腐敗に依る無駄の夥しきことも未だ殆んど念頭に置かざるが如きは餘りに心得違ひといふ外は無い。而かも是等の改善については其の責任の大部分は寧ろ一家の主婦に在る。主婦自らが箆を携へて日用品を市場に購ふに、何の不都合があらうか。少數の貴族富豪は暫らく措くも、中流以下の主婦に在つては「御用聞き」を待たねばならぬ程に寸暇もなき境遇とはいへない。現に彼女等と雖も三越その他のデパートには嬉々として出かけて行くのである。生活改善は主婦教育に端を發する。主婦教育の爲には今日の小學校及び女學校を實際生活化すべく取換へられねばならない。消費經濟に於ける女子の立場は極めて重い。

この他消費經濟より觀察して改善を必要とする事項は尙甚だ多いが、本書の目的は生産經濟の振興を主趣とするが故にこゝに詳述の邊を持

たない、遮莫、現時の消極内閣が眞實に國民に對して消費節約の急務を痛感すとせば、何が故に第一着に消費經濟の合理化に努力せざるや。

時代錯誤の鎖國的勤儉論を呼號し、或は空疎なる教化宣傳を行ふことに依つて如何なる効果を期待し得ることぞ。眞の節約は如上解説せる通



無駄の夥しきことも未だ殆んど念頭に置かざるが如きは餘りに心得違ひといふ外は無い。而かも是等の改善については其の責任の大部分は寧ろ一家の主婦に在る。主婦自らが箒を携へて日用品を市場に購ふに、何の不都合があらうか。少數の貴族富豪は暫らく措くも、中流以下の主婦に在つては「御用聞き」を待たねばならぬ程に寸暇もなき境遇とはいへない。現に彼女等と雖も三越その他のデパートには嬉々として出かけて行くのである。生活改善は主婦教育に端を發する。主婦教育の爲には今日の小學校及び女學校を實際生活化すべく取換へられねばならない。消費經濟に於ける女子の立場は極めて重い。

この他消費經濟より觀察して改善を必要とする事項は尙甚だ多いが、本書の目的は生産經濟の振興を主趣とするが故にこゝに詳述の違を持たない、遮莫、現時の消極内閣が眞實に國民に對して消費節約の急務を痛感すとせば、何が故に第一着に消費經濟の合理化に努力せざるや。時代錯誤の鎖國的勤儉論を呼號し、或は空疎なる教化宣傳を行ふことに依つて如何なる効果を期待し得ることぞ。眞の節約は如上解説せる通り生産増大と生活の科學化を圖り、冷蔵庫其の他の設備を整へ、廣幅織の使用を勵行し、消費組合を盛んならしめ、市場を改善する等、幾多の合理的手段に依つてのみ實現し得るのである。眞の低物價策も亦同様であつて、總ては國民經濟の全局より根本的建直しを行ふことの外、有意義なる方策は絶無である。然るに此の全局的觀點を見忘れ、或は之を自覺せずして専ら緊縮を叫び、消費節約を高唱する。それが不景氣招徠策となり、失業群製造策と化するは寧ろ當然の歸趨であらねばならない。消費經濟の重要性は國民生活の安定を期する上に於て毫も生産經濟の重要性に遜らない。簡略ながらも此の一章を加へたる所以である。



## 第九章 結論

### (一) 國難の真相と打開策

本書を構成せる余輩の小なる企てが、約半歳に亙る道程を經過しつゝある間に、我が國の經濟現象は多くの人々に依つて豫想し、或は推測せられたるよりも、遙に急峻なるテンポを以て陰暗なる局面を展開するに至つた。余輩は茲に聊かそれ等の事實に眼を注ぎつゝ此の一章を加へる。

それは現前の事相に眼を閉づるものにあらざる限り、若くは強めて自己の政策的破綻に覆面し、其の責任を回避せんとするが如き理性の麻痺者にあらざる限り、如何なる人々に對しても餘りに明白にして而かも餘りに沈痛なる景觀である。例へば昨年來の貿易趨勢は如何うか、株式の激落は如何うか、あらゆる生産、あらゆる企業の現状は如何うか。失業群の増加は如何に在るか、各學校より送り出されたる新卒業者の就職状態は如何。一言以て掩へば此の深刻なる不景氣を何人が打消し、何人が夢にだに謳歌し能ふか。豫め此の悲境に備ふべかりし筈の消極内閣すらが、自ら集計せる歳入の減少に驚きて意外の苦汁を嘗めつゝある程に、財界は萎縮し、國民經濟は轉落を告げてゐるのである。そして緊縮と節約と非募債主義の三色旗を高く打振れる消極内閣それ自らが、まことに慌しくも失業救済の挽歌を弾じ、從來の制限を緩和してまでも、國庫補助より成る事業計畫を各府縣に促さざるを得ざる境地に追ひ込まれてゐるのである。

我が國民は今こそ極めて正直に、そして極めて眞剣に、國家の當相を見究めねばならない。曾て世界に於ける五大國の一と謳はれ、或は更に進んで三大國の一たる優位に列するとの誇りを持ちつゝあつた日本であるが、それは果して正しき理解、正しき認識に立脚せる矜持であつたらうか。成る程歐洲大戰當時に在つては、思ひも設けざりし幸運に際して多年の輸入超過國が一躍して輸出超過國となり、數年間に十四億圓の受取勘定となつたのは事實である。又専ら陸海軍の方面より觀るならば、確に世界に於けるAクラス組には相違ない。併しながら之を國民經濟の實狀に徴し之を國際經濟戰の立場より觀察する時、果して如何なる認識價値を與へられ得るか。眞實の意義よりする國家の實力は國民經濟の消長と内容を一にし、國民經濟の消長は最も直接的に産業の盛衰と因果する。單に生絲及綿布類等の數種目を最良の武器として世界經濟戰に對陣し、而して我れは即ち日用必需品其の他の重要品目を海外の供給に待つが如き地位に坐しつゝ、徒らに所謂三大國乃至五大國の名に酔ふものありとせば、其の迂、若くは其の不用意なる、寧ろ常識を逸すといはなければならぬ。

敢て直言する、若しも我が國現時の状態、殊に其の産業、其の國民經濟を在るがまゝに放視して可なりとすべくんば、そは恰も戰敗國の運命を自ら購ふが如きの類であり、或は期待し能はざる天祐の再來を唯一の頼みとして自己陶醉に耽るに異ならず。所謂經濟國難の根本的原因



たらうか。成る程歐洲大戰當時に在つては、思ひも設けざりし幸運に際して多年の輸入超過國が一躍して輸出超過國となり、數年間に十四億圓の受取勘定となつたのは事實である。又専ら陸海軍の方面より觀るならば、確に世界に於けるAクラス組には相違ない。併しながら之を國民經濟の實狀に徴し之を國際經濟戰の立場より觀察する時、果して如何なる認識價値を與へられ得るか。眞實の意義よりする國家の實力は國民經濟の消長と内容を一にし、國民經濟の消長は最も直接的に産業の盛衰と因果する。單に生絲及綿布類等の數種目を最良の武器として世界經濟戰に對陣し、而して我れは即ち日用必需品其の他の重要品目を海外の供給に待つが如き地位に坐しつゝ、徒らに所謂三大國乃至五大國の名に酔ふものありとせば、其の迂、若くは其の不用意なる、寧ろ常識を逸すといはなければならぬ。

敢て直言する、若しも我が國現時の状態、殊に其の産業、其の國民經濟を在るがまゝに放視して可なりとすべくんば、そは恰も戰敗國の運命を自ら購ふが如きの類であり、或は期待し能はざる天祐の再來を唯一の頼みとして自己陶醉に耽るに異ならず。所謂經濟國難の根本的原因——少くとも慘憺たる不景氣を持ち來せる最大の理由——を見出さんと欲する人々は、何を措きても三大國乃至五大國といふが如き眩惑的形容詞に拵舞するよりは、胸を冷かにして世界經濟に於ける我が國の現實を正視するを先きとする。別言せば産業國家としての日本が如何に在るかを嚴正に客觀すると同時に、日本の政治、日本の外交、日本の財政、日本の教育等々が如何なる姿を以て國民經濟に働きかけつゝあるかを吟味するが第一である。今日我が國民を悩ましつゝある總ての問題は、斯くして其の淵源を究め能ふと共に、これが解決策を如何なる方針と施設に求むべきかを知り得るであらう。

それにつけても吾々は現下の政界及財界乃至國民の或る部分に於て、今尙種々の謬想に低迷しつゝある論者を見出すことの少からざるを悲しまずには居られない。即ち其の或る者はいふ、當面の不景氣は世界共通の現象にして、日本は畢竟其の飛沫を浴びつゝあるに外ならず、故に海外の形勢だに好轉せば、我が國一般財界の回復期して待つべきのみと。此の種の論、一見理あるに似て實は人を誤るの甚だしきものである。歐米各國及支那並に印度等の諸方面に互りて何れも不況時代に逢着しつゝあることは吾々も亦敢て之を否認せぬ。併しながら各國齊しく不況時代に在るにもせよ、其の性質、其の原因及其の實情は必ずしも同一とは言はれない。例へば歐米に在つては戰後における産業復興に絶大の努力を競ひたる結果、却つて工業製作品も、棉花、小麥及砂糖等の農産物も共に需要に對して生産過剰を告ぐに至つたことが其の主なる原因を爲しつゝありと雖も、我が國に於ては前者と事情を異にし、食料も衣料も住料も將た又基本工業たる鐵も油も機械も肥料等も、皆悉く内地生産を以て足れりとせず、僅に生絲其の他二三の特産品を除きては概ね之を海外より輸入してゐるのである。更言せば前者は輸出品の生産過剰に由る不況であり、後者は輸入超過若しくは輸入品の壓迫に由る不況である。前者は生産機能の發達と膨脹に由り供給過多に陥れるが爲の不況であり、後者は之に反して未だ國內自給の計すら成らず、産業未發展の境地に在るが爲の不況である。故に外面的には彼我共に財界の不況に悩みつゝありと雖も、本質的には全然其の原因を異にし、寧ろ正反對の事情に發源するものたるを見忘れてはならないのである。就中注意すべきは、歐米各國に在つては戰後何れも産業保護政策を執り、關稅其の他の方法に依り極力輸出増進に努め、同時に産業の科學化機械化及經濟化を促進せる結果、それが顯著なる成功を收むるに至り、爲に一種の反動として産業過剰を告ぐるに至つたことである。此の點我が國の如く保護政策にも輸入防遏及輸出増進の施設にも、尙極めて不徹底であり、爲に不況を招けるとは全く事情を異にする。

勿論精しくいへば、生絲の如く世界經濟、殊に米國の景氣如何に依つて市價の變動を免れざるものあり、又綿製品の如く原料市價の暴落や、支那及印度方面の需要如何に依り相當の影響を被れるものもある。其の他箇々の品目中には直接又は間接に國際經濟の波動を受くるもの少しとせざれど、概觀的には生活必需品の輸入國たる日本の立場が著しく他と差異あることは、多語を要せずして明瞭である。そは恰も支那の不



況が同国内部の動亂を主因とするが如く、又印度のそれが同じく国内の騷擾、棉花の激落等に原因すること至大なるが如く、各國それ〴〵特殊の事情を有し、決して一律には論斷し能はざる理由を持つてゐる。然るに是等の真相を識別せずして單に「世界不況時代」の一語に依り、我が深刻なる經濟國難を手輕に評し去らんとするが如きは、餘りにも淺薄なる考へ方であり、若しくは我が國民經濟の現境に自覺せざる迂者の戯れといはねばならない。斯くの如き何等根柢に觸れざる浮薄なる論議に惑ふが故に、我が國の産業は未だ獨立性を具するに至らざるのみならず、歐洲戰爭時代の再來を夢見るが如き他力本願的迷想にすら彷徨するものあるを免れないのである。他國に於ける財界の好轉を唯一の力頼みとして待ち受け、他國の景氣回復に依つて自國の時艱を切り抜け得べしとするが如き近視眼的觀察も亦同一病根の現はれであり、それは唯だ手を空しうして徒らに神に禱り、以て運命の轉換を待つと同様なる祈禱的心理の表現としてのみ取扱はるべきである。

いはゆる世界不況時代てふ標語が、少くとも事の日本に關する限り、鸚鵡的に唱和さるべからざるは上述の通りである。それにも拘はらず、我が國の一部、就中政界の或方面に於ては頻りに此の種の標語を持ち出され、そして現に我が國民が直面しつゝある經濟的難局を故意に樂觀し、又は輕微視せんすが如きは、そも〴〵如何なる理由に出發するのであらうか。察するに是等の論者は金解禁に由る我が財界の打撃に對し種々非難の聲高きが爲め、それを打消すべくわざ〴〵他働的原因を強調して一切の責任を世界の不況に轉嫁しやうとするのでは無いか。若し然りとせば是れ又一層世を誤り人を惑はすの甚だしきものと言はざるべからずして、其の禍ひは迷信の害にも劣らない。たとへ歐米の不況、支那の不況、印度の不況等が事實にもせよ、それが日本と根本的性質を異にすることは既に陳べたる通りである。同時に其の世界的不況時代の襲來を當然に豫知すべき時機と立場に在りながら、何等準備的對策を持たざる金解禁を行つたが爲に、忽ち慘烈なる激動を我が財界に與へたことも亦掩ふべからざる事實であつて、之をもし強めて否定し、或は不條理に回護せんとするが如き事ありとせば、それは餘りにも黨派的偏見に囚はるゝ詭辯といはねばならない。我が國の經濟界が戦後の反動に踵ぐに大震災の深傷を被り、整理と建直しを要する時代に在りしことは何人も之を認める。だが其の整理、其の建直しの中途に於て、卒如として舊平價を規準とする金解禁を行ふべく持ち懸け、且つ之を決行したことは何といつても輕慮不用意の非難を免れない。世界的不況時代であればある程、そして我が國の經濟界が整理と建直しの道程に在れば在る程、一層慎重に考慮して能ふ限り外部的衝動を與へざるべく細心の注意を拂はなければならぬ。然るに其の不況時代なるを知りつゝ金解禁に打着したが爲に忽ち異常なる激動を惹起し、恰も崎嶇たる坂路に差懸れる荷車に對して背後より追撃的突き落しを試みたと同様の結果を迫出したのである。随つて其の追撃的政策の遂行者が、之に依つて發生せる當面の責任を取らざるべからざることは病者に對して誤藥を投じたと同じであり、相手の疲勞衰弱せるを理由として誤診の過ちを解除せられ能はぬ。まことは相手が病者なるが故に醫師としての責任は加重されねばならぬのである。

若しも此の種の場合に於て、是非とも金解禁を行はざるべからざる他の理由ありしとせば、其處には別種の方策もあり得たであらう。例へ

ば、爲替相場の時價を規準としての金解禁も其の一手段であり、然らざれば豫め解禁後に於ける準備を事前に整へ置きて内外の波動を極力緩和する。所謂産業合理化といひ、國産愛用といひ、それが何程の政策的價値を有するかは極めて疑問なれども、假りに其の効果の期待すべき



ば在る程、一層慎重に考慮して能ふ限り外部的衝動を與へざるべく細心の注意を拂はなければならぬ。然るに其の不況時代なるを知りつゝ、金解禁に打着したが爲に忽ち異常なる激動を惹起し、恰も崎嶇たる坂路に差懸れる荷車に對して背後より追撃的突き落しを試みたと同様の結果を迫出したのである。随つて其の追撃的政策の遂行者が、之に依つて發生せる當面の責任を取らざるべからざることは病者に對して誤藥を投じたと同じであり、相手の疲勞衰弱せるを理由として誤診の過ちを解除せられ能はぬ。まことは相手が病者なるが故に醫師としての責任は加重されねばならぬのである。

若しも此の種の場合に於て、是非とも金解禁を行はざるべからざる他の理由ありしとせば、其處には別種の方策もあり得たであらう。例へば、爲替相場の時價を規準としての金解禁も其の手段であり、然らざれば豫め解禁後に於ける準備を事前に整へ置きて内外の波動を極力緩和する。所謂産業合理化といひ、國産愛用といひ、それが何程の政策的價値を有するかは極めて疑問なれども、假りに其の効果の期待すべきものがあると信するに於ては、須らく金解禁に先ちて其の實現化を圖るが順序であり、然る後好適の時機を掴みて解禁せらるべきを妥當とする。たとへ金解禁そのものは變態を常態に復せんとの善意的發想に促されたるものにせよ、又それが邦貨に及ぼす國際市價の値開きは一割二割に止まるにもせよ、坂路に差懸れる財界に在つては微弱なる一指の動きと雖も、實際には意外なる追撃的迫力となるのである。さなきに疲勞衰弱せる病者に取つては、單に窓を明け放つたことすらが意外の悪作用を惹起する例があり、寒中發熱の虞れある場合に於ては特に慎重を要する。更に況んや金輸出禁止は變態に相違なしとはいへ、既に多年持ち續けられたる状態であり、思慮淺き人爲的手段に依り之を一朝に革むることは、少くとも自然的なる開展では無い。それだけに其の影響は痛烈であり、惱めるものを突き落すが如き苦境に追ひ込みたることは、眼前幾多の悲愴なる事實が歴々として映出してゐるのではないか。

世上或は本年度に於ける二億三千萬圓の外債借替の爲に、是非とも金解禁を絶対必要となしたるが如く言ふものあるやに聞く。而かもそれは必ずしも首肯せられない。現に何等準備なき解禁を行つた結果として、我が國の正貨は内地のみにても既に二億圓以上の減少を示すに至つたのであつて、若しも論者の言の如く専ら外債借替の一事のみ、絶対視すべくんば、輕卒に金解禁を行ふ事に依り強めて該公債を借替ふるよりも、寧ろ現實償還を行つた方が却つて有利であつたと思はれる。何となれば既に海外に流失せる二億圓以上の正貨を以てせば、優に該公債償還し得たからである。然るに我が當局は此の邊の考慮を缺ける爲め、折角金解禁を斷行したるに拘はらず、所謂國辱公債と稱せらるゝ程の不利なる借替をも忍受せなければならぬ境地に立つに至つたといふ事實は、金解禁そのものが或る一部に唱へらるゝ如く、外債借替の爲に絶対的必要條件にあらざりしことを證據立てゝあるではないか。慧敏なる國際財界に在つては、形式上に於ける金解禁の價値性よりも、實質上に於ける國家及國民經濟の強弱を重要視する。故に假令金解禁を行つたとしても、其の國家及國民經濟の内容が改善されずに依然輸入超過を續け、産業の基礎が確立せなかつたならば、國際上の信用は高まらないのである。之に反して假りに金の輸出を禁止して居つても、之に依つて國家及國民經濟が着々と伸展し實質的に健全性を加ふるに於ては、國際財界の信用に依り外債は自然に成立し得る。随つて眞實に必要な條件は漫然準備對策なき金解禁を急ぐことにあらずして、國家及國民經濟の改善と發展とを根本義とするのである。

吾々は今更既に過ぎ去りたる問題を捉へて歴史的檢討を試みんとするものではない、唯だ先天的盲者にあらざる限り、見るものゝ眼を痛めしめずには措かない現實の受難時代の際會しながら、尙其の主因及動機等について正しき理解を持たざることを爲に、將來如何なる應報を受くべきかを想はずには居られないのである。現實の受難に對して正しき理解を持たざることは、即ち深刻なる國難に善處すべき方策の破産者たることを意味する。それは又單なる調査、單なる審議等に藉口して其の日暮しの小計に多忙を極むる外、何等不景氣回復の根本策を持合は



さざることを意味する。假りに總ての責任を世界不況時代の一語に歸納し能ふにせよ。さらば他日歐米各國の財界が好轉せる時、我が國の産業は如何にして發展し、我が國の貿易状態は如何にして好調を呈するか。彼れが財界の好轉は、彼れが輸出力の復活旺盛を告ぐる時であり、彼れが輸出力の復活旺盛を告ぐる日は、現に輸入國の立場に在る日本に取りて如何なる結果を招致するや。我が國それ自身に於て積極的進取的なる産業國策の達成を圖ることなく、徒らに緊縮と消費節約を呼號しつゝ、何を吾々は前途に待ち設け得るか。自國の産業を振興せず自國の經濟發展に努力せずして而かもるながらに輸入防遏、輸出増進、國際貸借の改正を期待するが如きは、神の力を以てしても之を不可能と匙を投げるに相違ない。其の失業問題に對するも、將た思想國難に對するも亦然りである。

而して更に其の到達點は如何、吾々は憂ふ、若しも斯くの如き退嬰姑息の計に齷齪し、國難の真相を自覺せざるに於ては、世界各國が好況時代に移れる日こそ、却つていよ／＼我が國産業の擡頭を壓迫し、威力を我が經濟界に振ふべく肉薄し來らざるかを。何となれば現代は國際的經濟爭覇戰の時代であり、何れの國も輸入防遏、輸出増進を以て國民經濟の基調と爲しつゝあるからである。随つて若しも其の曉に於て我が國のみが依然消極主義の政策に低迷し自ら改むることを知らずとせば、折角至大の犠牲を拂つて敢行せる金解禁の如き、遂に或は之を無意義ならしめ、或は之を支持するの不利を忍ぶ能はざるに至るなきを保せない。

吾々は固より曾て歐洲各國に見たるが如き資本の逃避を豫想するものではない。如何なる難關と雖も我が國民の手に依つて必らず打開すべきを確信する。併しながら現に金解禁を以て唯一の成功とし而して之を執行するが爲に消極的政策を支持固執することの結果は果して如何——準備なくして金解禁を行へる場合に於ては、所謂消極的政策を固執せざる限り、正貨は必然に海外に流失せざるを得ない。故に消極内閣の緊縮主義は、之を反面よりいへば何等國際貸借改善の方策を待たずして單なる金融資本主義の思想に誤られ、漫然金解禁を急ぎたることを自語自白すると異なる。若しも相當對策あり準備ありて然る後に金解禁に着手したりとせば、敢て緊縮を叫び節約を呼號するにも及ばない筈である。何となれば我れに於て相當の對策と準備とを有するに於ては、毫も正貨の流出を憂ふ必要もなく、國際貸借關係は自然に改善せられ能ふが故である。少くとも我れに於て輸入防遏及輸出増進の方策に確立し、そして着着之を實現するに於ては、何時金解禁を行つても今更めかしく緊縮と節約とを強調しなければならぬ必要は無いのである。然るに此の明白なる事理を押し隠して全然我が國と實情を異にする他國の事例を引用し、總ての責任を世界的不況時代に歸することに依りて金解禁が持ち來したる激動と、消極政策が與へたる打撃とに改悔せざるに於ては——論理の指示する所、國民を驅つて益々陰暗なる淵瀨に臨ましむるの危きを深く憂慮せずには居られない。

それ故に吾々は、今こそ正直に國難の真相を見究め、正しき認識を把握せんことを要求するのである。そして國難打開の鍵が結局産業國策の確立と共に積極的方針を執りて邁進するの一事に在るを提擲するのである。此の意味に於て所謂不景氣退治策の別語も、國民經濟建直しの要訣も、端的には即ち積極的なる産業國策の遂行、唯是れあるのみ。



今更めかしく緊縮と節約とを強調しなければならぬ必要は無いのである。然るに此の明白なる事理を押し隠して全然我が國と實情を異にする他國の事例を引用し、總ての責任を世界的不況時代に歸することに依りて金解禁が持ち來したる激動と、消極政策が與へたる打撃とに改悔せざるに於ては——論理の指示する所、國民を驅つて益々陰暗なる淵瀨に臨ましむるの危きを深く憂慮せずには居られない。

それ故に吾々は、今こそ正直に國難の真相を見究め、正しき認識を保持せんことを要求するのである。そして國難打開の鍵が結局産業國策の確立と共に積極の方針を執りて邁進するの一事に在るを提擧するのである。此の意味に於て所謂不景氣退治策の別語も、國民經濟建直しの要訣も、端的には即ち積極的なる産業國策の遂行、唯是れあるのみ。

## (二) 保護政策及生産制限に就て

前節に於て余輩は我が經濟國難の根本的原因の那邊に在るかを考察すると同時に、現に或る一部の人々に依つて唱へられつゝある種々の謬見に對し其の非を指摘した。然るに翻つて更に各方面に於ける論議竝に事實に徴するに、其處には又別種の見解が行はれてゐる。其の一は所謂保護政策に對する誤解であり、他は吾々が必要とする多量生産主義とは正反對に、却つて生産制限に由る流行的現象である。そして其の結果が政府の消極的政策と共に益々財界を不況にし、殊に失業群の増加を餘儀なくしつゝあることを吾々は甚だ遺憾とするものである。

世の一部、就中生産事業に關係を持たざる學者又は評論家中には往々單純なる經濟原理論を振り翳して頻りに自由主義を鼓吹し、以て獨り自ら賢なりとしてゐる人々を見受ける。此の種の論者に隨へば吾々が主張する産業國策は即ち保護政策と内容を一にするものであり、國際間に於ける自由なる貿易、自由なる需給の關係に墻壁を築くものとして反對せられるであらうことを想像し得る。併しながら吾々は先づ是等の論者に反問する、今や世界廣しと雖も何れの國家が果して自由主義の政策を實行しつゝあるかと。問題は抽象的理想論を机上に争ふにあらずして如何に國際的經濟爭覇戰に善處し、如何に國民生活の安定と幸福とを保持増進すべきかに在る。然るに現實の世界に於ては極めて公正なる人道的觀念に出發する人種的差別すら撤廢されず、海洋自由主義の建前すら行はれないのである。そして自由主義の代りに劇烈なる關稅戰争が各國間に實演されて居るのみならず、自國の生産品を他に輸出するが爲には外交に、金融に、稅課に、運賃に、保險に、あらゆる手段が講ぜられてゐるのである。例へば米國の如く、自給自足して尙ほ絶大なる餘剰を有する國家さへが、極めて高き關稅國であり、過去に於ては自由貿易主義を誇りとせる英國の如きも、今日は我が國に遜らざる保護關稅を實施しつゝある。多年勞働黨の政權下に在る濠洲が砂糖、絹布等に對して殆んど禁止的關稅を課しつゝあることや、最近に於ける印度の綿布輸入稅引上げ等は果して何を現實に物語るものなりや。斯かるは上來屢々説明せる通り悉く自國産業保護の爲に外らない。語を換ふれば現代は自由主義時代にあらずして保護政策時代といふも決して過言では無い。

勿論、誤られたる保護政策が、逆に事業の改良を障り其の經營を怠慢化し、國家の恩典に狎れて種々の情弊を醸すの弊あるは吾々も亦敢て之を否定するのでは無い。然れども一部の弊のみ見て全局の利害に考慮を缺くが如きは正しき認識とはいはれない。局部的には消費階級に取りて不利と認めらるゝが如き場合あるにもせよ、國民全般の上より觀察して保護獎勵を利益とするに於ては、それが應て何等かの形に依りて消費者の負擔を軽くするの効果を齎らすのである。例へば我が國の農業を保護する如き、基本工業に對して保護政策を行ふが如き、たとへ之が爲に或種の關稅をヨリ高くし、又低利金融の途を講じて其の發達に助成すとしても、其の結果として巨額の輸入を防遏し、進んで輸出を見るに於ては、それだけ國家全局の利益となり、國民經濟を豊かにするのである。輸入超過の爲に外國に國債を募り其の元利を負擔するよりは、



一時關稅を忍んで自國の生産を進展せしめ輸入變じて輸出とならば、其の效益の永久的であり、全般的たるは多言を費すまでもない。我が國の砂糖、造船、海運、製鐵等が兎にも角にも今日の狀態に進みたるは直接間接國家に負ふ所至大であり、蠶絲が貿易の大宗となるに至れるも種々の方法に由る獎勵及保護なくんば、或は現在の如き盛況を未だ目撃する迄に普及發達してゐなかつたかも知れない。弊をいへば寧ろ限りなし、朝野協力して責任觀念を激勵し情弊を排除すれば善いのである。

吾々の切に遺憾とする所は、それよりも却つて保護政策の不徹底なることである。不徹底なるが故に食料にせよ、鐵にせよ、機械にせよ、肥料にせよ、其の他現在我が國に於て既に立派に生産し製造し能ふものに對し尙多額の代價を外國に支拂つてゐるのである。そして輸入超過を啣ち、國際貸借の改善に苦心慘憺してゐるのである。所謂國產獎勵、國產愛用の宣傳は固より不可ならざるも、眞實國民が要求する所は紙上の獎勵と口舌の宣傳に先んじて實物を豊富低廉且優良にすることである。實物を豊富低廉且優良ならしめんが爲には、其の生産を盛大ならしむるを要する。生産を盛大ならしむるには政策の許す限り國家の力を以て保護助成の途を講じ、外國品との競争に打勝ち得るまでに進歩發達せしめねばならない。それは國家としての生産的投資であり、國民の負擔は一時的にして其の利益は恒久的ではないか。

既に前に例示せし通り、吾々の所見に據れば現在我が國が外國に對して支拂ひつゝある約二十億圓内外の輸入額中、其の一半は國內に於て優に生産自供し得るものである。就中農業及基本工業に對し假りに十億圓を保護、研究、指導及獎勵等の爲に國家が投資すとしても——無論此の投資は大體上十年内外の繼續的事業と爲すべきであり、隨つて毎一年の經費は平均一億圓程度にて足る——其の結果に於て輸入總額二十億圓の一半即ち十億圓を減少するに至らば、國家が支出せる經費は一年にして國民の手に回收し得ることになる。假りに最少限度に豫想して、其の半額五億圓の輸入を防遏すとしても、二ヶ年にして投資額を取戻し得る計算となるのみか、之に依つて國內の生産を發達せしめ進んで輸出の途を開き得ると共に、我が國民が有する技能と過剩勞力とを活用し能ふのである。年々五億内外の經費を軍備に掛けつゝある日本として、又中央及地方を併算し六億圓近くを教育費に支出しつゝある日本として、これしきの金額を産業國策の運用に投資し能はぬといふ理はない。

現在にても我が國の豫算面に於ては補助、獎勵、改良等各種の名目を以て支出せらるゝ金額が一般會計所屬昭和四年度分に一億圓餘りがある。併し其の中の約半額即ち四千六百萬圓程は内務所管の水道、港灣及府縣債利子等に對する補助金であり、他は各省に分割されて文部にも外務にも陸海軍にも遞信、拓務等にも振り向けられてゐる。それで直接産業振興の爲に支出せらるゝ分は農林省の二千三百萬圓と商工省の五百三十萬圓に過ぎない（此の兩省中にも開墾及土地改良費とか、漁港修築獎勵費とか、發明獎勵費、理化學研究所補助など二十幾種のものが含まれてゐるが）。斯かるは吾々が提唱する産業國策のそれに比し餘りに散漫稀薄なる施設であり、更に其の方針を徹底的ならしむると共に、産業方面に對する金額を一億圓臺に引上げ、遅くとも十ヶ年を期して國家が必要とす輸入防遏、輸出増進の目的を達成するだけの積極的計畫を樹立しなければならぬ。但し問題は寧ろ財源關係に在りとせんも、これ又既述の如く行政制度の改善に由るべく、官業及國有財産の整理と

處分に由るべく、又或るものは公債に由るべく、其の他必ずしも其の方法なきを悲觀するには及ばないのである。所詮は積極的に國運を打開するか、消極的に退嬰逡巡するかに在るのみ。世上保護政策を排して専ら自由主義を執るべしと主張する論者は世界各國の實勢を無視して、



併し其の中の約半額即ち四千六百萬圓程は内務所管の水道、港灣及府縣債利子等に對する補助金であり、他は各省に分割されて文部にも外務にも陸海軍にも遞信、拓務等にも振り向けられてゐる。それで直接産業振興の爲に支出せらるゝ分は農林省の二千三百萬圓と商工省の五百三十萬圓に過ぎない（此の兩省中にも開墾及土地改良費とか、漁港修築獎勵費とか、發明獎勵費、理化學研究所補助など二十幾種のものが含まれてゐるが）。斯かるは吾々が提唱する産業國策のそれに比し餘りに散漫稀薄なる施設であり、更に其の方針を徹底的ならしむると共に、産業方面に對する金額を一億圓臺に引上げ、遅くとも十ヶ年を期して國家が必要とす輸入防遏、輸出増進の目的を達成するだけの積極的計畫を樹立しなければならぬ。但し問題は寧ろ財源關係に在りとせんも、これ又既述の如く行政制度の改善に由るべく、官業及國有財産の整理と

處分に由るべく、又或るものは公債に由るべく、その他必ずしも其の方法なきを悲觀するには及ばないのである。所詮は積極的に國運を打開するか、消極的に退嬰逡巡するかに在るのみ。世上保護政策を排して専ら自由主義を執るべしと主張する論者は世界各國の實勢を無視して、日本獨り永久の輸入國たり債務國たるに甘んぜよと唱ふるに異なく、然らずんば無爲に傍觀して國際經濟戰の落伍者たる運命をも介意せざる超國家的仙人論者である。積極主義は斷じて放漫主義でも空景氣政策でも無い。積極主義を基調とせざる限り生産事業は振興せず、國民經濟は擴充されぬからである。

然るに退きて我が國刻下の状態を見れば、一方政府に金解禁後の準備なく對策なく徒らに調査審議に日を消しつゝあると同時に、他方民間に在つては諸會社各事業家を通じて生産制限、操業短縮、工場閉鎖、企業中止等々々、全く以て秋風落莫の感を與へつゝある。そは恰も爲政者が専ら消極的政策を墨守して國家の大策に深慮せず、不合理なる緊縮と節約の歌を合唱しつゝあると同時に、民間實業家も亦總括的意味に於ては己むなく前者の政策に引きづられて退嬰的自衛策を執るの外なき窮境に在るものと解せられる。而かも此の如きは共に國民經濟の發展を阻碍し、産業の興隆を抑塞するの甚だしきものと言はざる能はずして、其の不利不幸なるや言を俟たない。固より現在の各種事業中には歐洲大戰時代の好況に陶醉し、全然一時的偶然的なる急需要に由るの事實を冷靜に考慮することなくして高價なる永久的设备を爲したるものもあらう。又前者と同様の輕慮よりして突發的に現はれたる消費の増加にも拘はらず、それが將來無限に繼續し多々益々増進するものとの誤信に驅られ莫大なる事業擴張を行ひたるものもあらう。而して是等の事業が概ね最も物價の騰貴せる時期に於て建設又は擴張せられたる爲め、今日の時價より見れば固定資金に少からざるの缺損を示し其の収益の減退を免れざるは寔に己むを得ざることゝいはねばならぬ。其の上に歐米各國に於ける戦後の産業復興に際會して著大なる影響を被り、そして更に消極的なる緊縮と節約政策の祟りを受けたのである。随つて近時の株式低落は單に収益配當率の減少のみに由るにあらずして、資本に對する評價點も併せて鋭敏なる事業家及投機者等の眼を離れず、寧ろ之に依つて經濟上の水平線にまで合理化されつゝあると認め得べきものもあるのである。此の故に戦時好況時代に投ぜられた是等の固定資産中、未だ適當に整理を了せざりしものに對し、此の際直ちに時價標準程度に切り下げられたとしたならば、株價の居所も収益の利率も相當の水準線に復歸すべきもの當に二三に止らないであらう。併しながら、此の種の事象は寧ろ經濟界自然の作用に依つて調節せらるべきものであり、且つそれが自然的に調節せられたにせば、事業の基礎は堅實となり、其の機能及信用共に十二分に恢復すべきを疑はない。

尙率直にいふならば、今日最も苦境に在る各種産業中には、それ自らに於て需給關係を無視したる誤算と、日新の科學的设备及其の運用に缺陷を有するものも亦尠しとせない。或は事業の統制宜しきを得ざるもの、或は二重三重の無駄を累ぬるものもあり、専ら國內の消費を目標とせる結果、一たび内地需要の減退に會するや忽ち製産過剰の形を呈し、而かも急に輸出すべき販路を見出し能はざる爲め、己むなく操業短縮又は工場閉鎖の厄に遭へるものも稀では無いのである。勿論大戰當時の盛運に際し収益を目的とする事業家が各般の企業を行へることは寧



る當然にして無理からぬ現象ともいふべく、且つ之を半面より見れば我が國の産業は其刺戟に依つて異常の發達を示し、偶然にも列國に對抗し得る能力の實在を初めて確め得る好機會を得たりとも稱し得るのである。歐洲大戰が有史以來の大事變たりしと同様に、それが世界各國の經濟界に與へたる激動も亦空前的なるが故に、此の間に發生せる種々の現象は固より常時の標準を以て律すべからざるものがあり、随つて其の結果に於ても亦當時の判斷のみに依り是非得失を論定するは酷に過ぎやう。其處に多少の誤算又は過失を免れざりしにもせよ、勢ひの然らしむる所概ね避け能はざる經過を辿れるものと解し得べきであるが、しかし此の事實ありしが爲に、我が國將來の工業を悲觀し、始んど絶望的なるかの如く意氣消沈するに至つては、其の謬見たるの甚だしきや亦多語を要しない。我が國今日の工業不振の状態に氣死的恐怖心を起し、徒らに遲疑退嬰するの非なるは恰も大戰當時の好況の永久に持續すべきが如く觀測せると同様なる誤算といふべくして、若し此の種の臆見に低迷するに於ては、それこそ更に常規を逸せる没我的見解といはねばならない。

既にいへる通り、我が國の經濟的立場は歐米の何れとも同じからず、又我が國民の有する技能及勞力は如何なる業種を問はず決して歐米各國人に比し遜色は無いのである。それは嘗に戰時非常の場合に方りて然るのみならず、平常時に於て其の實力を發揮し、如何なる相手如何なる舞臺に立つとも毫も後れを取らざるだけの自信が無ければならない。否、其の實力は既に立派に證明せられてゐるのであつて、本質的には寧ろ大に樂觀すべき理由を見出し得る。空古無前の變動時代に際會して僥倖的成功に酔溺せるの不覺なりしが如く。其の反動的低氣壓に錯愕して俄かに失望落膽し専ら消極退嬰主義に墮するが如きも亦自覺ある國民の態度とはいへない。整理すべきものは當然に整理されるべきであるが、それは經濟界自然の作用に依つて漸次に調節さるゝと共に、潑刺たる更生恢復の光明が洋々として待ち設けてゐることを知らねばならない。それ故に所謂生産制限、操業短縮等々の如きは、或る期間或る場合に限局せる應急的自衛手段としては兎も角、根本的に有爲なる國民に取りて賢明なる方針とはいはれ能はぬ。苟しも國際經濟戰に善處して國民經濟の振興發展を圖らんと欲する限り、其の製作生産品の國際商品化を切實に意念して忘れざる限り、而して現時の苦境を切り抜くる爲には高價なる固定資本、二重投資、科學的設備等々に改善の餘地あるを自知する限り、難關突破の途は濶然として開かれてゐるのである。同時に國家が必要とする方策、即ち爲政者として努力せざるべからざる經濟界建直し策が決して資本の活動を停止せしめ生産制限を餘儀なからしむるが如き坐食的籠城主義や、生産機能を睡眠せしめて操業短縮に導くが如き小乘的退避主義にあつてはならない。需要減退、消費節約の爲に、當業者をして己むなく自衛的に操短乃至工場閉鎖を行はしめ、失業群を迫出するが如き消極策に偏執するの不可なるは、最早や自明の理であらねばならない。

廣く各國を見渡せば、其處には例へば棉花の如き、鐵鋼の如き、硫安の如き、何れも世界的に生産過剰を告げつゝあるは一般に知らるゝ所である。併しながら我が日本に關する限り、決して他國と同一に語るべからざる事情あるは既に指摘せる通りである。輸入超過國たる日本としては寧ろ他國に於ける生産過剰を利とする場合ありとも、自國の生産を制限して可なりとすべき理は極めて稀なる特殊の例外を除き之ある

を知らない。曩に世界の最大肥料會社の一たるハーヴァー社の一重役が我が國に來朝せる時、頻りに硫安の世界的生産過剰を物語りて當時我が滿鐵の計畫を非とするかの色を示した。但し余は日本の實情が各種肥料輸入の爲に年々一億五千萬圓乃至二億圓もの代價を海外に支拂はせ



小乘的退避主義にあつてはならない。需要減退、消費節約の爲に、當業者をして己むなく自衛的に操短乃至工場閉鎖を行はしめ、失業群を迫出するが如き消極策に偏執するの不可なるは、最早や自明の理であらねばならない。

廣く各國を見渡せば、其處には例へば棉花の如き、鐵鋼の如き、硫安の如き、何れも世界的に生産過剰を告げつゝあるは一般に知らるゝ所である。併しながら我が日本に關する限り、決して他國と同一に語るべからざる事情あるは既に指摘せる通りである。輸入超過國たる日本としては寧ろ他國に於ける生産過剰を利とする場合ありとも、自國の生産を制限して可なりとすべき理は極めて稀なる特殊の例外を除き之ある

を知らない。曩に世界の最大肥料會社の一たるハーヴァー社の一重役が我が國に來朝せる時、頻りに硫安の世界的生産過剰を物語りて當時我が滿鐵の計畫を非とするかの色を示した。但し余は日本の實情が各種肥料輸入の爲に年々一億五千萬圓乃至二億圓もの代價を海外に支拂はせられつゝある關係上、我が國それ自らの立場としては、國家及國民經濟の利害に顧みて、少くとも國內の需要を満たすべき必要あることを説明したのである。然るに流石にも明敏なる彼れは直ちに此の事情を理解すると共に、然らば我がハーヴァー社も進んで亦滿鐵の企業に参加したいとの希望を余に開示するに至つた。輸入國たる日本としては他國の生産過剰が必ずしも頭痛の種では無い。一部當業者限りの採算上よりいへば無論此の種の事情を斟酌すべき必要もあるべきか、國家及國民の全般的見地から考察すれば、他國の一時的生産過剰に引きづられ、それに恐怖し遠慮して見すゝ自國に生産し得るものを外國より購入せなければならぬといふ理由はあり得ない。時としては外國のダンピングに遭逢することもあるべく、又内地消費の減退を告ぐる場合もあらなれど、之を内地に生産する事に依り、廉價良質の要件に備はらば假令一時的には多少の苦痛を忍ばねならぬ場合ありとしても、最後の勝利は必然我が手に歸するに相違なく、斯くしてこそ將來に於ける需要の増進と利益とを期待し能ふ筈である。

事實は單に肥料の一例に限らず、凡そ我が國に於て生産可能なるものは悉く同一の經濟原理に基礎づけられねばならぬのであつて、國策上の根本命題は飽く迄も輸入防遏、輸出増進である。而して之を實現せんが爲には積極的方針を執つて多量生産を圖り、能ふ限り低廉にして内地の需要に應ずると共に、國際的經濟戰に善處する外は無い。それ故に現に見るが如き操業短縮、生産制限等の消極的經營は一般經濟界に捲き起りたる一時的變態であり、企業家自身に取りても不本意なる行き方に相違ない。況んや更に工場閉鎖、事業中止の如きをや。そは自らの資本を殺し、自らの機能を縮ると異らざるが故に。

とはいへ、我が民間事業界をして斯くまでに痛々しき自衛策を講じ、斯くまでに困難なる變態的現象を忍ばざるべからざる状態に立ち到らしめたるは何故か。所謂世界的不況時代と稱する標語が何等全部的理由を爲さず、寧ろ一種の魅惑的又は錯覺的宣傳に過ぎずして、實際的には我が國情に適合せざる遁言葉なることは既述の如くである。随つて其の原因を突き止めんとせば矢張り消極的退嬰主義の誤りを第一に擧示すべきであり、それは即ち思慮なく準備なき金解禁を行はんが爲に持ち出されたる政策の禍ひに外ならない。上に消極的退嬰政策の固執者あるが故に、下に操業短縮、生産制限等に由る消極的自衛策を講ずるものゝ續出するは、蓋し或は當然の成行きとも解すべきか。一部金融資本主義的智見の捕虜となりて國家及國民經濟の全局を見忘れたる消極主義の政策が、如何に思ひ設けざる病的副作用を惹起しつゝあるかは、斯くして既に十二分に判明せることゝ信する。

### (三) 失業問題と其の政策



次には刻下の重大問題たる失業苦及就職難について今一たびの考案を惜んではならない。それは何人が如何に強辯するにせよ、最も直接的には消極政策が持ち來したる國民的受難であり、不景氣が迫出したる煉獄的悲劇である。

こゝにも誤られ易き頭腦の持主は、これ又世界共通の現象なりとし、一切の責任を他働的原因に押しつける。例へば英國も米國も獨逸も齊しく失業問題に苦惱して居り、就中英國の如きは現に労働黨内閣の努力を以てしても未だ適切なる對策なきに困惑しつゝありといふ。吾々の寡聞と雖も歐米の現相を知らざるものでは無い。併しながら歐米各國が何れも失業問題に悩みつゝあるが故に、吾れも亦同一の事實を甘受せざるべからずとの論理は成り立たざるのみならず、言を他國の事情に藉りて意を安んずるが如きは、自國の獨立性を忘却するにあらずんば、國家として政策價値を自ら否定するに異ならない。

まことは歐米に於ける失業問題が既述の如く生産過剩其の他戦後經營の難局に胚胎せる不況現象なるに對し、我が國のそれは依然たる輸入超過、依然たる生活必需品の不足に淵源するのである。生絲の如き特殊品が世界的不況時代の影響を受くるは暫らく己むを得ずとするも、彼れに餘りありて我れに足らざるに拘はらず、事業振はずして失業群を續出せしむるが如きは全然因果を顛倒せるものである。語を換ふれば彼等は必要以上に進み過ぎたるがために不況であるに反し、我れは未だ進まざるがための經濟國難である。現に我が國民の日用品中、我れに於て製作可能なるに拘はらず、尙諸外國に代價を支拂ひつゝあるものが原料類を除きて總輸入額二十億圓の一半約十億圓内外を占めてゐる。然るに今是等工業を奨励して自給し得る迄に生産事業を擴充すべき政策を執るとせば、苛烈なる失業問題は直ちに解決され得るであらう。何となれば十億圓の工業的生產事業が新に我が内地に起るとし、而して其の半數を直接又は間接の労働賃銀と見る時は、假りに一人宛一箇年五百圓としても百萬人に對して生業を提され得る譯であり、男女を平均して一人當り三百圓とすれば實に百六七十萬人の國民を養ふべき生活資源ともなるのである。之に加ふるに吾々は前に農業の改良發展策として國家の手に依り約十億圓を支出し、河川改修、耕地整理、用排水工業、植林開拓等の施設を行ふことの必要を提案した。それは十年後に於ける人口増加及生活向上を見込んでの計畫であるが、假りに此の施設を實現するならば之に依つて更に百萬乃至百五十萬人の勞力を吸収し消化し得て、少くとも現在及近き將來に互り苟くも活動力を有する國民を働かし得る方法なきに困ぜざらんことを信ずる。

随つて我が國に於ける失業問題は歐米とその事情を異にし、本來は生産事業未發展の反映たると同時に、それは國家としての政策的缺陷を物語るものとも解し得る。國家が活用し得べき國民を働かすことに依り多年海外の供給に仰ぎつゝある輸入品の内地生産を充足すべき方針を採用せず、或は之を採用するも姑息不徹底の状態を持ち續け來れる怠慢又は不明の禍ひが即ち失業問題の根本的原因である。更に歩を進めていへば國家の政策が産業本位に立脚せず、國民生活を安定して失業の苦難ならしむる爲の經濟的建前を基調とせざりし結果である。之を以て歐米各國が戦後舉國一致的に産業復興に努力せる事實と對照せよ。同じく不況不景氣の現はれなりといふも、其の原因と事情とは彼我全く相

反せる事實に歸因するを悟り得やう。

故に我が國に關する限り、失業問題の根本的對策は積極的なる産業國策に依り盛んに生産事業を振興助成する以外に別の手段は絶無となる。



かし得る方法なきに困せざらんことを信ずる。

随つて我が國に於ける失業問題は歐米とその事情を異にし、本來は生産事業未發展の反映たると同時に、それは國家としての政策的缺陷を物語るものとも解し得る。國家が活用し得べき國民を働かすことに依り多年海外の供給に仰ぎつゝある輸入品の内地生産を充足すべき方針を採用せず、或は之を採用するも姑息不徹底の状態を持ち續け來れる怠慢又は不明の禍ひが即ち失業問題の根本的原因である。更に歩を進めていへば國家の政策が産業本位に立脚せず、國民生活を安定して失業の苦難ならしむる爲の經濟的建前を基調とせざりし結果である。之を以て歐米各國が戦後舉國一致的に産業復興に努力せる事實と對照せよ。同じく不況不景氣の現はれなりといふも、其の原因と事情とは彼我全く相

反せる事實に歸因するを悟り得やう。

故に我が國に關する限り、失業問題の根本的對策は積極的なる産業國策に依り盛んに生産事業を振興助成する以外に別の手段は絶無となる。歐米各國が現に生産過剰を持て餘しつゝあるとは異り、我れに於ては生産事業だに興隆し發展せば、寧ろ容易に失業問題を解決し得るのみならず、人口問題も學校卒業者の就職問題も將た又國際貸借改善問題も同時に國民の腦裡より取り拂ひ得るのである。そは如何なる意味に於て消極政策に期待し能はざるは勿論、若し今後とも尙ほ鎖國時代の舊套に引きづられ、或は歐米を以て日本を律するが如き本末顛倒の政策に膠着するに於ては、益々我が經濟界を萎縮せしめ、年と共に愈々失業群を増加するに相違なしに思ふ。

以上は主として我が國に於ける失業問題の發因を明かにし、之に對する根本方策を述べたのであるが、朝野刻下の要求は別に應急的施設の急務を訴へつゝある。最早や區々緩慢なる小計に安んじ能はざるまでに事態は急迫を告げてゐる。然らば如何すべきか。

國家が切要とする政策に、矛盾する二つの方針はあり得ない。現實に立脚する經濟原理も亦相反する二箇のプリンシプルを容認することは絶無である。故に所謂應急的對策と雖も、直接又は間接生産事業の振興に助成し、或は其の開發發展を促進すべき施設を措きて他の手段を見出し能はぬ。例へば先づ河川改修である。植林事業である。而して港灣の修築である。産業道路の改修である。開墾及用排水等の施設に依る土地改良である。目的は能ふ限り生産事業に寄與すると同時に、多くの勞力を吸収するに在る。そして其の經費を海外に散逸すること無く、之を國內に投下し國民の手に獲得せしむるを緊要の條件とする。

但し之を實行せんが爲には、何よりも必然に消極政策を抛たねばならない。自縛自縛的なる非募債主義の一擲を必要とする。政治と道德とを混同せる緊縮主義、珠數を爪ぐりつゝ算盤をはぢくが如き消費節約沙汰等々、總てサラリと水に流してしまはなければならぬ。即ち從來の如き金融資本主義的傾向を拋棄し改悔して其政策を轉換する。心より魂を入れ換へて文字通りに生れ變る。それが消極主義の政策を掲げて國民に呼びかけたる爲政者に對して、責任の大義と立憲道德との上より容易に許さるべきことなりや否やは別問題として、今は失業問題に對する應急的方策が、一内閣の責任乃至面目問題よりも嚴肅且つ重大性を有すとの意味において、當然斯くあらねばならぬことを要求するのである。

聞くが如くんば、有繋の消極内閣も漸く失業問題の重大性に反省して頻りに職業紹介所の増設を圖り、或は地方事業に對する補助條件を緩和し、或は之が爲に特殊の委員會を設けて何等かの方策を見出すべく努めつゝありと傳へられてゐる。だが如何に職業紹介所を増設したればとて事業そのものが興らなければ失職者は救はれない。如何に補助條件を緩和し、如何の朝野の知識を集めたればとて消極政策に粘着し非募債主義を金科玉條視する限り、潮の如く押し寄せる失業群を消化し得べき妙案ありとは覺えぬ。それは單なる卓上の閑談か、或は申譯的集會か、又は當面の責任を廻避せんとする形式的機關に終らざる寧ろ至幸である。そも／＼知らず、口に緊縮を唱へて、手に補助條件を擴大す



るが合理的方針なりや、一方に事業繰延を強制し消費節約を高唱しつゝ、失業群の續出に驚きて急に各地方に起業を促すことが所信に一貫せる政策といひ得べきや。消極主義の政策的價値は既に支離滅裂、唯だ崩壊の一途を走つてゐるに過ぎないではないか。

或はいふものあらん。失業問題の輕視すべからざるは論なしと雖も我が國には我が國の特色あり、即ち家族制度に依る相互扶助の美風あるが故に必ずしも歐米に於けるが如く重大視するを要せざるべしと。吾々を以て之を見る。それは確に一面の事實であると同時に、他面大なる矛盾を告白するものである。家族制度の舊風が尙比較的に他國よりも根強く保持されてゐることは之を承認する。これあればこそ現に社會局に於ける狭き範圍の調査を以てしても三十萬人の失業者ありといひ、更に廣く各地各方面に互らば七十萬乃至百萬人或はそれ以上と稱せらるゝ程の失業者を抱へつゝも、兎に角表面を取繕ひ社會の平靜を保ち得るのである。だがそれは舊時代に於ける最後の生活擁護法であり、唯一の自己保護法たりし此の制度習慣も、今は漸次、變遷し冷却して悲惨なる哀話は頻々街頭に織り出されつゝあるのみならず、之を國家の全局よりいふならば、凡そ失業者の續出ほど不經濟極まる消費は無いのである。雇傭者は其の從業者を淘汰し、其の使用人を減ずることに依り自己の負擔を免れ、會社工場等の倒産を防止し、或は其の利益を保持し得るのもあらう。併し、投げ出されたる失業者は親類縁者知人等に取絶り、若くは生命の糧を借金に求めねばならない。随つて國家經濟の全面に於ては何等消費を減せずして而かも其の負擔を同じ國民の間に轉嫁せられるのである。如何なる失業者と雖も衣食なくして活くる能はず、衣食を要するが故に國民全體の消費量には増減無し。而して七十萬乃至百萬と稱せらるゝ働き盛りの人間が何等生産を行ふこと無しに無意義なる消費生活を營まざるを得ないのである。これ豈驚くべき不經濟至極の事實ではないか。

假りに百萬の人間が一日一圓の生産を行ふとしても、一ヶ月にして三千萬圓、一年に見積りて三億六千餘圓であり、若し一日二圓とすれば七億二千萬圓の生産増加となり、それだけ國富を増進するのである。然るに之を現状のまゝに放任するに於ては、一方に於て何等生産せず、他方に於て無意義に喰ひ潰すことゝなるが故に、國家は二重の損失を招くのであつて、其の損害の絶大なる、僅々一二億を上下する緊縮政策と同日の談では無い。随つて家族制度の存在を理由として失業問題を輕視し或は樂觀するが如きは、全然國家經濟の何たるかを辯へざる迂論であると同時に、國民それ自らが如何なる租税よりも重き負擔を家族制度の名に依りて強制さるゝの矛盾を悟らないのである。消極主義の政策が假令政府の豫算面又は公債市價の上に若干の效果を示すとしても、其の根本に於て損得相償はざる大缺陷を有することは、此の一例に依つて想像し得るであらう。其の上に各種證券の暴落あり、土地、農作物を始め、あらゆる資産も生産品も、更に經濟界不振、生活不安に由る思想の動搖悪化も見通し能はざるに於て、是等有形無形の損害は實に超數字的なりといはねばならない。

考究し來れば現時の經濟的國難を匡救打開する方策は、一に唯だ積極的なる産業國策の達成以外に何等の手段なきは益々明瞭と信ずる。現狀既に然り、連んで十年後の日本を思ひ、人口増加の趨勢に慮を運ぶならば、區々たる小計小策の如何に無價値にして寧ろ深憂に堪へざるも

のあるかを痛感せずには居られない筈である。案するに十年後の日本は其の人口に於て約一千萬を加ふべく、文化の進展に依る生活の向上も亦著しかるべきを豫想しなければならぬ。假りに一人平均最少額年百圓の生活費を要すとして其の金額は一千萬人に對して十億圓を増し、且



であると同時に、國民それ自身が如何なる租税よりも重き負擔を家族制度の名に依りて強制的に受ける。消極主義の政策が假令政府の豫算面又は公債市價の上に若干の效果を示すとしても、其の根本に於て損得相償はざる大缺陷を有することは、此の一例に依つて想像し得るであらう。其の上に各種證券の暴落あり、土地、農作物を始め、あらゆる資産も生産品も、更に經濟界不振、生活不安に由る思想の動搖悪化も見通し能はざるに於て、是等有形無形の損害は實に超數字のなりといはねばならない。

考究し來れば現時の經濟的國難を匡救打開する方策は、一に唯だ積極的なる産業國策の達成以外に何等の手段なきは益々明瞭と信する。現狀既に然り、連んで十年後の日本を思ひ、人口増加の趨勢に慮を運ぶならば、區々たる小計小策の如何に無價値にして寧ろ深憂に堪へざるも

のあるかを痛感せずには居られない筈である。案するに十年後の日本は其の人口に於て約一千萬を加ふべく、文化の進展に依る生活の向上も亦著しかるべきを豫想しなければならぬ。假りに一人平均最少額年百圓の生活費を要すとして其の金額は一千萬人に對して十億圓を増し、且つ全國民の生活上費を十五億と見積ればその總額は二十五億圓に上るのである。別言せば或が國は今日及今後に備ふべき第一期計畫として十年後に於て少くとも、二十五億圓に相當する生産の増加を圖らざる限り、國家及國民經濟の平調を保ち能はざる難局に直面すべく豫告されてゐるのであつて、それは既往の事實と経過に徴するも、是れなくては必然に國民生活の窘窮を免れざる最少限度の數字である……大正元年の五億三千萬圓から同十年の二十五億圓に増加してゐる。但し近年殆んど國民所得の増加を見ず、却つて逆轉の形勢に在る。それが即ち經濟的國難の主なる一原因である——露國は現に所謂五ヶ年計畫を立て國民所得の四割八分迄を動員し、總額九百億圓の巨資を財政上に運用して現在二百四十億の國民收入を四百九十億圓に増加すべく雄大なる産業發展策に着手し、既に目醒ましき實績を擧げつゝある。彼我國情を異にするにもせよ、國民經濟の充足原理に二つは無い。我れに於て二十五億圓の生産増加策は一見過大なるが如きも、實際的には寧ろ過少に失する程である——

而かも是れ決して吾々限りの杞憂を描くにもあらざれば、斷じて實現不可能なる空想でも無いのである。即ち上來各所に論述せる通り國家は農業方面の改良發展に總額十億圓を繼續事業として投資する、そして工業方面に對しては適度の保護政策を善用すると共に年々五六千圓乃至一億圓の助成金を與ふることに依り、是れ又同じく十年を目安として主要産業の擴充伸展を促進し達成する。斯くして朝野の協力に依り十年後に至り、農林、水産及各種工業を加へ年々二十五億乃至三十億圓に上る生産増加を期待することは何等懷疑的なる計畫では無いのである。今日我が國民は既に深刻なる不況に呻吟しつゝあるが上に更に將來の計を考慮すれば、益々積極的政策の遂行以外、國難打開の鍵あるを知らない。

#### (四) 國民の自覺と理解

吾々の要望する産業立國策が、如何なる考案に出發し、如何なる建て前に立脚するかは大略ながらも既に其の輪廓を描寫し了つた。それで茲に改めて廣く國民に呼び懸ける。

産業立國策は國民の總てが、其の生活意識を産業の發展に集注することに依つてのみ如實に成就する。それは決して一政府、一政黨限りの持物でもなければ、一部一局限りの努力を以て其の効果を奏するものでも無い。故に國家の政治が、外交が、國防が、教育が、就中財政が、税制が、その他あらゆる機關が、産業中心主義の認識から遊離してゐる間は、名實共に具備する産業立國策は到底實現化されない。随つて其



の國民經濟は多幸なる環境に置かれ能はずして、依然經濟國難の前に萎縮してゐなければならぬ。それを朝野の人々、國民の多くが無關心に傍觀し、或は不明に放慮して可なりとすべきか。

國家の合ひ言葉は國民それ自らである。單なる一政府、單なる一政權の如きは長き國民の歴史より見れば電光的一過程に過ぎない。所謂國策といふも、方針といふも、總ての施設、總ての計畫が、國民それ自身の智慮分別を表現する代名詞に外ならない。國家の政治、國家の政策は取りも直さず、國民自身の姿であり、之を善くするも悪くするも、國民自身の意思と決斷如何に在ることを夢寐にも遺忘してはならない。

近時の流行語に屢々産業統制なるものを耳にする。國家の力を效果的に活用して生産消費兩方面の利益を増進するが爲めといふ。いはゆる統制なる文字は例へば又合理化といふが如く、抽象的には妥當、否、寧ろあたり前のことである。如何に事を好むものと雖も自ら求めて不統制不合理を禮讚する理なきが故である。併しながら我が國從來の政治及制度が正しき意味の統制を實現化すべく基調づけられてゐるやと問へば不幸にも裏切られつゝある事實の分量が餘りに多くを占める。官僚主義、形式主義、割據主義、法規萬能主義等々よりする時代錯誤の障礙が殆んどあらゆる機關と機會とを利して國民の通路に立ち塞がりつゝある時、何人が果して絶對の信頼を所謂統制てふ文字に表明し能ふか。既往の經驗が導き來れる概念よりいふならば、所謂統制は善意の指導精神を基調とせずして却つて監督、威壓、干渉、強制等の歪められたる事實を持ち來さすとの保證を約束するに至難である。その結果は益々認可、許可主義の濫出であり、些々たる一建築の爲に其の筋に御百度を踏ませられ、一枚の旅行券の爲に數ヶ月を要し、多忙なるらしき官憲をしていよく多忙を啣たらしむると同様の煩贅を増さずとは限らない。統制の不必要なるにあらず、本來の機構と其の運用が未だ專制時代若しくは憲政未熟時代の舊殼から脱してゐないが故である。

産業統制の前提要件は先づ爲政者の自覺を急務づける。爲政者の自覺は國民一般の今少しく賢明であることを要求する。まことは政府それ自體が産業參謀本部であり、經濟總司令部であらねばならぬのである。随つて首相以下各大臣、各次官乃至大小百官有司の全部が悉く産業官であり、産業運轉手であることを以て第一の資格とせねばない。無論外交官も産業吏であり、陸海軍も國際經濟戰に對處すべき産業官としての智見と用意とを缺如せず、わけても教育家に至つては最も重大責任を有する産業官となり、總ての學校をして極めて有意義なる産業指導場たらしむる心得を要とする。農林、商工、遞信、鐵道の各擔當者は産業振興の技工であり轉撤手たると同時に、大藏其の他の會計吏は産業發展上の簿記係であり、出納員たるを主趣とせなければならぬ。勿論是等の産業官それ自らが商工業を營むが如きは却つて一般的なる統制の建前に合致しない。故に政府經營の官業は全然利益觀念を離れたる純乎たる公共公益事業以外最少限度に縮小さるべきが至當である。斯くして國家の政治と機構とが産業化經濟化するに至つて、初めて眞實なる産業統制が期待され得るのであり、語を新たにせば中央及地方に於ける行政の全部それ自體が、何等特殊の規定も新規の組織命令をも加くすして本質的に産業統制の機關となるのであり、ならねばならない筈である。

然り、この自覺なく理解なく唯だ漫然として今さら産業統制を説き、或る種の審議機關を設け、若くは合理化を宣傳し、又は國産愛用を奨励すとも、其の有效限界は官公衙の室内を出でず、一步を外界に運ばば雲の如く煙の如けんのみ。若し幸にして此の自覺、此の理解に到達す



展上の簿記係であり、出納員たるを主趣とせなければならぬ。勿論是等の産業官それ自らが商工業を營むが如きは却つて一般的なる統制の建前に合致しない。故に政府經營の官業は全然利益觀念を離れたる純乎たる公共公益事業以外最少限度に縮小さるべきが至當である。斯くして國家の政治と機構とが産業化經濟化するに至つて、初めて眞實なる産業統制が期待され得るのであり、語を新たにせば中央及地方に於ける行政の全部それ自體が、何等特殊の規定も新規の組織命令をも加くずして本質的に産業統制の機關となるのであり、ならねばならぬ筈である。

然り、この自覺なく理解なく唯だ漫然として今さら産業統制を説き、或る種の審議機關を設け、若くは合理化を宣傳し、又は國產愛用を奨勵すとも、其の有效限界は官公衙の室内を出でず、一步を外界に運ばば雲の如く煙の如けんのみ。若し幸にして此の自覺、此の理解に到達するならば、從來の行政組織も、教育制度外交方針も、國防施設も、金融機關も、法制も、慣例も、其他あらゆる方面に互つて産業國策の運行に便ならむべく改造し、更新されなければならぬ。ヨリ切實には政治の全部が産業國策の別名であり、産業國策を實際化する爲の有機的機關と解する。そして國民の總てが産業を中樞として圓周を作り、常住に不斷に産業總動員を具現する。それで無ければ直面しつゝある國難を打開して國民經濟の建直しを達成することの極めて容易ならざるを知らねばならぬ。

固より現時の行政、現時の制度及慣例等に没頭しつゝある人々に取りては、それが意外なる變革とも見られ、或は思慮だに及ばざる改造と感ぜられるかも知れない。随つて如何に其の變革改造を行ふべきかの手段方法を、それ等の人々に求むるとも唯左支右吾の觀を呈し、茫乎として手の下しやうなきを嘆ぜしむるでもあらう。併しながら斯くの如きは多年因襲の蔭に呼吸し、傳統の殼に生活を續け來れる爲め、新世界を見て驚異の眼を睜るの類に異ならない、曾て二十萬の兵員を動かしたる日清戰爭に驚けるものは、百萬の王師を活躍せしめたる日露戰爭を見るに及んで震天撼地の感を惹起したのである。何ぞ圖らん、更に十年後には戰線數百里、兵員一十萬を超える世界的大戰役に逢着せんとは事實の展開は小説よりも多變であり巨大である。獨逸に課せられたる賠償金が天文學的數字より成れるに先立ち、交戦各國民は既にそれぞれ數百億の戰費を負担して居つたのである。そして戰後國民經濟安定のために再び國運を賭して大改造を痛斷決行したのである。而かも其の大改造は一に産業國策の遂行を目的とし、依つて以て國勢復興の主眼としたものである。然るに日本の現状は果して如何に在るか。

改造は至難の業であるといふ、其の言に偽りありとは思はれない。だが至難なるものは獨り改造だけには限らない。今日我が國民を痛ましめつゝある經濟國難の當相は一層至難なる事實の現はれであり、農村の疲弊、商工業の沈衰等、一として至難ならざるものは無い。實際的には總ての國民が悉く至難なる苦境に喘いでゐるのである。國民生活の至難なるに比すれば、行政、外交、國防、教育等の改造が何の至難か。殊に歐洲各國は血河屍山の死線を踏み越え、數百億の戰費を肩に荷ひつゝも、極めて勇敢に既に其の至難なる事業に着々成功を告げてゐるのである。日本よりも遙に大なる犠牲を拂ひ、遙に深刻なる打撃、遙に痛烈なる壓迫をも排撃して雄々しく改造に邁進したのである。他國の行へるところ、獨り日本に於て行ひ難き道理は無い。至難なるにあらずして行はないのである。行はんと欲する意力を振り起さないのである。切言すれば改造に必要な智見、經綸、勇氣等を持合はせる爲政者に乏しく、そして爲政者を激勵すべき國民が冷然として之を傍觀し、或は誤れる方策に引きづられてゐるのである。斯くの如くにして國民更生の時機を期待するは彌勒の出現を待つより尙遠遠ではないか。

改造は決して屬僚政治の間から産れない。改造は又決して區々たる調査會や、紛々たる小田原評議に依つて行はれない。それは既に前に指摘した通りであつて、改造は一に國民の力強き要求に依つて具體化する。國論の喚起に依つてのみ實際化するのである。單なる政權獲得と其



の日暮しの小康を求むるもの、手に、若しも眞實の改造が行はれたとせば、そこに却つて驚異であらねばならぬ。故に國民は力強き輿論を作興して、其の要求を國民自らが收獲する外に途はない。國民の力強き輿論を體現するものは立憲政體に於ては政黨である。随つて力強き政黨を支持すると共に、その勢力を結成し奮起せしむることは、産業國策の達成を切要とする國民に取りて缺くべからざる前進的要件である。

勿論、之が爲には我が國民は今少しく理解を深めなければならぬ。國家の政治經濟が總て國民それ自身の財産と異るなく、其の如何なる政策も國民それ自身に買ひ取るべき運命の綱であることを、ヨリ明確に意識せねばならぬ。例へば市町村の最大重荷たる教育費を自ら負擔しながら、それが何等國民の實生活に交渉なき神社佛閣に對する如く考へられてゐる限り、今後の道程は尙長からざるを得ない。一年乃至四年に一回しか持合はざる總選舉の投票一枚限りを以て、國民參政の任務終了と思惟してゐる間は、到底雄邁なる政策は現はれない。總てが國民それ自らの政治であり、教育であり、外交であり、國防であり、財政經濟であることを秋毫の遺憾なく認識し體得するに至るまで、國家の政治が遊戯化し、散漫化し、無爲無能化するは寧ろ當然であり、單なる御役人の持物の如く取扱はるることも、亦蓋し已むを得ぬ成行きかも知れぬ。多くの新聞紙が盛んに官僚主義を排し、黨略政治を攻撃しつゝ、何かといへば大臣の椅子を禮讚して異常の敬意を寄せ、或は陳腐此の上もなき演説、祝辭、談話等を麗々しく紙上に躍らし、益々大臣病の發作を昂ぶらしめつゝあるが如き、是れ將た一般國民に今少しく賢明であれば必然其の跡を絶つてもあらう。そして眞實に政策に終始し、責任に進退する實力所有者のみが國家奉仕の爲に精進するである。

或は又言ふものあらん、産業國策の趣旨と緊要性は既に之を了せり。而かも我が國現下の憂患は經濟上の苦難に止らずして、別に國民思想の動もすれば危激に走らんとするを如何にすべきか、是れ國家の前途を案するものに取りて寧ろ物質問題以上の深憂にあらずやと。其の言、誠に然り。故に吾々は前に經濟國難と思想國難との因果的關係を説き、所謂思想の善導といひ、國民精神の作興といひ、或は左傾防止等の教化事業が、國民の實生活を離れて適確なる効果を奏し難きことを力説したのである。若しも思想が單なる倫理宗教の力を以て自由に左右し得らるるものたらば、釋迦、孔子、基督等の賢哲が出現した時に、世界は地上の天國とも樂園ともなつてゐるべき理である。少くとも孔孟の教への存在する限り、世に罪惡は種切れであるべき筈である。思想は思想を以て克服する。思想はそれ至言に相違ない。故に倫理も宗教も重要な役割を分擔すべきものであり、社會政策的施設の極めて緊切なるは言を俟たずと雖も、本來よりいへば思想が思想の範圍に動いてゐる間は何等問題では無いのである。思想が實生活に浸透し、實生活を震撼する迫力が持つに至つて其處に憂慮すべき事象が現はれるのである。故にこの場合に於ける思想問題は既に單なる思想問題で無くて、事實的には生活問題であることを知らねばならない。生活問題は主として衣食住の問題は即ち廣き意味に於ける政治問題であり、ヨリ精確には國民經濟の問題である。然るに其の國民經濟の問題を解決すべく倫理宗教の役目を以てする主なる責任を學校教育のみに負はしめ、或は僧侶宗教家等の説教に期待する。決して無意義無效果にあらざること勿論なるべしと雖も未だ之を以て足れりとするは出來ないのである。

繰り返していふが所謂思想問題の核心は胃の腑に在る。少くとも其の大部分は生活問題の反映である。随つて國民經濟に充實せば、生活環境に快適とならば、問題は自然に消滅する。如何なる危険思想が襲來するも、如何なる思想的小兒病者が發生するも、實は懼るに足らな



は何等問題では無いのである。思想が實生活に浸透し、實生活を震撼する迫力が持つに至つて其處に憂慮すべき事象が現はれるのである。故にこの場合に於ける思想問題は既に單なる思想問題で無くて、事實的には生活問題であることを知らねばならない。生活問題は主として衣食住の問題は即ち廣き意味に於ける政治問題であり、ヨリ精確には國民經濟の問題である。然るに其の國民經濟の問題を解決すべく倫理宗教の役目を以てする主なる責任を學校教育のみに負はしめ、或は僧侶宗教家等の説教に期待する。決して無意義無效果にあらざること勿論なるべしと雖も未だ之を以て足れりとする事は出来ないものである。

繰り返していふが所謂思想問題の核心は胃の腑に在る。少くとも其の大部分は生活問題の反映である。随つて國民經濟だに充實せば、生活環境だに快適とならば、問題は自然に消滅する。如何なる危険思想が襲來するも、如何なる思想的小兒病者が發生するも、實は懼るに足らないのである。故に思想問題の背景は常に經濟問題であり、若しも思想の動搖、混亂、悪化等を憂ふべしとせば、之が匡救策は何よりも先づ經濟界の萎靡、不景氣を退治することであり、殊に失業問題就職問題等を迅速に解決するの一事を急務としなければならぬ。それ故にこそ吾々は政治の經濟化を高調し、産業國策の確立と遂行とを切言するのである。

幸に本書の主旨とする改造案が國民の理解と共鳴とを得たならば、それは國民の全機構を産業國策に轉換集中するに在るを以て、爾今總ての組織と機關とは國民經濟の擴充、即ち産業の發展と統制との爲に妥當なる役割を責任づけられるのである。行政の運用、制度の組立て方が其の必要に適合すべく書き換へられるのである。總言せば文字通り政治が經濟化され、爲政者の全員が産業官となるであらう。苟くも國家公共の任務に従事するものは悉く産業國策の奉仕者となり、運轉手となるであらう。從來の如き形式的、規制的、御役所式の弊風は取り去られて實質的及精神的に其の建前を更新せらるゝであらう。産業爲本主義の國是、産業爲本主義の憲政、産業爲本主義の法治、産業爲本主義の外交、教育、國防、自治、而して産業爲本主義に徹底せる忠勇なる國民、それが吾々の熱心に翹望し期待して已まざる現實的理想境である。國難打開、國民經濟の建直しは、此の境地に前進し到達することに依つてのみ實際化するを疑はない。



養內閣

卷



昭和七年二月十五日 印刷  
昭和七年二月二十日 發行

東京府荏原郡碑衾町碑文谷三百三十七番地

編輯兼  
發行人  
藤 生 安 太 郎

東京市麴町區飯田町六丁目二十二番地

印刷人  
山 田 忠 義

東京市麴町區內山下町一丁目一番地

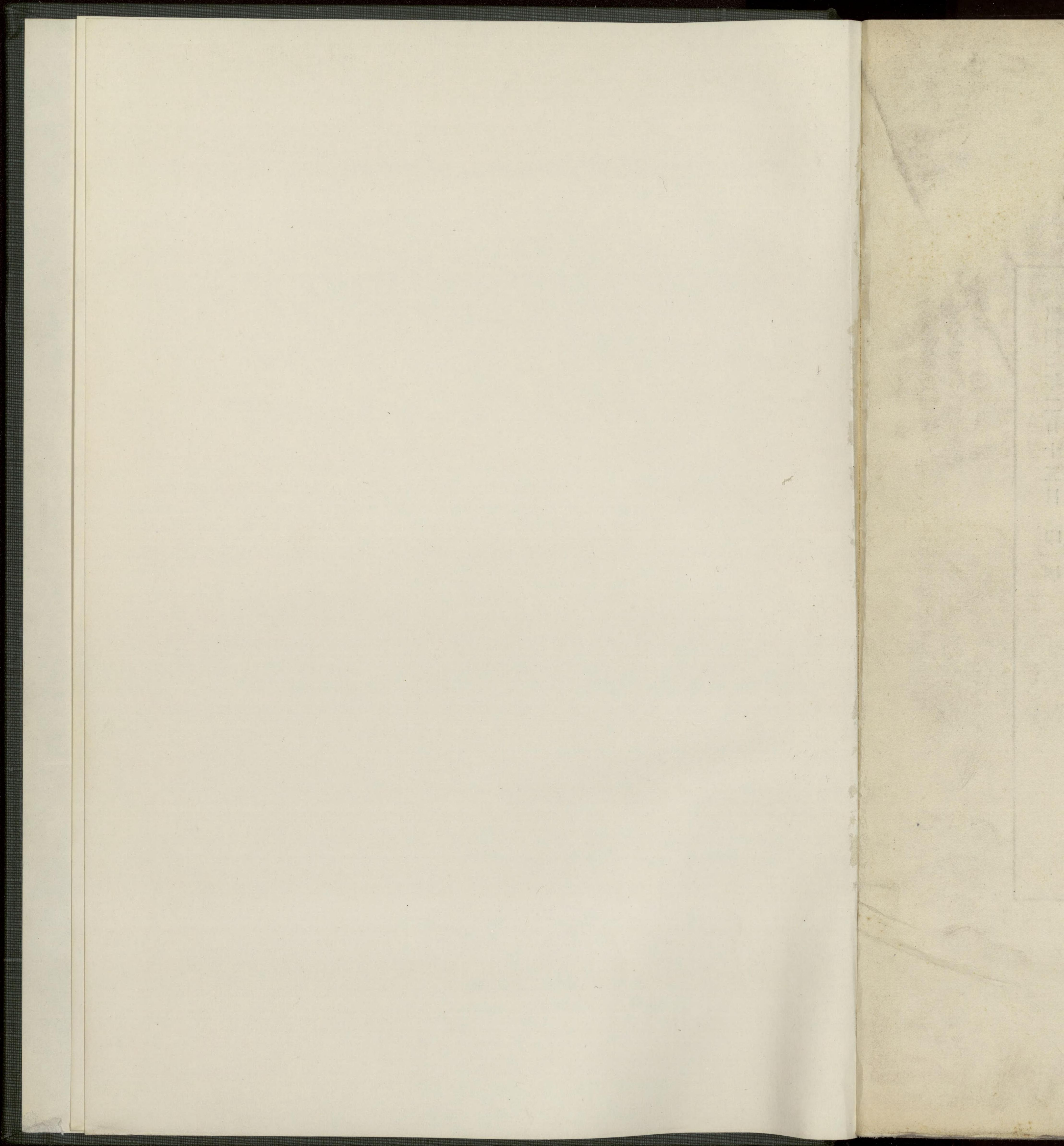
立憲政友會本部內

發行所  
犬養內閣編纂所

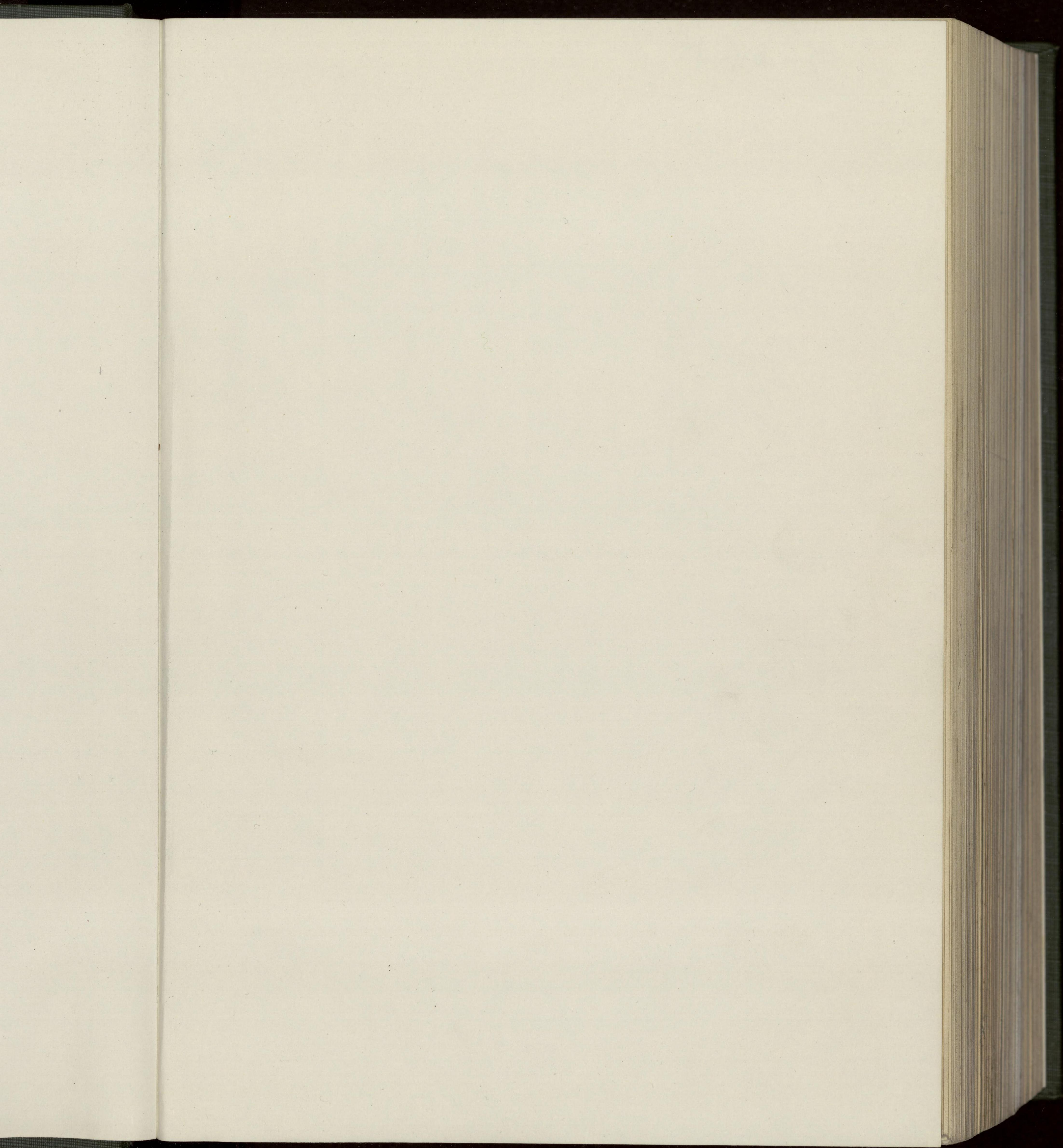




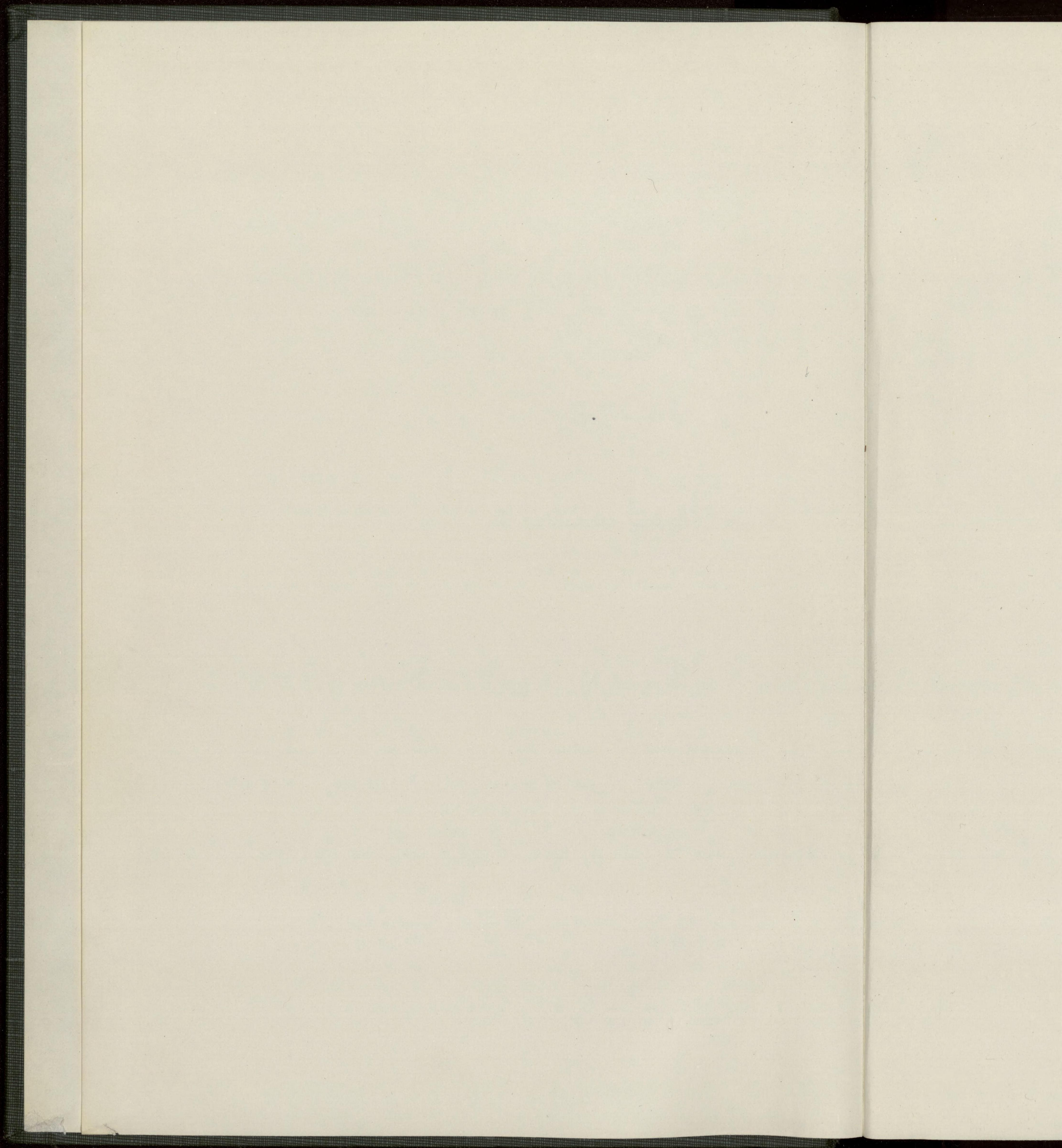




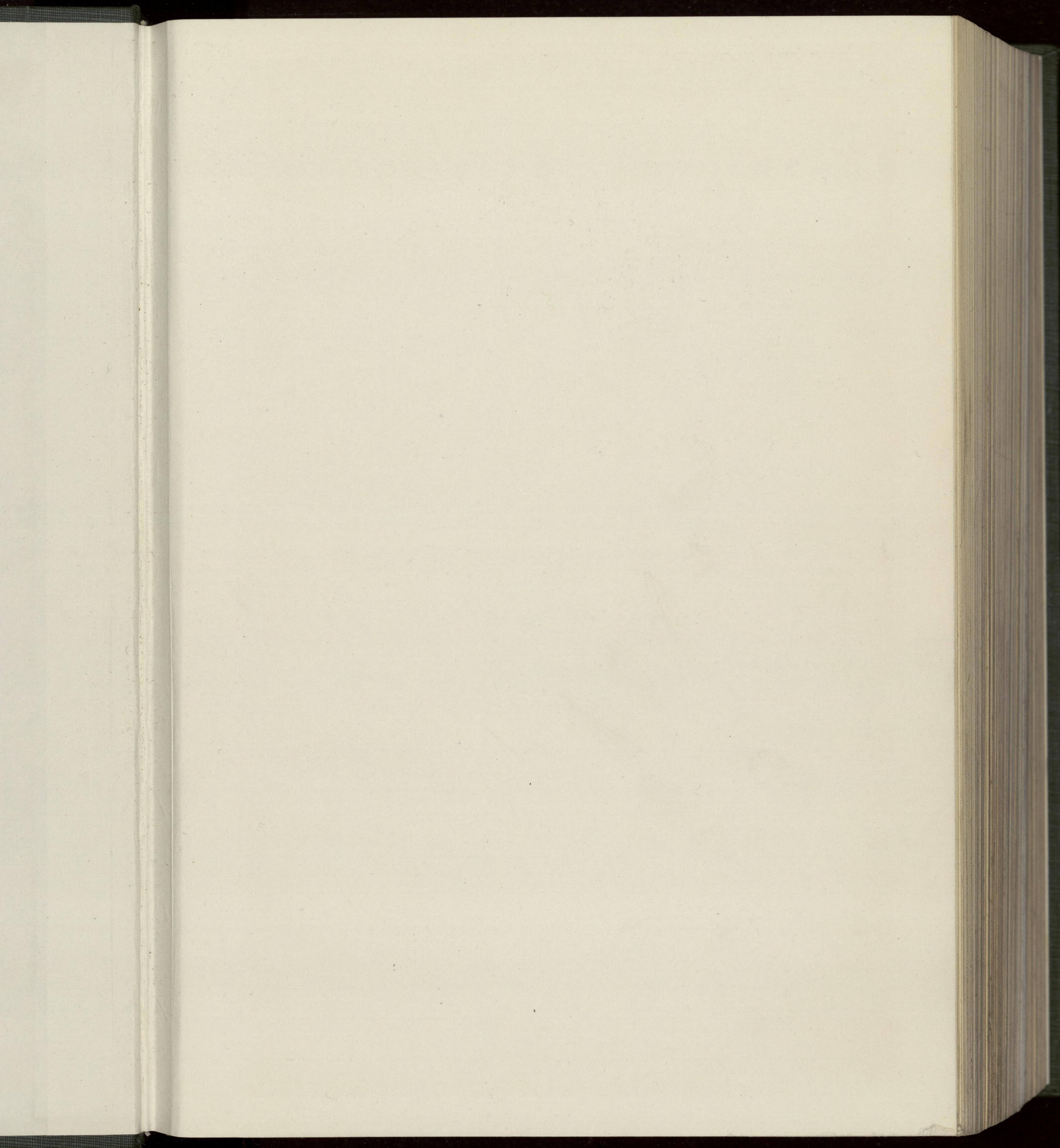




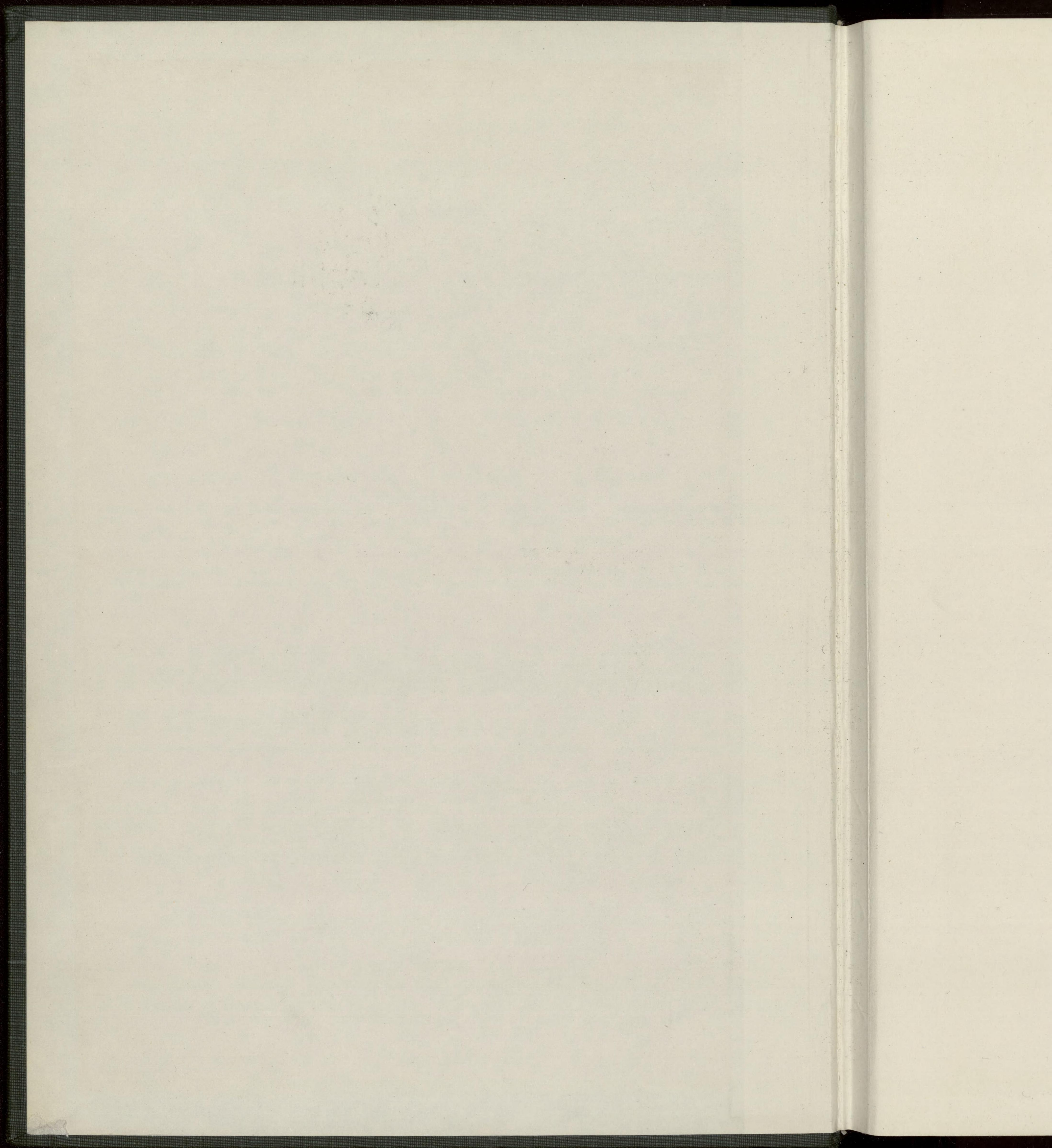




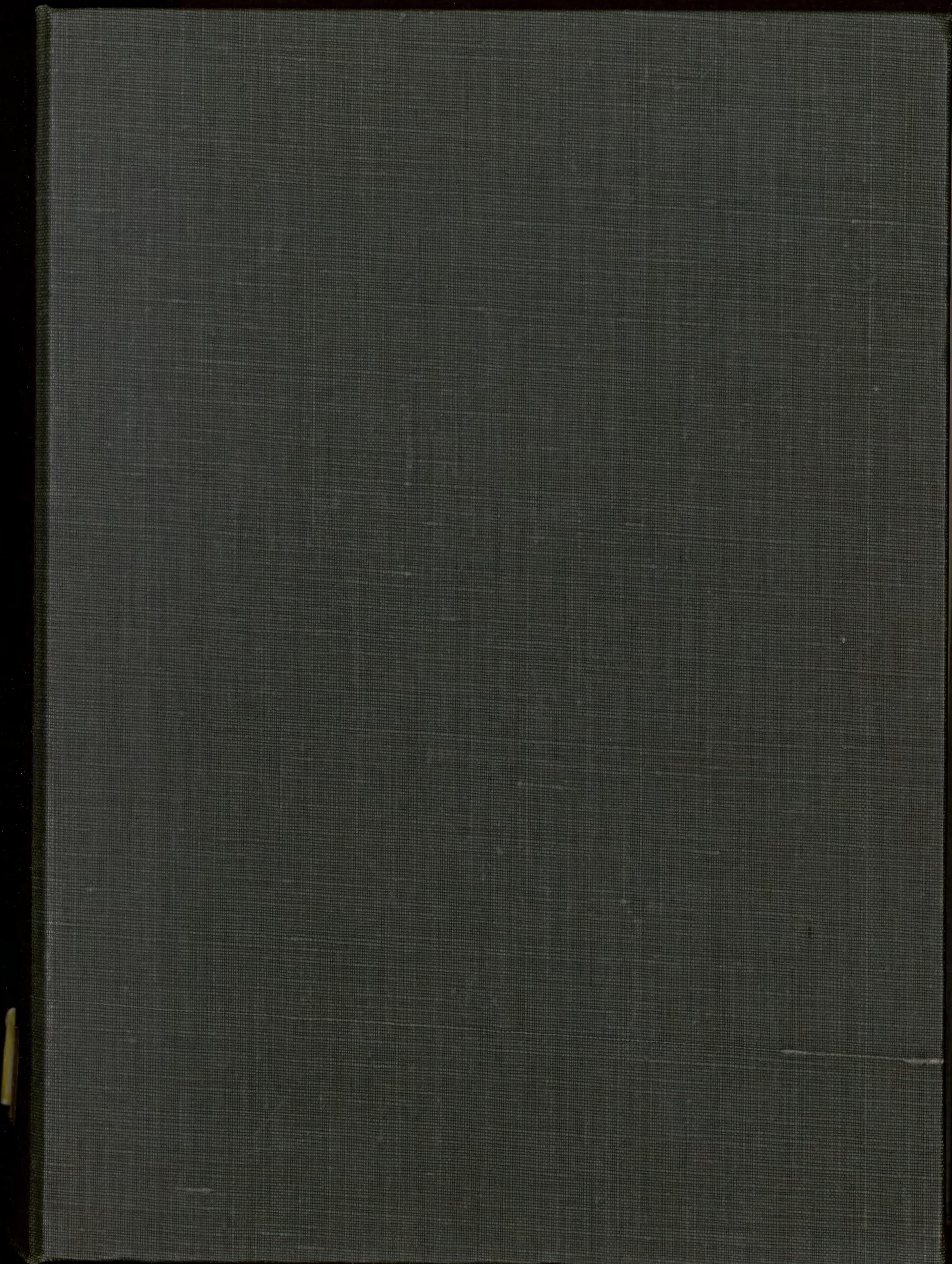














**Kodak Gray Scale**

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19

© Kodak, 2007 TM: Kodak



Inches 1 2 3 4 5 6 7 8

cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

**Kodak Color Control Patches**

© Kodak, 2007 TM: Kodak

